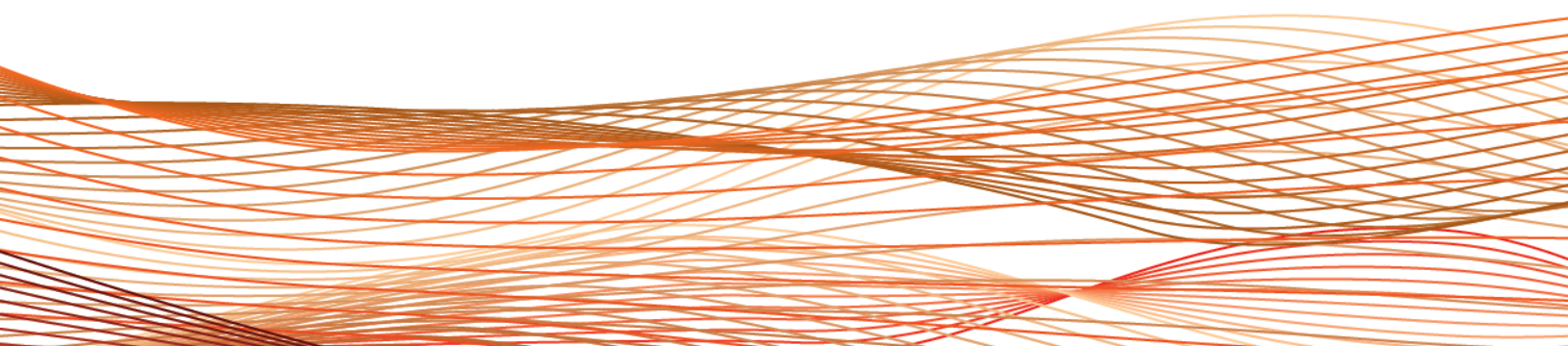




Extensis™
PORTFOLIO Server™

管理者ガイド



コピーライト

©2006-2012 Celartem, Inc., doing business as Extensis. 本書ならびに本書に記載されているソフトウェアは著作権保護の対象であり、無断複写・複製・転載が禁止されています。本書または本書に記載されているソフトウェアの全部または一部を、Extensis の書面による承諾なしに複製することはできません。ただし、ソフトウェアの通常の利用やソフトウェアのバックアップ作成は除きます。この例外であっても他者に対する複製は許可されません。登録済みおよび申請中の米国特許に基づいてライセンス化されています。

Extensis は Extensis の商標です。Extensis のロゴ、Extensis Library、Font Reserve、Font Reserve Server、Font Sense、Font Vault、NetMediaMAX、Portfolio、Portfolio Server、Suitcase、Suitcase Fusion、Universal Type、Universal Type Client、Universal Type Core は Extensis の商標です。FontSync、NetPublish、Portfolio NetPublish、Type Server、Universal Type Server、WebINK は Extensis の登録商標です。Celartem、Celartem, Inc.、Celartem のロゴは、Celartem, Inc. の商標です。Adobe、Acrobat、Illustrator、InCopy、InDesign、Photoshop、PostScript、XMP は Adobe Systems, Incorporated の商標です。Apple、AppleScript、Bonjour、Bonjour ロゴ、Mac OS、QuickTime、QuickTime ロゴ、Universal ロゴ、Xsan は、Apple Inc. の登録商標です。Microsoft、Internet Explorer、SQL Server、Windows、Windows Vista は Microsoft Corporation の登録商標です。Intel、Intel Core、Pentium、Xeon は Intel の登録商標です。Oracle、Java は Oracle と関連会社の登録商標です。Google は Google Inc の商標です。Apache Tika、Apache Tomcat、Tomcat は Apache Software Foundation の商標です。Quark、QuarkXPress、XTensions、QuarkXTensions は、Quark Inc. の商標です。IBM、DataMirror、PowerPC は International Business Machines Corporation の商標です。その他全ての商標は各社が所有しています。

オンデマンドイメージング、ビデオ変換と処理は MediaRich® プラットフォームで実行されています。MediaScript、MediaRich は Automated Media Processing Solutions, Inc., dba Equilibrium の商標または登録商標です。Copyright © 2004–2012. All Rights Reserved. 米国特許番号 6,792,575、6,964,009、他の特許は申請中です。

Extensis は、製品の購入日より 30 日間、通常の使用状況において、ソフトウェアが記録されているディスクに材質上および製造上の欠陥が無いことを保証します。製品を Extensis から直接購入し、30 日以内に障害が発生した場合、ディスクを Extensis に返送いただければ交換いたします。交換用に送付されたすべての製品は、交換の前に Extensis で登録する必要があります。販売店から購入した Extensis 製品は販売店によって保証され、販売店の返品規定の対象となります。この保証は交換に限定され、その他の損害を含みません。その他の損害には、利益の損失、特殊な要求、付随的な要求、その他の同様の要求などがありますが、これらに限定されるものではありません。本ソフトウェアは、「現状のまま」提供されます。上記の明示的な保証を除き、Extensis は、同梱のソフトウェアの品質、性能、商品性、または特定目的の適合性に関して、明示的または暗黙的を問わず他のいかなる保証もいたしません。



Portfolio Server 10.2.0

目次

コピーライト.....	2
目次.....	3
ようこそ.....	7
このリリースの新機能.....	8
前回バージョンまでの新機能.....	8
Portfolio 9.5 の新機能.....	9
アップデートノート.....	11
アップグレード方法.....	11
バージョン 9.5.x またはそれ以前からのアップデート.....	11
9.0.x または 9.1.x からのアップデート.....	11
既存のカタログの更新.....	12
既存のカタログからのユーザーのインポート.....	12
オートシンクおよびオートシンクフォルダ.....	12
Portfolio ネイティブカタログの更新.....	12
はじめに.....	14
Portfolio Server インストール概要.....	14
Portfolio Server のシステムの必要条件.....	15
Portfolio Server のインストール.....	15
Portfolio Server Admin アプリケーションを開く.....	17
Portfolio Server Admin アプリケーションを使う.....	18
管理者パスワードの変更.....	20
Portfolio Server のライセンス番号の入力.....	20
サーバーのステータス.....	22
Portfolio Server の起動、停止、再起動.....	22
ポート.....	23
管理ログ.....	32
カタログ.....	33
カタログの作成.....	33
画面プレビュー.....	34

画面プレビューの有効化	34
カタログの名前変更	35
カタログの種類	35
カタログの種類のカスタム作成	36
カタログをオフラインにする	37
カタログの削除	37
ユーザー	39
ユーザーの追加	39
新規ユーザーデフォルト	40
ユーザーのカタログメンバシップの付与	40
ユーザーアクセスレベル	41
アクセスレベルとウェブクライアント	41
アクセスレベルの設定	42
ユーザーの編集	42
ユーザーの削除	43
ディレクトリサービス	44
ディレクトリサービス概要	44
ディレクトリサービスの設定	45
ディレクトリサービスマッピングの表示と編集	45
Portfolio とディレクトリサービスの同期	48
ディレクトリサービス設定の削除	48
カタログの管理	49
カタログのカスタマイズ	49
オートシンク	50
Portfolio Server の管理	54
Portfolio Server のバックアップ	54
Portfolio Server とデータ処理のログ	57
設定ファイル	59
ウェブクライアントの管理	62
ウェブクライアントのデフォルト表示設定	62
クイック検索パラメータの設定	63
ウェブクライアントアクセスレベルの変更	65

ワークフォルダ	66
NetMediaMAX	67
NetMediaMAX と Web クライアント	67
NetMediaMAX と NetPublish	67
NetMediaMAX と API	67
NetMediaMAX と Media Engine クラスタ	67
NetMediaMAX の活用事例	68
NetMediaMAX インストール概要	71
NetMediaMAX システム必要条件	72
外部 Media Engines のインストール	72
Media Engines のネットワークアクセス	72
NetMediaMAX ライセンスの入力	73
外部 Media Engines の設定	74
Portfolio Server と外部 External Media エンジンの整合性	75
MediaScripts の作成	75
外部 Media Engines の再起動	79
Portfolio Enterprise Edition	80
SQL Connect	80
LDAP ユーザー管理と同期	80
Portfolio API	80
Portfolio Enterprise Edition の動作環境	80
Portfolio Enterprise Solution Pack のインストール	81
Mac OS X 上での MySQL の設定	82
Windows 上での MySQL の設定	90
Windows での SQL Sever 設定	92
Windows での Oracle 設定	93
Windows への ODBC ドライバのインストール	93
SQL データベースの公開	94
Portfolio SQL データベースのアップグレード	94
SQL データベース管理ツール	95

Portfolio Server API.....	99
用語集.....	100
Extensis の連絡.....	104
索引.....	105

ようこそ

Portfolio Server はパワフルで容易に実行できる、デジタル資産管理およびメディア配信ソリューションです。Portfolio Server はオープンで一元管理できるプラットフォームとして、デジタル資産の管理、自動化、正しい生成、アクセスおよび配信を行います。Portfolio のカタログによって、マルチチャネルのマーケティング、画像、フォト、ビデオ管理、ブランド管理、およびウェブベースのオンデマンドソリューションを容易に配備することができます。

Portfolio Server には、ブラウザで利用できるサーバー管理ウェブアプリケーションとウェブクライアント、Mac/Windows 用のデスクトップクライアント、Express アプリケーションが含まれています。

- サーバー管理アプリケーションでは、サーバー管理、カタログの作成、ユーザーアカウントの作成と管理、アクセス権が設定できます。
- Portfolio ウェブとデスクトップクライアントでは、カタログ内のアセット管理、アセットの追加、メタデータの適用、検索、様々なフォーマットに変換してのダウンロードなどを行えます。Portfolio Express アプリケーションでは、アプリケーションを超えてアセットをドラッグ&ドロップすることができます。

各アプリケーションには検索可能なオンラインヘルプが用意されています。ブラウザベースのサーバー管理とウェブクライアントは、ブラウザウィンドウの右上のヘルプをクリックしてください。デスクトップクライアントアプリケーションでは、ヘルプメニューからヘルプを開くことができます。

ヘルプページでは、画面左のパネルにコンテンツや目次が用意されています。また特定の用語を検索することもできます。また多くのページには関連トピックスへのリンクも用意されています。

Portfolio Server 管理

Portfolio Server Admin アプリケーションは、Flash が動くウェブブラウザで動きます。ネットワーク設定によってはネットワークのどこからでも Portfolio Server の管理が行えます。

Portfolio Server 管理アプリケーションでは：

- **ライセンス** : Portfolio Server にシリアル番号を入力します。
- **カタログ作成** : デジタルアセットを保存、検索、利用をするための設定
- **ユーザーアカウント作成**
- **ユーザーアクセス管理**
- **サーバー設定管理**

このリリースの新機能

Portfolio Server API

Portfolio Server のこのバージョンでは、新しいアプリケーションプログラミングインターフェイス (API) を提供しています。Portfolio カタログメタデータ、アセット、プレビュー、バッチ処理、他の Portfolio Server 機能とビジネスアプリケーションを統合するための簡単な開発を可能にします。ギャラリーの操作、アセットの変換、フィールドの編集などワークフローの自動化に利用できる機能が含まれています。API を利用するには Enterprise edition が必要です。開発者向けの developer Code Reference は Sever Admin アプリケーションから利用できます。

新規のファイル処理とメディアサポートの拡張

Portfolio Server と外部の Media Engine (MediaRich) でファイル処理レイヤーが新しく開発されました。この新しいモジュールにより、特に PDF や Office ドキュメントフォーマットのより高速で安定した環境を提供しています。

さらに新規カメラの RAW フォーマットやプロ向けのビデオコーデックなど多くのファイルフォーマットをサポートしました。新しいファイル処理レイヤーにより将来的にも新規ファイルフォーマットサポートにフレキシブルに対応できるようになっています。

Portfolio Server でこれらの機能が強化されたことによって、デスクトップクライアント、ウェブクライアント、NetPublish アプリケーションでもその恩恵を受けます。

前回バージョンまでの新機能

ディレクトリサービス (LDAP) インテグレーション

Portfolio Professional または Enterprise 版を利用している場合は、アクティブディレクトリやオープンディレクトリ (LDAP) サービスを使ってサーバーに接続することができます。

ディレクトリサービスのログイン名を使って Portfolio アカウントを作成することができ、ユーザーはネットワークログイン情報を使って Portfolio カタログにアクセスすることが可能です。

Enterprise ユーザーは、LDAP ユーザーやグループを Portfolio カタログにマッピングすることができます。また特定の LDAP ユーザーやグループをカタログから排除することもできます。

LDAP サポートの詳細は [ディレクトリサービス](#) を参照してください。

ビデオ

- ビデオが取り込まれると自動的にプレビュークリップを作成します。
- ウェブクライアント、デスクトップクライアントのどちらでもプレビューモードでプレビュークリップを再生できるようになりました。
- ウェブクライアントのスライドショーではビデオ全体の再生が可能です。
- Portfolio Server とクライアントでは、音声とビデオフォーマットの XMP メタデータの埋め込みと読み込みをサポートしました。
- NetMediaMAX では、ビデオを様々なフォーマットに変換してダウンロードできるようになりました。
- 複数の NetPublish テンプレートでビデオ再生とダウンロード機能がサポートされました。

オートシンク

オートシンクの処理がマルチスレッドに対応しました。カタログへの登録がより速くなりました。

NetMediaMAX では、オートシンクはメディアエンジンラスタを使って処理されるため、オートシンクのカタログ化はより速い処理が可能です。

ウェブクライアント

- すべてのウェブクライアントは、1 ページに 2、4、9、16 個の画像が配置されたコンタクトシートを PDF で生成することができるようになりました。
- カタログ管理者は、ウェブクライアント画面からカタログのデフォルトの表示設定をすることができます。
- それぞれのウェブクライアントユーザーの表示設定はサーバーに保存されるようになりました。これによってどのコンピュータやブラウザからアクセスしても同じ設定で利用できます。
- ウェブクライアントの多くの機能がショートカットメニューから利用できるようになりました。1 つまたは複数の画像を選択して右クリックすると、利用可能な機能がショートカットで表示されます。

コンタクトシート作成の詳細は、ヘルプシステムまたはウェブクライアントユーザーガイドを参照してください。

ウェブクライアントのデフォルト表示設定についての詳細は、[ウェブクライアントのデフォルト表示設定](#)を参照してください。

保存されているクライアント設定の詳細は、[保存されている設定](#)を参照してください。

Portfolio 9.5 の新機能

Portfolio 9.5 で追加された機能

サーバー

- **Studio スタジオ版** : Portfolio Server のスタンダードな利用よりも、小さなワークフローで利用したり、これからデジタルアセット管理を始めるのに最適な、**Portfolio Server スタジオエディション**をご用意しました。このエディションは、同時に開けるカタログが1つで、同時にアクセスできるクライアントが3名までとなっています。デスクトップクライアント、ウェブクライアントの両方を利用することができますが、同時に開けるクライアントを追加したり、NetPublish や NetMediaMAX などのオプションを追加することはできません（カタログを複数作成したり、ユーザーアカウントを3人以上設定することは可能です。同時に接続する数が限定されるだけです）。
- **SQL Connect component** : Enterprise Solution Pack に含まれる SQL Connect コンポーネントを利用すると、何種類かの高性能データベースシステムを利用して、大きく、高速なカタログを設定することができます。接続できるデータベースシステムは以下のものです：
 - MySQL 5.1 (Mac and Windows)
 - Microsoft SQL Server 2005 and 2008 (Windows)
 - Oracle 10gR2 and 11gR1 (Windows)

詳細は、[Portfolio Enterprise Edition](#)を参照してください。

- **セットアップ** : サーバーの設定がよりシンプルになりました。起動してから利用するまで数分で実行できます：
 - 既存のカタログに新規ユーザーを自動的に追加されます。
 - 新規カタログ作成時にプレビューとオートシンクフォルダが自動的に作成されます。
 - プレビューオプションの設定が簡単になりました。
 - 新規カタログにはカタログ管理者としてサーバー管理者が自動的に追加されます。
- **スピード** : カタログへの接続、カタログを開く、ファイルを登録する、オートシンク、アセットのプレビュー、検索&クイック検索、サーバーの自動処理などが高速化されました。
- **システムログ** : システムのログオプションとログコンテンツがより充実され、簡単にアクセスできるようになりました。
- **接続ユーザー** : Portfolio Server Admin アプリケーションで接続ユーザーの情報をより多く表示できるようになりました。
- **設定チェックリスト** : Portfolio Server に新しいシリアル番号を入力すると、設定ボタンが表示され、必要な作業のチェックリストが表示されます。

ウェブクライアント

- **フラグ付け**：ギャラリーを作成したり、アイテムを移動する前にアセットに印をつけることができます。
- **“作成者”オーガナイザ**：接続中のユーザーが登録したアセットを表示できます。
- **単体アイテムのダウンロード**：圧縮の不要な一つだけのアイテムをダウンロードできます。
- **単体アイテムの名前変更**：バッチ処理での変更だけでなく、プロパティパネルで単体のファイル名を変更することができます。
- **メニューのシンプル化**：メインのメニューがシンプルになりました。
- **キーボードショートカットとショートカットメニュー**：よく使う機能はキーボードショートカットが利用できるようになりました。またアイテム上で右クリックしてオプションを利用できます。
- **ログインの簡易化**：単体カタログのユーザーは、カタログが自動的に開いて最初のページが表示されます。
- **前回のユーザーを記憶**：ブラウザでユーザー名、言語、ギャラリー表示、ページサイズ、パネル表示などの最後のユーザー設定を記憶させることができます。新規に接続する際に画面の設定に時間を使う必要がありません。
- **プレビューモード**：新しいプレビューモードでは、画面サイズに1つの画像を表示したり、表示位置の移動や拡大、ダウンロードもワンクリックで行えます。
- **プレビューのストリーミング**：プレビューファイルが保存されている場所へアクセスをする必要がなくなりました。Portfolio Server がクライアントにプレビューを提供し、特別なネットワークアクセスやアクセス権を気にする必要なく高品質のプレビューを表示します。

デスクトップクライアント

- **シリアルナンバー**：デスクトップクライアントではシリアル番号について考える必要がなくなりました。
- **プレビューのストリーミング**：プレビューファイルが保存されている場所へアクセスをする必要がなくなりました。Portfolio Server がクライアントにプレビューを提供し、特別なネットワークアクセスやアクセス権を気にする必要なく高品質のプレビューを表示します。
- **ログイン**：ログインが簡単になり、再接続は自動で実行されます。
- **メタデータ**：サポートファイルのメタデータに埋め込みできます。

ワークフロー

- **Adobe DNG サポート**：Adobe の変換テクノロジーで、多くの RAW ファイルや TIFF ファイルを Adobe Digital Negative (DNG) フォーマットに変換できます。
- **メタデータ**：Microsoft Office 書類内の一般的なメタデータ、標準的なメタデータ、Adobe DNG ファイル内の XMP メタデータをサポートしました。
- **ローカルメディア**：リムーバブルメディア (CD や DVD、USB など) からカタログに登録することができます。これらのメディアがオフラインの状態でもプレビューや検索が可能です。
- **ギャラリー**：管理者はカタログに対してパブリッシャー権限が無いユーザーに公開・非公開ギャラリーの作成、アップデート、削除できるように設定できます。

アップデートノート

既存の Portfolio Server からアップデートする場合は、以下の点が変更になっていることに注意してください。

アップグレード方法

Portfolio 9.0、9.1、9.5 からアップグレードする：

1. **既存のカタログの更新**を参照してください。
2. Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
3. サーバーを停止します。
4. ブラウザを閉じます。
5. Portfolio Server 10 をインストールします。*Portfolio Server インストール概要*を参照してください。

バージョン 9.5.x またはそれ以前からのアップデート

ウェブクライアントの表示

ウェブクライアントユーザーの表示設定は、各クライアントマシン内ではなく、Portfolio Server 内に保存されています。これによってどのコンピュータからログインしても一貫した環境で利用できるようになっています。Portfolio Server のアップデートを実行すると、各クライアントが保存した個別の表示設定ではなく、デフォルトの表示設定に戻ります。

デスクトップクライアントを使わずに、ウェブクライアントを使ってデフォルトのウェブクライアント表示設定を行うことができ、設定した表示をすぐに確認することができます。

ウェブクライアントのデフォルト表示設定についての詳細は、[ウェブクライアントのデフォルト表示設定](#)

NetPublish テンプレートのアップデート

NetPublish テンプレートにビデオ再生の検索機能が追加されています。新しいテンプレートを使ってサイトを再書き出しすることができます。

9.0.x または 9.1.x からのアップデート

9.0.x または 9.1.x からアップデートする場合は、上記に加えて Portfolio 9.5 で追加された以下の機能を把握してください。

- ストリーミングプレビュー機能により、プレビューが保存されている場所へのダイレクトアクセスは必要ありません。
- Portfolio ウェブクライアントで複数のアイテムにフラグを立てられます。
- ウェブクライアントの表示モードで、アイテムの全画面表示とスライドショーが表示できます。
- Microsoft Office ファイル内のメタデータサポートが向上しています。Word や Excel、Power Point ドキュメントを再取り込みする必要があります。

既存のカタログの更新

Portfolio Server では、既存のカタログを新しいサーバーで使用するために更新できます。Portfolio Server のファイルセットおよびネットワークロケーションが以前の Portfolio Server の実装から変更されていない場合は、この更新はエンドユーザーにとってはシームレスに行われます。

既存のカタログからのユーザーのインポート

ユーザーベースのカタログ

(9.0 以前のバージョンではユーザーアカウントはカタログ内に保存されます)

ユーザーベースのカタログを更新すると、以前のユーザーがサーバーに自動的に追加されます。これらのユーザーには、更新されたカタログに対するメンバシップが、以前のユーザーレベルのもとで付与されます。このユーザーの転送は、Portfolio Server でカタログが提供される場合にのみ行われます。

ディレクトリサービスを使ってユーザーアカウントの削除と再登録が行えます。詳しくは [ディレクトリサービス](#) を参照してください。

注意: プライベートギャラリーを持ったユーザーを削除すると、プライベートギャラリーも削除されます。

アクセスベースのカタログ

(アクセスレベルのアクセスは、9.0 以前のバージョンでのみ利用できます)

ユーザーがアクセスレベルとパスワードを使用してカタログにアクセスする場合は、それらのユーザーが更新されたカタログにアクセスできるようにするために、それぞれのカタログにユーザーを追加する必要があります。たとえば、ユーザーが以前は **発行者** のアクセスレベルを選択し、この発行者のアクセスレベル専用のパスワードを入力していた場合は、これらの個々のユーザーに対して固有のユーザー名およびパスワードを入力する必要があります。アクセスレベルによるアクセスは、Portfolio 9 ではサポートされません。

オートシンクおよびオートシンクフォルダ

カタログの中にオートシンクの監視フォルダがあり、カタログを Portfolio Server 10 に更新する際には、これらの監視フォルダをオートシンクフォルダとして再度追加する必要があります。カタログが更新されると、すべてのアイテムはカタログ内に残りますが、元のファイルにアクセスできるようにするには、監視フォルダをオートシンクフォルダとして再度追加する必要があります。詳細は、[オートシンク 50 ページ](#)のを参照してください。

Portfolio ネイティブカタログの更新

Portfolio の以前のバージョンからのカタログを使用し続けるには、新しいサーバーで使用するためにネイティブの .fdb カタログファイルを更新する必要があります。

既存の Portfolio 8.5 カタログの更新方法:

1. カタログファイルのバックアップを作成します。
2. カタログ.fdb ファイルを、Portfolio Server がインストールされている次の場所にコピーします。
Macintosh : /アプリケーション/Extensis/Portfolio Server/applications/native-server/Catalogs/
Windows : \Program Files\Extensis\Portfolio Server\applications\native-server\Catalogs\
3. Portfolio Server を再起動します。

プレビューファイルおよび Portfolio 共有カタログ

低解像度の画面プレビューを含むカタログを更新する場合は、プレビューへのネットワークパスが変更されない限り、既存のプレビューファイルを保持するのにその他の手順は必要ありません。

プレビューの場所がネットワークパスではアクセスできない場合は、サーバーがアクセス可能な共有に該当するプレビューを移動し、Portfolio Server Admin アプリケーションの中で新しいネットワークロケーションへのパスを更新します。

プレビューディレクトリのネットワークロケーションが変更された場合は、Portfolio Server にカタログを通常どおりに追加し、プレビューディレクトリの新しいネットワークロケーションを指定します。

Portfolio Server によるカタログ内のアセットへの既存のプレビューディレクトリのリンクが失敗する場合は、Portfolio Server にカタログ用のプレビューファイルを再作成させる必要があります。

カタログの画面プレビューを再作成するには：

1. Portfolio Server Admin アプリケーションを使用して、カタログ用の画面プレビューを有効化します。詳細は、**画面プレビューを有効化** 34 ページのを参照してください。
2. Portfolio デスクトップクライアントを使用してカタログに接続します。
3. 任意のギャラリー内で、プレビューを再作成するためにアイテムを選択します。すべてのアイテムに対してプレビューを再作成するには、すべてのアイテムギャラリーを選択し、メインウィンドウで任意のアイテムを選択してから、Ctrl+A (Win) または Command+A (Mac) を押して、カタログ内のすべてのアイテムを選択します。
4. **アイテム>サムネールの再作成**を選択します。サムネールを再作成するプロセスで、新しい画面プレビューファイルが作成されます。

はじめに

Portfolio Serverインストール概要

Portfolio Server のインストールおよび設定に必要な手順の総括を説明します。

- 1. システムの必要条件を確認します。**

以下のサイトでサーバー、デスクトップそれぞれの最新情報を確認してください。
動作環境：<http://www.extensis.com/support/product-support/portfolio-server-10/>
- 2. サーバーに必要なソフトウェアをインストールします。**

サーバーに QuickTime をインストールする必要があります。また Adobe DNG フォーマットへの書き出しを行う場合には、Adobe DNG Converter をインストールします。
Macintosh ユーザー：これらのソフトウェアをインストールする場合は、Portfolio Server をインストールして利用するのと同じアカウントでコンピュータにログインして行う必要があります。
- 3. ファイアウォール設定を確認します。**

サーバーとクライアントユーザーの間にファイアウォールがある場合には、Portfolio Server がクライアントとコミュニケーションできるように、ファイアウォールにいくつかのポートを開ける必要があります。ファイアウォールがサーバー内にある場合は、ネットワーク上の他のコンピュータがアクセスできるように必要なポートを開けてください。ファイアウォールがネットワークとインターネットの間にある場合は、ネットワーク外のユーザーがサーバーにアクセスできるようにポートを開けてください。
ポートを開ける作業は Portfolio Server のインストールより前に行ってください。
- 4. Portfolio Server をインストールします。**

Windows ユーザー：ドメインユーザーオプションかローカルシステムアカウントオプションのどちらを利用するかを事前に決定する必要があります。
Macintosh ユーザー：Portfolio Server をインストールする場合は、OpenOffice.org や Adobe DNG Converter をインストールしたのと同じアカウントでコンピュータにログインして行う必要があります。
詳細は *Portfolio Server のインストール* 15 ページのを参照してください。
- 5. Portfolio Server のシリアル番号を入力します。**

詳細は *シリアル番号の入力* 20 ページのを参照してください。
- 6. カタログを作成します。**

詳細は *カタログの作成* 33 ページのを参照してください。
- 7. ユーザーを追加します。**

Portfolio ユーザーアカウントを作成して、カタログへアクセスできるユーザー権限を設定します。
Portfolio アカウントの作成についての詳細は *ユーザーの追加* 39 ページのを参照してください。
Portfolio のためのディレクトリサービスアカウントについての詳細は *ディレクトリサービス* 44 ページのを参照してください。
- 8. Portfolio デスクトップクライアントをインストールします。**

デスクトップクライアントにはいくつかのカタログ管理機能が搭載されています。サーバーマシンに Portfolio デスクトップクライアントをインストールしておく、サーバーマシンから直接設定が可能です。
Portfolio CD または DVD 内、もしくは Extensis ウェブサイト (<http://www.extensis.com/support/product-support/portfolio-server-10/>) からインストーラをダウンロードすることができます。
- 9. クライアントからカタログに接続します。**

サポートしているブラウザを使ってウェブクライアントから接続することもできます。またはデスクトップクライアントアプリケーションをインストールします。

インストールが完了したら、Portfolio デスクトップクライアントを使って、ワークフローにあわせて以下のような調整が可能です。

- カスタムフィールドの作成やデフォルトフィールドの設定を行います。
- カスタムメタデータマッピングを設定します。
- カタログ作成オプション設定を作成して同期フォルダに適用します。
- マスターキーワードリストを作成します。

詳細は *Portfolio* デスクトップクライアントユーザーガイドまたはヘルプを参照してください。

Portfolio Serverのシステムの必要条件

最新の情報は、Extensis のウェブサイトでご確認ください：

<http://www.extensis.com/support/product-support/portfolio-server-10/>

または国内販売代理店のサイトをご覧ください：

<http://www.swtoo.com/product/extensis/>

Portfolio Serverのインストール

Windows へのインストール

Portfolio Server のインストールは素早く簡単に行えます。サーバーにインストーラをダウンロードして、それをダブルクリックし、後はインストーラのガイドに従います。

Windows でのインストールプロセスの間、オプションでドメインユーザーアカウントを入力するか、ローカルシステムアカウントでインストールするか決めるように要求されます。

インストールが完了すると、ご利用のウェブブラウザが自動的に起動して Portfolio Server Admin アプリケーションが開きます。

ドメインユーザーアカウントオプション

Portfolio Server をインストールするのに推奨される方法としては、Portfolio Server のサービス (Portfolio Server、Portfolio Server Admin) を実行するのに使用するユーザー名とパスワードを利用します。

ドメインユーザーアカウントを入力する場合、カタログの対象となり、Portfolio Server のユーザーが利用できるようにするためのファイル (プレビューを含む) を含んでいるすべてのネットワークロケーションに対して、そのアカウントが完全な読み取り/書き込みを行うアクセス権限をあらかじめもっている必要があります。

このアカウントは、Portfolio Server のプログラムディレクトリやシステムファイルを完全に制御できるように、ローカルの管理者グループのメンバでもある必要があります。

さらに、アカウントが Windows サービスとして実行されるためには、ローカル セキュリティ ポリシーコンソールの中でサービスとしてログオン特権を与えられる必要があります。このオプションを利用するには、ドメインユーザーアカウント (できれば、Portfolio Server サービス専用のアカウント) を作成し、Portfolio Server のインストーラを実行する前に、そのアクセスを設定する必要があります。

注意：

通常、ドメインユーザーアカウントは、ユーザーにパスワードの変更を頻繁に要求するシステムポリシーに従います。このオプションを使用する場合、使用するアカウントがこのポリシーに制約されないようにしてください。そうしないと、パスワードがサービスの認証に失敗し、サーバーコンソールでパスワードの変更に対処するまで Portfolio Server が動作しません。

ローカルシステムアカウントオプション

Windows システム上の Portfolio Server に、カタログの対象となり Portfolio Server のユーザーが利用できるようにするためのファイルがすべて含まれている場合は、ネットワークアクセス用にドメインユーザーアカウントを設定する必要はありません。単に、ローカルシステムオプションを選択します。

Macintosh へのインストール

Portfolio Server のインストールは素早く簡単に行えます。サーバーにインストーラをダウンロードして、それをダブルクリックし、後は、インストーラのガイドに従います。

インストールが完了すると、ご利用のウェブブラウザが自動的に起動して Portfolio Server Admin アプリケーションが開きます。

Macintosh へのインストールの際に考慮すること

Mac OS X では、Portfolio Server はインストールの際にユーザーとしてログインする必要があります。ユーザーアカウントは、カタログに登録したファイルが置かれているすべてのネットワークロケーションに対して読み/書きのアクセス権を持っている必要があります。

そのほかの注意点：

- リモートボリュームをマウントしてカタログ化したい場合は、Portfolio Server が継続的にこのボリュームにアクセスできるように、これらのコンピュータにログインし続ける必要があります（コンピュータスクリーンはロックしても大丈夫です）。
- Macintosh のデスクトップクライアントから、Macintosh 上の Portfolio Server に接続する場合は、Portfolio Server と同じリモートボリュームをマウントする必要があります。これによってクライアントとサーバーシステムがアセットとプレビューに対して同じディレクトリパスを持つことができます。
- Portfolio Server がポート 80 と 443 を利用するように設定している場合には、他の Web サーバーは使用停止にしたほうが良いでしょう。Mac OS X Server では、デフォルトの Web サーバーは Server Admin utility (OS X Server v 10.5) または Server Preferences application (OS X Server v 10.6) から停止できます。Mac OS X では、システム環境設定内で Web 共有のチェックが外れていることを確認してください。

Web クライアントポート

デフォルトでは、Portfolio Server は、Web クライアント用のポートに 8090 と 9443 (SSL 用) を利用します。多くの場合、この設定を変更する必要はありません。しかし、もし 1024 より低い数値に変更する場合には、Portfolio Server をルートユーザーアカウント以下にインストールする必要があります。

Mac OS X のサーバーバージョン以外を利用する場合は、デフォルトではルートユーザーは利用できません。ルートユーザーを利用可能にするには、以下のサイトを参照してください：

http://support.apple.com/kb/HT1528?viewlocale=ja_JP

Mac OS X Server では、デフォルトでルートユーザーが利用できます。

アンインストール

Windows で Portfolio Server をアンインストールする場合は、コントロールパネルを開いて、プログラム設定 (Windows Vista、Windows 7)、またはプログラムの追加と削除 (Windows XP) 内の Portfolio Server を選択してからアンインストール (Vista/7)、または変更と削除 (XP) をクリックして、画面の指示に従います。

Macintosh では、以下の場所にあるアンインストーラをダブルクリックしてください：

/アプリケーション/Extensis/Portfolio Server/applications/Uninstaller/Portfolio Server 9.5
Uninstaller.pkg

インストーラのガイドに従います。

Portfolio Server Adminアプリケーションを開く

Portfolio Server Admin アプリケーションは、ブラウザベースの Flash アプリケーションです。Flash プラグインがインストールされたウェブブラウザで開くことができます。

Portfolio Server のインストーラでは、ウェブブラウザを起動してこのアプリケーションを起動する特別なアプリケーションが追加されます。Portfolio Server Admin ショートカットを使って起動するのは異なり、起動する際に、Portfolio 管理ポート情報を入手して起動します。デフォルトの管理ポートを変更した場合には、アプリケーションは利用できますがブックマークは切れてしまいます。

Portfolio Server Admin ランチャーを使うにはデスクトップにある **Portfolio Server Admin** アイコンをダブルクリックします。

注意：

Portfolio Server Admin ランチャーは、同じコンピュータ上にある Portfolio Server を見に行くので、ランチャーアプリケーションを他のコンピュータにコピーすると利用できません。

Portfolio Server Admin アプリケーションを開くには：

1. サポートされているウェブブラウザを開きます。
2. アドレスのフィールドに、サーバーの IP アドレス、コロン、ポート番号の順に入力します。デフォルトのサーバー管理ポートは、8091 です（JBoss HTTP /ウェブサービスポートとも呼ばれる）。
例：http://192.168.0.1:8091 または http://localhost:8091
3. 管理者のユーザーおよびパスワードを入力します。デフォルトの管理者ユーザー名およびパスワードは、**administrator** および **password** です。

注意：

インストール後、できるかぎり速やかに管理者パスワードを変更することが重要です。

安全に接続する

Server Admin アプリケーションに SSL を使って安全に接続することもできます。これによってサーバーとブラウザ間が暗号化されたやり取りになります。

注意：

Portfolio Server は、安全な (SSL) 接続のためのデフォルト、自己署名されたセキュリティ証明書を含みます。このセキュリティ証明書は、ユーザーが独自にカスタム証明書を入手することなく、Portfolio Server 管理インターフェイス (Web) との安全な接続を可能とします。デフォルトのセキュリティ証明書を利用して接続を行う場合、ブラウザ上でいくつかのセキュリティの警告が表示されます。これらの警告は、自己署名されたセキュリティ証明書の内容を示しますが、Portfolio Server との安全な接続関係を作成することができます。ほとんどのブラウザは、ユーザーがセキュリティ例外を記録するか、自己署名されたセキュリティ証明書を信頼することができる機能を持っています。これによって、それ以降に警告が表示されることを回避することができます。詳細は、ご利用のブラウザのドキュメントをご覧ください。

Server Admin アプリケーションを安全に接続するには：

1. サポートされているウェブブラウザを開きます。
2. アドレスのフィールドに、サーバーの IP アドレス、セキュアポートを入力します (Jetty Web App HTTPS ポート)。デフォルトのサーバー管理ポートは、9453 です。
例：http://192.168.0.1:9453 または http://localhost:9453
3. 管理者のユーザーおよびパスワードを入力します。

言語の設定を変える

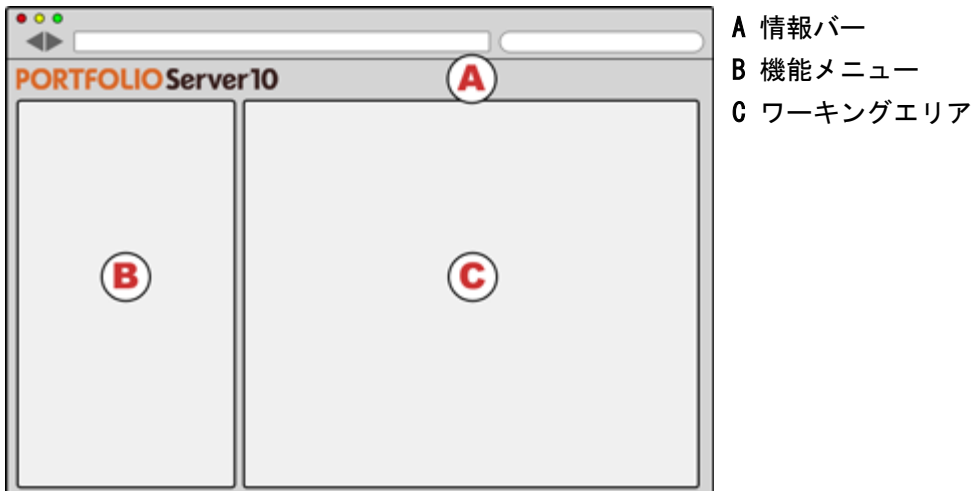
ログインページの言語ドロップダウンメニューから Portfolio Server Admin アプリケーションの表示言語を設定することができます。Portfolio Server Admin アプリケーションでは、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、日本語をサポートしています。

言語の設定を変える：

1. Portfolio Server Admin アプリケーションをログアウトします。
2. メニューから表示言語を選択してログインします。

Portfolio Server Admin アプリケーションを使う

Portfolio Server Admin アプリケーションはブラウザで開きます。ユーザーインターフェイスは3つのセクションに分かれています。上部に情報バー、左側に機能メニュー、右側にワーキングエリアが表示されます。



Portfolio Server Admin アプリケーションの利用については、[Portfolio Server Admin アプリケーションを開く](#)

情報バー

情報バーには、ログアウトとヘルプシステムへのリンクが用意されています。

- 右上にあるログアウトをクリックすると、Portfolio Server Admin アプリケーションからログアウトします。
- ログアウトの左側にあるヘルプをクリックすると、新規ブラウザウィンドウ内で Portfolio Server Admin アプリケーションヘルプが開きます。

機能メニュー

機能メニューからは Portfolio Server Admin アプリケーションの主な機能にアクセスできます。メニューのいずれかをクリックすると、ワーキングエリアにその内容が表示されます。

ステータス

ステータスで設定できること：

- Portfolio Server の起動、停止、再起動
- Portfolio Server のバージョン、Media Engine のバージョン、ユーザー接続情報
- 管理ログの表示と消去

カタログ

カタログで設定できること：

- カタログの作成、削除、カタログをオフラインにする
- メンバシップの付与またはカタログのメンバシップの取り消し
- カタログの MediaScripts の利用可能／停止（この機能は NetMediaMAX ソリューションパックを利用の場合のみ）
- カタログプレビューの詳細設定
- カタログ名の変更

ユーザー

ユーザーで設定できること：

- Portfolio ユーザーアカウントの追加、編集、削除
- Professional／Enterprise バージョンユーザーはディレクトリサービスを使った認証でユーザーアカウントを作成することができます。

Enterprise ユーザーは、ディレクトリサービスエリアからユーザーアカウントをマッピングすることができます。

ポート

ポートでは、他のコンポーネントと接続するために Portfolio Server が使うポートの表示と変更が行えます。

ライセンス

ライセンスエリアでは、Portfolio Server、Enterprise Solution Pack、NetMediaMAX Solution Pack のライセンスの追加と解除が行えます。

メディアエンジン

（この機能は Portfolio NetMediaMAX Solution Pack がインストールされている時のみ利用できます）

メディアエンジンでは、Media Engines の追加、編集、削除、停止が行えます。

ディレクトリサービス

（この機能は Portfolio Server Professional と Portfolio Enterprise Solution Pack がインストールされている時のみ利用できます）

ディレクトリサービスエリアでは、LDAP ディレクトリサービスと Portfolio Server の接続設定を行います。Windows では Active Directory、Mac OS X では Open Directory になります。

Portfolio Server Professional ユーザーは、LDAP ユーザーアカウント自動認証で Portfolio ユーザーアカウントを作成することができます。Enterprise Solution Pack ユーザーは、ディレクトリサービスのユーザーとグループを Portfolio カタログにマップすることができます。

アクセスレベル

アクセスレベルエリアでは、各アクセスレベルでウェブクライアントユーザーが行える操作の設定が行えます。

グローバル設定

グローバル設定で設定できること：

- カタログに追加される新規ユーザーのデフォルトアクセスレベル
- オートシンクフォルダのデフォルト作成の設定とその場所
- プレビューオプションの設定とその場所
- Portfolio Server の一時作業フォルダの設定
- Portfolio ログファイルのレベル設定、保存するログ数、保存場所の設定

管理者パスワードの変更

最適なセキュリティを得るために、インストール後、できるかぎり速やかにサーバー管理者のパスワードを変更することが重要です。これにより、不正なユーザーがサーバー設定を変更できないようになります。

管理者パスワードを変更するには：

1. Portfolio Server Admin Web アプリケーションを開き、administrator でログインします。
2. メインメニューから、ユーザーリンクをクリックします。
3. ユーザーのリストから、administrator のユーザー名を選択します。
4. 詳細パネルで、パスワードおよびパスワードの確認フィールドに新しいパスワードを入力します。
5. 適用をクリックします。

重要：

新しい管理者パスワードをメモし、安全な場所に保管してください。紛失した管理者パスワードを取り戻すのは容易ではありません。管理者モードはサーバー管理画面にアクセスして、ユーザーの追加や新規カタログ作成などの変更ができる唯一のアカウントです。管理者パスワードを紛失した場合は、Portfolio Server の完全な再インストールが必要になります。

Portfolio Serverのライセンス番号の入力

Portfolio Server は、さまざまな方法でライセンスされます。必要な機能に応じたライセンス番号を入力する必要があります。

Portfolio Server Admin アプリケーションを使用するライセンスを入力し、Portfolio Server、ウェブクライアント接続、および NetMediaMAX などの追加機能を有効にします。

ライセンス番号は、クライアント接続の有効な番号を含むように暗号化されており、追加の機能を有効化するのにも使用されます。各サーバーに追加できるのは、クライアント接続を登録する Portfolio Server ライセンス番号のうち1つのみです。SQL データベースへの接続や高度なメディア処理サーバーの接続など、通常の Portfolio Server インストールより更に進んだ機能を追加するために、別のライセンス番号を追加できます。

Portfolio Server にライセンスを付与するには：

1. Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューから、ライセンスリンクをクリックします。
3. **新規ライセンスを追加**をクリックします。
4. 有効なライセンス番号を入力し、**ライセンスを追加**をクリックします。

重要：

NetMediaMAX のライセンスを入力した後、NetMediaMAX の機能をすべて組み込むためには、Portfolio Server を手動で再起動する必要があります。詳細は、*Portfolio Server を手動で再起動* 22 ページのを参照してください。

Portfolio NetPublish Server のライセンスは、Portfolio デスクトップクライアント経由で NetPublish Administration に入力されます。詳細については、NetPublish Server ユーザーガイドを参照してください。

ライセンスを解除する

他のコンピュータに移行したい場合など、Portfolio Server のライセンスを解除することができます。

ライセンスを解除するには：

1. ブラウザを起動して、Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メニュー左にあるライセンスをクリックします。
3. 解除したいライセンスをクリックして選択してから、ライセンスパネルの右下にある[－]ボタンをクリックして、ライセンスを解除します。
4. 確認ダイアログではいボタンをクリックします。

この変更を適用するには Portfolio Server の再起動が必要です。

サーバーのステータス

カタログの作成や管理、Portfolio Server の設定、ユーザーアクセス管理などの Portfolio Server の管理は、すべて Portfolio Server Admin アプリケーションの内部で行われます。

いくつかのカタログオプションは、Portfolio デスクトップクライアントで行います。

Portfolio カタログに含まれるアイテムレコードはメタデータは、Portfolio デスクトップおよびウェブクライアント経由でアクセスされます。

Portfolio Serverの起動、停止、再起動

Portfolio Server は、インストール後システムを再起動すると自動的に起動します。手動で停止や再起動が可能です。

サーバーを起動する：

1. ウェブブラウザを起動して Portfolio Server Admin Web アプリケーションを開きます。
2. 左のメニューにあるステータスをクリックします。
3. **サーバーを起動** ボタンをクリックします。

サーバーを停止する：

1. ウェブブラウザを起動して Portfolio Server Admin Web アプリケーションを開きます。
2. 左のメニューにあるステータスをクリックします。
3. **サーバーを停止** ボタンをクリックします。

Portfolio Server の再起動

Portfolio Server の再起動が必要な場合は、正しい終了処理と再起動処理が実行されるよう、Portfolio Server Admin Web アプリケーションを使ってください。

Portfolio Server を再起動する場合は、接続クライアントは自動的に現在開いているカタログの接続が解除されます。サーバーの再起動が完了すると、クライアントは通常通り接続できます。

Portfolio Server を再起動する：

1. Portfolio Server を再起動することをユーザーに知らせます。
2. ウェブブラウザを起動して Portfolio Server Admin Web アプリケーションを開きます。
3. 左のメニューにあるステータスをクリックします。
4. **サーバーを再起動** ボタンをクリックします。

サーバーハードウェアを物理的に再起動する場合は、サーバーシステムが起動後、Portfolio Server は自動的に再起動します。

注意：

システムが再起動すると、Portfolio Server Admin Web アプリケーションは自動的に利用可能になります。Portfolio Server が起動していない場合でも、Portfolio Server Admin Web アプリケーションは利用することができます。

ポート

Portfolio Server では、サーバー上のさまざまなポートが必要になります。これらのポートは、クライアントの接続、サーバーの管理、および内部サーバー通信に使用されます。

Portfolio Server で使用されるすべてのポートが、サーバー上の他のアプリケーションと競合しないようにする必要があります。通常は、これらのポート設定を変更する必要はありません。

ホストシステムのファイアウォールおよびオペレーティングシステムで外部ポートを開く必要があります。ポートを開くプロセスは、オペレーティングシステムごとに異なります。詳細については、Mac OS X Server および Microsoft Windows のマニュアルを参照してください。

外部通信用のポート

Portfolio Server では、サーバーを管理し、Web クライアントやデスクトップクライアントの接続、Portfolio Media Engine 処理を実行するために、多くのポートを開く必要があります。

特にポート 9877 を開けておくことは重要です。このポートはデスクトップクライアントから Media Engine を使う際に利用します。もし Media Engine が違うサーバーで稼働している場合は、同様にこのポートが開いている必要があります。

これらのポートは、サーバーの管理とウェブクライアントの接続の両方に定期的に使用されます：

ポート	初期設定
JBoss HTTP / Web Service ポート (Web クライアントポート)	8090
Jetty Web App HTTP ポート (サーバー管理ポート)	8091
Jetty Web App HTTPS ポート (SSL サーバー管理ポート)	9453
ネイティブサーバーコンポーネントポート	2903
MediaRich Embedded Server ポート	9877

セキュア接続注意：

Portfolio Server は、Portfolio Server Admin Web インターフェースへの安全な (SSL) 接続のためのデフォルト、自己署名されたセキュリティ証明書を含みます。このセキュリティ証明書は、ユーザーが独自にカスタム証明書を手に入れることなく、Portfolio Server 管理インターフェイス (Web) との安全な接続を可能とします。デフォルトのセキュリティ証明書を利用して接続を行う場合、ブラウザ上でいくつかのセキュリティの警告が表示されます。これらの警告は、自己署名されたセキュリティ証明書の内容を示しますが、Portfolio Server との安全な接続関係を作成することができます。ほとんどのブラウザは、ユーザーがセキュリティ例外を記録するか、自己署名されたセキュリティ証明書を信頼することができる機能を持っています。これによって、それ以降に警告が表示されることを回避することができます。詳細は、ご利用のブラウザのドキュメントをご覧ください。

JBoss HTTP /Web サービスポート (Web クライアントポート)

これは、ウェブクライアントのユーザーがサーバーに接続する際、またはカスタムセキュリティ証明書を利用している場合、SSL 暗号で利用するポートです。暗号ポートはウェブクライアントと Portfolio Server 間の暗号化を実行するために若干パフォーマンスが落ちます。ファイアウォール内の社内のネットワークで利用する場合は、標準的なウェブクライアントポートを使って直接接続したいと思うかもしれませんが、SSL ウェブクライアントの接続は外部のネットワークからのみ接続が可能です。

重要：

SSL ウェブクライアント接続は、独自に取得するセキュリティ証明書が必要になります。SSL ウェブクライアント接続では、デフォルトの自己署名されたセキュリティ証明書の利用をサポートしていません。

Web クライアントがサーバーにログインするには、次の情報が必要です：

- サーバー IP アドレスまたは DNS 名
- Web クライアントポート番号。デフォルトのポート設定は、8090 です。カスタムセキュリティ証明書を利用している場合は、セキュアな (SSL) Web クライアントのデフォルトのポート設定は 9443 です。
- Portfolio ユーザー名とパスワード

Jetty Web App ポート (Portfolio Server Admin ポート)

このポートは、Portfolio Server Admin Web インターフェイスに接続している管理者が Portfolio Server を管理するのに使用されます。デフォルトのポート設定は、HTTP8091、または HTTPS 9453 です。

Portfolio Server Admin アプリケーションにログインするには、次の情報が必要です：

- サーバーの IP アドレスまたは DNS 名
- Portfolio Server Admin ポート番号。Server Admin ポート (デフォルト値 8091)、またはセキュア (SSL) Server Admin ポート (デフォルト値 9453)
- 管理者のアカウント名およびパスワード

ネイティブ Server ポート (Portfolio デスクトップクライアント接続ポート)

Portfolio デスクトップクライアントが Portfolio Server と接続するには、2903 ポートが使用されます。このポートは、クライアントとサーバー間の通信および接続に使用されます。

Portfolio デスクトップクライアントがサーバーにログインするには、次の情報が必要です：

- サーバーの IP アドレスまたは DNS 名
- クライアントのアカウント名およびパスワード

注意：

ネイティブのサーバーコンポーネントがデフォルト設定から変更された場合、Portfolio デスクトップクライアントは、Portfolio Server に接続する方法を変更する必要があります。この変更を行うには、Portfolio デスクトップクライアント内で、**ファイル>サーバーへ接続へ移動し**、既存のサーバー接続を編集するか、新しいサーバーを追加します。サーバー接続の IP アドレスには、変更したポート番号を適切に付加します。例：ネイティブのサーバーコンポーネントのポートが 2905 に変更された場合、Portfolio デスクトップクライアントのユーザーは、サーバーダイアログに接続するサーバーの IP アドレス：192.168.0.1:2905 内を、変更したポートに追加する必要があります。

MediaRich Embedded Server ポート

MediaRich Embedded Server ポートは、Portfolio Server の処理タスク通信に利用します。

このポートには、Portfolio デスクトップクライアントと外部 Portfolio Media Engines (Media Rich) の通信、ならびにすべての内部サーバー処理の通信が含まれます。

MediaRich Embedded Server ポートのデフォルトは 9877 です。

外部のメディアエンジンのポートの詳細は、*Media Engines のネットワークアクセス* 72 ページのを参照してください。

内部通信のポート

Portfolio Server では、内部通信にさまざまなポートが予約される必要があります。サーバーには、多くの標準 Java J2EE およびウェブサービスポートが必要です。

サーバー上で、Java を必要とする他のアプリケーションが実行されている可能性があります。Portfolio Server では、Java の自己完結型のバージョンが実行されるので、ポートの競合（コンフリクト）が発生しない限り、同じマシン上で他の Java およびウェブサービスアプリケーションを実行させることが可能です。

ポートの競合を避けるには、ポートページを使用して、Portfolio Server に新しいポート番号を割り当てます。Portfolio Server の内部通信には次のポートが必要です。

ポート	デフォルト値
JBoss Webservice	8093
JBoss AJP	8019
Bootstrap JNP Server Bind Address	1109
JMX Pooled Port	4455
JMX RMI Object Port	4454
RMI Naming Service	1108

注意：

Portfolio Server では、サーバーのカatalog作成と Portfolio デスクトップクライアントのアセット取得の両方のために、内部ネットワークの共有へのアクセスに追加で標準ポートを2つ使用します（SMB マウントの共有には、ポート 445、AFP マウントの共有には、548）。これらのポートは、デスクトップクライアントユーザーが Portfolio Server コンピュータにアクセス共有が必要な場合に必要です。Portfolio Server がオートシンクのアセットやウェブクライアントからのアクセスを可能にするために、オリジナルアセットが置かれているリモートファイルサーバーもこれらのポートが必要になります。

ポート競合の解決

Portfolio Server のインストーラは、デフォルトサーバーの管理ポート 8091（Jetty Web App）が別のアプリケーションで使用されているかどうかをチェックします。このポートがすでに使用されている場合は、Portfolio Server Admin アプリケーションが開く前に、別の利用可能なポートがランダムに選択されます。

インストール完了後、Portfolio Server Admin アプリケーションがデフォルトのポート 8091 を使って開きます。他のポートで開いた場合は、他のポートが競合している可能性があります。インストーラは自動的に他のポートが競合していないかどうかをチェックして、`extensis.admin.log` ファイル内に記録します。

サーバーは、標準の JBoss および Jetty ポートを使用します。この技術を使用して構築されているその他のアプリケーションがサーバー上に存在する場合は、デフォルトの Portfolio Server ポート番号を変更する必要があります。

Portfolio Server が使用するポート番号を変更するには：

1. Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューから、ポートリンクをクリックします。
3. 新しいポート番号が必要なポートごとに新しいポート番号を入力するか、**ポートを検索**をクリックして、オープンなポートを自動的に検索します。
4. ポートページの下部にある**ポートを変更**リンクをクリックします。
5. サーバーを再起動します。

ポート概要

Portfolio Server 用に以下のポートが開いていることを確認してください。またスタンドアロンの Media Engine やファイルサーバーがある場合は必要に応じて開いてください。コンフリクトを避けるためにポートを変更した場合には、他のシステムとの連携ポートも確認ください。

ポート	初期設定	目的
JBoss HTTP / Web Service ポート	8090	Portfolio ウェブクライアントとの外部通信
Jetty Web App HTTP ポート	8091	Portfolio Server Admin との外部通信
Jetty SSL ポート	9453	Portfolio Server Admin とのセキュアな外部通信
Native Server Component ポート	2903	Portfolio デスクトップクライアントとの外部通信
MediaRich Embedded Server ポート	9877	Media Engines、Portfolio Server、Portfolio デスクトップクライアント間の外部/内部通信
JBoss Webservice	8093	Java サポートサービス
JBoss AJP	8019	Java サポートサービス
Bootstrap JNP Server Bind Address	1109	Java サポートサービス
JMX Pooled ポート	4455	Java サポートサービス
JMX RMI Object ポート	4454	Java サポートサービス
RMI Naming Service	1108	Java サポートサービス
SMB ネットワークアクセス	445	デスクトップクライアントからマウントした Windows 共有にアクセスする、Portfolio Server からリモート Windows ファイルサーバー上のアセットにアクセスする
AFP ネットワークアクセス	548	デスクトップクライアントからマウントした Mac ボリュームにアクセスする、Portfolio Server からリモート Mac ファイルサーバー上のアセットにアクセスする
NetPublish/Web Server 通信	8085	(Windows) NetPublish とウェブサーバー間の通信
NetPublish 管理	8086	(Windows) デスクトップクライアント (NetPublish 管理) と NetPublish 間の通信

カスタムセキュリティ（SSL）証明書の利用

初期設定では、Portfolio Server は標準の（HTTP）ウェブ接続を使って Portfolio 失せ部クライアントアプリケーションと接続します。Portfolio では、Portfolio ウェブクライアントからサーバーに接続する際に、暗号化された（HTTPS）接続（SSL）方法を利用することができます。

Portfolio ウェブクライアントが SSL 接続できるよう設定するためには、独自のドメイン名（自社名.com のような）とそのドメイン用のカスタムセキュリティ証明書の入手が必要です。カスタムセキュリティ証明書は Verisign、GoDaddy など、多くの信頼できるサイトから入手することができます。

注意：

- デフォルトの Portfolio SSL ポート 9443 から変更する場合は、server.xml ファイルを編集する必要があります。詳細は **SSL 接続のポートを変更する** 30 ページを参照してください。
- Mac OS X でデフォルトの Portfolio SSL ポートを 1024 に変更する場合は、Portfolio Server（および OpenOffice.org）をルートユーザーとしてインストールする必要があります。詳細は **Portfolio Server のインストール** 15 ページを参照してください。
- Windows の場合は、キーツールユーティリティにフルパスを入力する必要があります。キーツールコマンドを実行する際には、以下のいずれかを入力します。

32-bit systems: C:\Program Files\Extensis\Portfolio Server\applications\jre\bin\keytool

64-bit systems: C:\Program Files (x86)\Extensis\Portfolio Server\applications\jre\bin\keytool

システム内の %PATH% 変動環境の keytool フォルダへのパスを追加することもできます。現在のコマンドウィンドウセッションのみに実行するには以下を入力します：

```
path=%PATH%;C:\Program Files\Extensis\Portfolio Server\applications\jre\bin\
```

または

```
path=%PATH%;C:\Program Files (x86)\Extensis\Portfolio Server\applications\jre\bin\
```

概要

カスタムセキュリティ証明書を利用するには：

1. 証明書の発行機関（CA）から SSL カスタムセキュリティ証明書を入手します。
2. セキュリティ証明書を使ってカスタム keystore ファイルを作成します。
3. 新しい keystore ファイルを使って、証明書の署名リクエストを作成します。
4. CSR を使ってセキュリティ証明書を再入力します。
5. カスタム証明書と中間証明書をダウンロードします。
6. keystore に CA の元の証明書、中間証明書、カスタム証明書を埋め込みます。

1. セキュリティ証明書を入手します。

証明書の発行機関（CA）から利用するドメイン用に SSL 証明書を購入手続します。

証明書の発行機関：

- GlobalSign (<http://www.globalsign.com/ssl/>)
- GoDaddy (<http://www.godaddy.com/ssl/ssl-certificates.aspx>)
- Network Solutions (<http://www.networksolutions.com/SSL-certificates/index.jsp>)
- Verisign (<http://www.verisign.com/ssl/>)

または Open Directory listing of Certificate Authorities

(http://www.dmoz.org/Computers/Security/Public_Key_Infrastructure/PKIX/Tools_and_Services/Third_Party_Certificate_Authorities/) を参照してください。

自分のセキュリティ証明書を作成するためのツールも用意されていますので、このガイドよりより詳しい情報を得ることができます。

ユーザーからの接続を確実にするためには、それぞれのブラウザにもとの証明書を埋め込む必要があります。

証明書の発行機関のソフトウェア埋め込み：

- DogTag (http://pki.fedoraproject.org/wiki/PKI_Main_Page)
- OpenCA (<http://www.openca.org>)
- OpenSSL (<http://www.openssl.org>)
- XCA (<http://xca.hohnstaedt.de>)

2. カスタム keystore ファイルを作成

keytool コマンドラインアプリケーションを使って、新規の Keystore ファイルを作成します。Mac OS X では keytool は OS にあらかじめインストールされています。Windows では、Portfolio Server インストーラが必要なコンポーネントをシステム上にインストールします。

以下のステップを実行するには、Portfolio Server が起動するアカウントにログインして行う必要があります。

< angle brackets > の名前は、実際のファイル名に置き換えてください。

コマンドを入力する際は、すべてのコマンドを 1 行で入力し、最後に Return キーを押してください。

1. コマンドウィンドウを開きます。

Macintosh: ユーティリティフォルダ内にあるターミナルアプリケーションを起動します。

Windows: cmd.exe を起動します。

2. 現在のディレクトリを Portfolio Server のデータディレクトリに変更します。

Macintosh:

```
cd "/Applications/Extensis/Portfolio Server/data"
```

Windows:

```
cd "c:\Program Files\Extensis\Portfolio Server\data"
```

3. 既存の keystore ファイルの名前をバックアップ用に変更しておきます。

Macintosh:

```
mv keystore keystore.backup
```

Windows:

```
move keystore keystore.backup
```

4. 新しい keystore ファイルを作成します。

```
keytool -genkey -keyalg RSA -keystore keystore -alias extensis -keysize 2048
```

注意：

keysize はご利用のセキュリティ証明書の key size (または *key length*) と同じである必要があります。多くの認証機関では key size は 2048 になっています。Key size が 1024 の場合もあります。もし異なる key size の場合は、上記の最後の 2048 を置き換えてください。

5. パスワードが表示されたら kaq8thefUphuTrexeSW3sp3m と入力してから、Return キーを押します。
TIP: このドキュメントからパスワードをコピーして、コマンドウィンドウ内に貼付けることができます。もう一度パスワードの入力を促されたら、同じパスワードを入力して Return キーを押します。

注意：

このパスワードを利用しないと SSL は機能しません。

6. 氏名を入力し、セキュリティ証明書を発行した際に使ったドメイン名 (Fully Qualified Domain Name (FQDN)) を入力してから Return キーを押します。
7. keytool では組織名、部署名、住所、国名などの情報を入力する画面を表示します。これらは空欄のままでも問題ありません。
8. 入力したすべての情報を keytool が表示します。表示はこのようになります：
Is CN=<awesome-assets.com>, OU=Unknown, O=Unknown, L=Unknown, ST=Unknown, C=Unknown correct?
[no]:
CN=に続くドメイン名が、セキュリティ証明書を購入した際に使ったドメイン名 (Fully Qualified Domain Name (FQDN)) と完全に一致していることを確認します。
yes と入力して Return を押します。

- 最後に、keytool が **extensis** エイリアス用のキーパスワードを入力する画面を表示します。前に入力したのと同じパスワードを入力して Return キーを押します。

新しい keystore ファイルが作成されます。

注意：

- keystore ファイルの内容は、以下のコマンドを入力すると見ることができます：
`keytool -list -v -keystore keystore`
パスワードが表示されたら kaq8thefUphuTrexeSW3sp3m と入力してから、Return キーを押します。
- keystore ファイルの作成に失敗した場合は、以下の方法で extensis エイリアスを開き削除することができます：
`keytool -delete -alias extensis -keystore keystore`
パスワードが表示されたら kaq8thefUphuTrexeSW3sp3m と入力してから、Return キーを押します。

3. 証明書署名リクエスト (CSR) を生成します。

このステップは必須です。 Portfolio では、keytool で作成された CSR のみ受け付けます。Open SSL からの CSR の取り込みはできません。

コマンドウィンドウ内に以下のコマンドを入力して Return を押します：

```
keytool -certreq -keystore keystore -keyalg RSA -file certreq.csr -alias  
extensis
```

これで Portfolio Server のデータディレクトリ内に certreq.csr というファイル名の CSR が作成されます。CSR は ASCII テキストファイルで、オリジナルセキュリティ証明書を再入力する際に利用します。

4. セキュリティ証明書を再入力します。

この手順は利用している認証機関によって異なります。一般的には認証機関のインポートツールを使って certreq.csr ファイルをインポートするか、テキストエディタで certreq.csr ファイルを開いてテキストをコピーし、ベンダーの再入力ダイアログに貼付けします。

5. 新しい証明書をダウンロードします。

セキュリティ証明書の再入力成功すると、新しいカスタム証明書をダウンロードできる画面が表示されます。この手順は利用している認証機関によって異なります。

利用している環境 (Apache または Exchange 2010) にあわせてカスタム証明書をダウンロードできるようになります。通常は Tomcat に設定された証明書アーカイブをダウンロードします。Tomcat が利用できない場合は Other を使います。

証明書アーカイブは通常 .ZIP ファイルで用意されます。このファイルには元証明書と CSR を使って柵際されたカスタム SSL 証明書が含まれています。

注意：

中間証明書はとても重要です。ダウンロードしたアーカイブ内にこのファイルが無い場合は、異なる設定で再度ダウンロードしてください。

6. keystore に証明書をインポートします。

keystore に CA の元の証明書、中間証明書、カスタム証明書を埋め込む必要があります。

元の証明書は認証機関のウェブサイトからダウンロードすることができます。

- Verisign、GeoTrust、Thawte: <https://www.verisign.com/support/roots.html>
- GlobalSign: <http://www.globalsign.com/support/intermediate-root-install.php>
- GoDaddy: <https://certs.godaddy.com/anonymous/repository.seam>

1. 認証機関の元証明書を自身のエイリアスの下の keystore にインポートします。

```
keytool -import -keystore keystore -alias rootca -trustcacerts -file  
<name_of_Root_CA_cert_file>
```

Keystore パスワードが表示されたら `kaq8thefUphuTrexesW3sp3m` と入力してから、**RETURN** キーを押します。

2. 中間証明書を自身のエイリアスの下の keystore にインポートします。

```
keytool -import -keystore keystore -alias intermediary -trustcacerts -file  
<name_of_intermed_cert_file>
```

Keystore パスワードが表示されたら `kaq8thefUphuTrexesW3sp3m` と入力してから、**RETURN** キーを押します。

3. カスタムセキュリティ証明書をインポートします。

```
keytool -import -keystore keystore -alias extensis -file  
<name_of_custom_cert_file>
```

Keystore パスワードが表示されたら `kaq8thefUphuTrexesW3sp3m` と入力してから、**RETURN** キーを押します。

4. Portfolio Server を再起動します。

SSL 接続ポートを変更する

初期設定の SSL クライアント接続ポート (JBoss TCP SSL 受信ポート) は 9443 に設定されています。このポートを変更したい場合には、`server.xml` ファイルを編集する必要があります。

注意:

Mac OS X でポートを 1024 に変更する場合は、root ユーザーとして Portfolio Server をインストールして動かす必要があります。詳細は *Portfolio Server のインストール*

`server.xml` ファイルを編集するには:

重要

特に標準的な SSL TCP ポートである 443 に変更しようとしている場合は、JBoss TCP ポートの変更時には細心の注意を払ってください。他のソフトウェア (例えば Apache や IIS など) が同じポートを参照していないことを確認します。

1. 以下の場所にある `server.xml` ファイルのバックアップを作成します。

Macintosh:

```
/Applications/Extensis/Portfolio Server/applications/jboss/server/default/deploy/jbossweb-tomcat55.sar/server.xml
```

Windows:

```
C:\Program Files\Extensis\Portfolio Server\applications\jboss\server\default\deploy\jbossweb-tomcat55.sar\server.xml
```

2. Notepad や TextEdit などのテキストエディタを使って、オリジナルの `server.xml` ファイルを開きます。
3. `port="9443"` のテキストが含まれている行を探します。`redirectPort="9443"` の行は変更してはいけません。
4. 値を 9443 から、変更したいポート番号に変更します。

注意

`server.xml` ファイル内の他のアイテムは変更しないでください。不必要な変更をするとサーバーで問題を引き起こす可能性があります。またサーバーが適切に動かなくなる可能性があります。

5. server.xml ファイルを保存します (必ず UTF-8 テキストファイル形式として保存してください)。
6. Portfolio Server を再起動します。

注意:

標準外のセキュリティシステムを利用している場合は、Extensist テクニカルサポート (104 ページの)までご連絡ください。

Mac OS X でアクティブな TCP 受信ポートを特定する:

1. Terminal アプリケーションを開いて、アプリケーションフォルダ内にある Utilities フォルダを開きます。
2. netstat -anp tcp と入力して、RETURN キーを押します。これでアクティブなすべての TCP 受信ポートを一覧します。
3. lsof -i :port と入力して、特定のポートのプロセスとプロセス ID を表示します (port の部分を必要なポート番号に置き換えてください)。

Windows でアクティブな TCP 受信ポートを特定する:

1. コマンドプロンプトを開きます: Start をクリックして、Run フィールドに cmd と入力します。ENTER キーを押します。
2. netstat -a -b -n -o -p tcp と入力して ENTER キーを押します。

注意:

Windows では、最初に来たものに最初に TCP ポートを提供するという原則で動くため、特にコンピュータを起動する際に競合を持つことができます。

セキュアポートリダイレクト

ウェブクライアントユーザーが常にセキュアポートを使って接続するために、リダイレクトを利用することができます。リダイレクトはオプションの手順で、SSL ポートを使用するのに必須ではありません。

web.xml ファイルを編集して通常のウェブクライアントポート (デフォルト値 8090) から、セキュア接続ポート (デフォルト値 9443) へリダイレクトさせます。

リダイレクトを利用するには:

1. 以下の場所にあるファイルをノートパッドやテキストエディットなどのテキスト編集ツールで開きます。
Macintosh: /アプリケーション/Extensist/Portfolio Server/applications/jboss/server/default/deploy/portfolio.ear/portfolio.war/WEB-INF/web.xml
Windows: C:\Program Files\Extensist\Portfolio Server\applications\jboss\server\default\deploy\portfolio.ear\portfolio.war\WEB-INF\web.xml
2. 検索機能を使って、transport-guarantee パラメータが含まれる行を検索します。以下のように NONE パラメータを CONFIDENTIAL パラメータへ変更します。
<transport-guarantee>NONE</transport-guarantee>
以下に変更
<transport-guarantee>CONFIDENTIAL</transport-guarantee>
3. 保存して web.xml ファイルを閉じます。

管理ログ

ステータスメニューには、以下のサーバーアクティビティのログがあります：

- Portfolio Server の停止、起動、処理が開始されたとき
- ユーザーの追加／削除、ユーザーアカウント名やパスワードの変更があったとき

管理ログを見るには：

1. ウェブブラウザを起動して Portfolio Server Admin Web アプリケーションを開きます。
2. 左のステータスメニューをクリックします。

管理ログはスクロールリストとして表示されます。一番最近のものがリストの上にあります。

ログの各行はアクティビティが起きた日時と、アクティビティの簡単な説明から成り立っています。

日時は YYYY-MM-DD hh:mm:ss のように表示されています。Portfolio Server のタイムゾーンを使用しています。

- YYYY は年
- MM は 2 桁の月 (01-12)
- DD は 2 桁の日 (01-31)
- hh は 2 桁の時間 (00-23)
- mm は分 (00-59)
- ss は秒 (00-59)

ログを消すには、**管理ログを消去**ボタンをクリックします。

注意：管理ログは `extensis.admin.log` ファイル内にも保存されます。ファイルは以下の場所にあります：

Mac OS X： /Applications/Extensis/Portfolio Server/logs/

Windows： C:\Program Files\Extensis\Portfolio Server\logs\

カタログ

カタログの作成

Portfolio Server Admin アプリケーションから、管理者は Portfolio カタログを作成および管理できます。これらのカタログは、その後、Portfolio デスクトップクライアントおよび Portfolio ウェブクライアントによってユーザが利用できるようになります。

Portfolio カタログを作成するには：

1. Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューから、「カタログ」リンクをクリックします。
3. 「カタログ」パネルで、「新規カタログを追加」リンクをクリックします。
4. カタログの種類を指定します。
カタログの種類についての詳細は **カタログの種類** 35 ページのを参照してください。
カスタムカタログについての詳細は **カスタムカタログを作成** 36 ページのを参照してください。
5. データベースの種類を選択します。
 - ネイティブ (FDB)：これは、Portfolio Server におけるデフォルトのデータベースの種類です。
 - SQL database：Portfolio Enterprise Solution Pack を利用している場合は、SQL データベースにデータベースを保存できます。Portfolio Server 用に SQL データベースをインストールおよび設定する方法の詳細については、**Portfolio Enterprise Solution Pack のインストール** 81 ページのを参照してください。
6. カタログ名を入力します。
ユーザがウェブクライアントを使ってカタログに登録する場合は、ファイルをアップロードできる場所に同期フォルダをすぐ作成した方が良いでしょう。
7. ドロップダウンメニューから「対象」を選択します。この設定は、データベース内に保存されている情報を並べ替え時に利用する言語です。
8. 「作成」をクリックします。

新しいカタログを作成したら、次の作業を行います：

- カタログへのユーザの追加 (40 ページの) または LDAP ユーザのカタログへの設定 (45 ページの)；
- カタログのカスタマイズ (49 ページの) を必要に応じて実行します。
- プレビューオプション (34 ページの)

カタログパフォーマンスと最大サイズ

ネイティブ FDB カタログの最大サイズとその効果的なパフォーマンスは、多くの要素が影響します。一般的には、たくさんのアイテム、データフィールドが多く入力量が多い、データのボリュームが大きいなどが影響を与えます。以下の項目がカタログのパフォーマンスに影響します：

- カタログに登録されているアイテム数
- サムネイルサイズ (112 ピクセルか 256 ピクセル)
- カスタムフィールドの数
- フィールドから抽出されたメタデータの量
- 各フィールド内のデータ量 (例えば短い文章か長い文章など)
- テキストインデックスが実行されているかどうか

通常、これらの項目は SQL 上で動いているカタログのパフォーマンスには影響しません。カタログのパフォーマンスとサイズの限界は、データベースエンジンに何を利用しているかと、サーバーハードウェアが影響します。

画面プレビュー

Portfolio では、カタログに登録した各画像のプレビュー画像を作成します。これによりディスク上の画像データにアクセスしなくても、デスクトップクライアント、ウェブクライアントから高品質のプレビューをカタログ内で見るできるようになります。

Portfolio Server でアイテムがカタログに登録される際に、プレビュー作成と保存の設定を行えます。また後から必要な時に作成することもできます。

アイテムのプレビューをカタログ登録時に作成するようにしておくと、ウェブクライアントやデスクトップクライアントからいつでも高解像度のプレビューやクリップを参照することができます。DVD 上のアイテムや通常マウントされていないネットワーク上のアイテムでも見るすることができます。

アイテムのプレビューを作成しないと、ウェブクライアントやデスクトップクライアントがプレビューを開こうとする時に Portfolio Server がプレビューを作成します。オリジナルファイルとの接続が切れている場合は、高解像度プレビューやクリップの代わりにサムネイル画像が表示されます。

Portfolio Server に画面プレビューを保存すると、カタログ作成プロセスが遅くなり、より多くのディスク容量を必要とします。プレビューを参照のたびに作成させるようにすると、ディスク容量は小さくて済みますが、デスクトップクライアントやウェブクライアントから画像をプレビューする際に表示が遅くなります。

画面プレビューの有効化

画面プレビューを有効にするには：

1. Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューから、カタログリンクをクリックします。
3. カタログパネルでカタログを選択します。
4. 詳細パネルで、プレビュータブを選択します。
5. プレビューオプションの設定：
プレビュー作成：このオプションは、カタログに登録される際に各ファイルのプレビューを作成します。このオプションをオフにすると、クライアントが要求した際にのみプレビューを作成します。
最大画像サイズ：最大寸法をピクセルで指定します。プレビュー画像の長辺の最大サイズは 4000 ピクセルです。
オーディオ／ビデオファイルクリップ作成：このオプションを選択すると、Portfolio Server はサポートするオーディオ／ビデオファイルがカタログに登録される際に各ファイルのプレビュークリップを作成します。プレビュークリップはデスクトップクライアント、ウェブクライアントのどちらでも再生することができます。このオプションをオフにすると、プレビュークリップは作成されません。
最大ビデオ解像度：プレビュークリップの最大解像度を設定します。オリジナル画像が設定より低い場合は、プレビュー画像の解像度は低くなります。
NetMediaMAX Solution Pack がインストールされている場合は、720p と 1080p (HD) 解像度のプレビュークリップを作成することができます。
プレビュークリップの長さ：プレビュークリップの最大長を設定します。
プレビューとクリップをこのフォルダに保存する：プレビュー画像とクリップが保存されるパスです。デフォルトではこれは Portfolio Server 内にあります。この設定のままにしておくことをお勧めします。もし作成されるプレビューの容量が、サーバーで利用できるディスク容量を上回ることが予想される場合は、ネットワーク上でサーバーがアクセスできる場所に、フォルダを設定することもできます。パス編集についての詳細は **パス設定** 35 ページのを参照してください。
6. **適用**をクリックします。画像プレビューの保存先が存在しない場合は、Portfolio Server によって新しいディレクトリが作成されます。ネットワークパスは、Portfolio Server がプレビューフォルダを作成できる権限が必要です。

パスの形式

プレビューディレクトリへのファイルパスは、普遍的/ UNC (Uniform Naming Convention) 形式で指定する必要があります。これは、共有パスに、たとえばマッピングされたドライブ文字ではなく、実際のサーバ、共有、および宛先ディレクトリを含める必要があることを意味します。例：

Macintosh : /Volumes/Xserve/Share/Previews

Windows : \\Server\Share\Previews

注意：

Macintosh の Portfolio Server では、UNC パスに加えて、コロン区切りのパスを使用します。Macintosh の Portfolio Server 上のカタログ用に上記の例を入力すると、次のコロン区切りのパスに自動的に変換されます。 ::Xserve:Share:Previews

次のようなネットワーク共有を選択してください：

- Portfolio サーバに読み取り／書き込みアクセス権がある
- 他のカタログがプレビューファイルの保存に利用していない

以前にカタログ化されたファイル用に画面プレビューを作成

Portfolio では、Portfolio デスクトップクライアントを使用して、カタログ化された後のファイルについても画面プレビューを生成できます。

1. Portfolio Server Admin アプリケーション内でカタログのプレビュー作成を設定します。
2. Portfolio ウェブクライアント、またはデスクトップクライアントを使ってカタログを開きます。
3. 画面プレビューを作成したいアイテムをカタログ内で選択します。
4. デスクトップクライアントの場合は、**アイテム>サムネールの再作成**を選択します。
ウェブクライアントの場合は、選択した画像の上で右クリックしてサムネールの再作成をメニューから選択します。

カタログの名前変更

Portfolio データベースのカタログは名前を変更することができます。

カタログの名前変更：

1. 左側のメニューから**カタログ**をクリックします。
2. **カタログリスト**の一番下にある**カタログ詳細情報**を表示／編集をクリックします。
3. **カタログの詳細情報**パネルで**データベースタブ**をクリックします。
ファイル拡張子 .fdb を含める必要はありません。
4. **名前フィールド**に新規の名前を入力します。
5. **カタログの詳細情報**パネル右下の**適用ボタン**をクリックします。

カタログの種類

カタログの種類を使用すると、特定の目的のために新しいカタログを設定する作業がより簡単に素早く行えます。新しいカタログを作成する際にいくつかのカタログの種類から選択することができます。基本的に、それぞれのカタログの種類は、カタログをさらにカスタマイズするための出発点の働きをします。

カタログの種類では、主に、それに含まれるカスタムフィールドの数と種類が異なります。

Portfolio Server Admin アプリケーションを使用すると、お客様のニーズを満たすのに最も適したカタログの種類を選択できます。

カタログの種類を選択する利点は、時間の観点から評価できます。Portfolio では、自動的にカスタムフィールドが作成されるので、必要な設定時間はかなり短くなります。また、多数のカスタムフィールドが必要でない場合は、カタログ内のアイテムへのアクセスおよび検索が速く行えるようになります。

最初にどのカタログの種類を選択したかにかかわらず、特定のニーズに合うようにカスタムフィールドを追加および削除したり、メタデータのマッピングを変更したりできます。

カタログの種類：

- 汎用：汎用のカタログの種類には、EXIF、IPTC、および XMP フィールドを含む、さまざまなメタデータ用のデフォルトのカスタムフィールドが多く含まれています。カタログにこれらのすべてのフィールドを含める場合、またはカタログにどの種類のメタデータを含めるべきか確かでない場合は、このカタログの種類を使用します。
- 簡易：簡易のカタログの種類には、カスタムフィールドが含まれておらず、ファイルからメタデータを抽出するには設定されていません。簡易カタログの種類は、手動による設定が必要な特定のカスタムフィールドや、メタデータの抽出設定が必要な複雑なカタログの出発点として役立ちます。このカタログの種類には、キーワードおよび説明のフィールドが含まれていますが、これらのフィールドにはメタデータを抽出するように設定できます。キーワードは、パスに従ってカタログ内で自動的に作成されます。

カタログの種類のカスタム作成

カタログ作成に使用できるデフォルトのカタログの種類に加えて、管理者は、将来カタログを作成する際に使用できるように、サーバー上で使用する独自のカスタマイズされたカタログの種類を作成できます。管理者は、既存のカタログの種類をベースに、カタログの種類に表示されるカスタムフィールドを定義できます。

カスタマイズされたカタログの種類を作成するには：

1. Portfolio Server Admin アプリケーションを開き、既存のカタログの種類の一つに基づいて、新しいカタログを作成します。
ユーザーを新しいカタログに割り当て、そのユーザーに管理者のアクセス権限を付与します。このユーザーの権限を使用して、この後カタログに接続します。
2. Portfolio デスクトップクライアントを起動し、新しいカタログを管理者ユーザー名 (**administraotr**) とパスワードで開いてから、管理者モードに変更します。
管理者モードの詳細は、Portfolio デスクトップクライアントユーザーガイドを参照してください。
3. カatalogをカスタマイズします。カスタムのカタログの種類を変更する場合は、カタログ作成の詳細オプション、カタログ管理設定、およびメタデータ設定の3つの領域を検討します。詳細については、Portfolio デスクトップクライアントユーザーガイドを参照してください。
4. 終了したら、**ファイル>カタログタイプの保存**を選択します。
5. Windows Explorer または Macintosh Finder を使用して、カスタムのカタログの種類を保存したシステム上にある Portfolio デスクトップクライアントのプログラムディレクトリを参照します：
Macintosh : ~/Documents/Portfolio/Catalog Types/
Windows : \Users\\My Documents\Portfolio\Catalog Types\
6. カatalogの種類は、カタログ名の付いたディレクトリの中に保存されています。Portfolio Server のあるサーバーシステムの次のディレクトリに、カタログの種類ディレクトリをコピーします。
Macintosh : /Applications/Extensis/Portfolio Server/data/catalog-settings/English/catalog-types/
Windows : \Program Files\Extensis\Portfolio Server\data\catalog-settings\English\catalog-types\
7. Portfolio Server Admin アプリケーションに再度ログインします。メインメニューから、カタログリンクをクリックします。新しいカタログを追加する際、カスタムのカタログの種類が種類ドロップダウンメニューに表示されるようになります。

カタログをオフラインにする

ユーザーがカタログへアクセスできないようにしたり、ユーザーを締め出したり、カタログのバックアップを取得したり、無制限にユーザーがアクセスできないようにするには、カタログをオフラインにできます。この方法は、カタログを削除するよりも良い方法です。なぜならば、ユーザーのすべてのアクセス設定が保持され、カタログを再度オンラインにすると、その設定がすぐに復元されるからです。

Portfolio Studio ユーザーは、カタログをオフラインにすると、他のカタログを開くことができるようになります。

カタログをオフラインにするには：

1. Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューから、カタログをクリックします。
3. カタログパネルで、カタログをクリックして選択します。
4. 詳細パネルのステータスタブで、オフラインにするをクリックします。

これでカタログがオフラインになり、ユーザーがカタログにアクセスできなくなりました。オフライン中でもカタログへのメンバシップは管理できますが、その他すべてのカタログ管理タスクがこのカタログに関しては無効になります。

オフラインのカタログは簡単に識別できます。カタログパネルでオンラインのステータスが無効になります。

カタログをオンラインに戻すには：

1. Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューから、カタログをクリックします。
3. カタログパネルで、オフラインのカタログをクリックして選択します。
4. 詳細パネルのステータスタブで、オンラインにするをクリックします。

カタログの削除

カタログが不要になったら、Portfolio Server から削除できます。カタログを削除すると、すべてのユーザーアクセスデータも削除されるので、将来的にアセットへユーザーがアクセスする必要がない場合のみ、削除するようにしてください。

カタログを削除しても、カタログが参照しているオリジナルアセットは削除されません。

あるカタログに対して、すべてのユーザーが一時的にアクセスできないようにしたいだけの場合は、削除する代わりにカタログをオフラインにする方法をお勧めします。

カタログを削除するには：

1. Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューから、カタログをクリックします。
3. カタログパネルの下部で、**カタログを削除**リンクをクリックします。
4. 選択したカタログを削除しますか？パネルで、**OK** をクリックして承認します。

標準の Portfolio FDB カatalogが削除されると、このカタログは、カタログディレクトリから削除されたカタログディレクトリに移動されます：

Macintosh : /Applications/Extensis/Portfolio Server/applications/native-server/deleted-Catalogs/

Windows : \Program Files\Extensis\Portfolio Server\applications\native-server\deleted-Catalogs\

元のファイルはすべて、追加される元となった場所に残ります。プレビューファイルを使用している場合、それらのファイルも元々作成された場所に残ります。

SQL ベースのカタログを削除する場合、SQL データベースへのポインタが次のカタログフォルダから削除されません。

Macintosh : /Applications/Extensis/Portfolio Server/applications/native-server/Catalogs/

Windows : \Program Files\Extensis\Portfolio Server\applications\native-server\Catalogs\

削除が終了した後は、Portfolio Server の SQL データベース、カタログのデータ、オリジナル、およびプレビューのすべてが、SQL データベース内に残ります。

ユーザー

ユーザーを追加すると、それらは Portfolio Server のユーザーデータベースに追加されます。その後、ユーザーには、サーバー上のカタログへのメンバシップが付与され、各カタログへの特定のアクセスレベルが与えられます。

注意：

この項目は Portfolio Server 内で作成したユーザーアカウントについて述べています。LDAP ディレクトリサービスと一緒に Portfolio を利用する場合の詳細は [ディレクトリサービス 44 ページ](#)のを参照してください。

ユーザーの追加

Portfolio で公開されているカタログには、Portfolio ユーザーアカウントまたは、LDAP ディレクトリサービスマッピングを通して (Portfolio Enterprise 版利用時) アクセスすることができます。ディレクトリサービスマッピングについての詳細は [ディレクトリサービス 44 ページ](#)のを参照してください。

管理者はユーザーアカウントを作成し、Portfolio Server Admin アプリケーション内のカタログへのアクセス権をユーザーに与えます。ユーザーアカウントを使用すると、Portfolio デスクトップクライアントまたは Portfolio ウェブクライアントのどちらで公開されているカタログへもアクセスできます。

ユーザーアカウントの種類

ユーザーアカウントは Portfolio Server が生成しユーザーログイン情報が保存されるネイティブアカウントと、LDAP ディレクトリサービス (Windows ではアクティブディレクトリ、Mac OS X ではオープンディレクトリ) からユーザーログイン情報を生成するディレクトリサービスアカウントがあります。

ディレクトリサービスアカウントは Portfolio Server Professional または Enterprise 版で利用できます。またあらかじめ Portfolio Server に統合できるディレクトリサービスの準備が必要です。ディレクトリサービスとの統合の詳細は [ディレクトリサービスの設定 45 ページ](#)のを参照してください。

新しいユーザーを追加する：

1. ブラウザを起動して Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューから、ユーザーをクリックします。
3. ユーザーパネルで新規ユーザーを追加をクリックします。
4. 詳細パネルでアカウント名を入力し、認証方法を選択します。
(認証方法は Portfolio Server へディレクトリサービスを利用して接続している場合のみ利用します)
認証方法：Portfolio Server によって確認されるアカウントの場合はネイティブを選択します。LDAP ディレクトリサービスで確認するアカウントの場合はディレクトリサービスを選択します。
ディレクトリサービスアカウントの場合は、入力するアカウント名は Portfolio Server に接続するディレクトリサービスのアカウント名である必要があります。パスワードもディレクトリサービスのパスワードと同じものを利用してください。
5. ネイティブアカウントは、パスワードを入力し、確認のためにもう一度入力します。
6. ユーザーの詳細情報を入力します。
7. 既存のすべてのカタログに対して、新規ユーザーのアクセス権を自動的に与えることができます。ユーザーを全カタログに追加チェックボックスにチェックを入れて、プルダウンメニューからアクセス権を選択します (カタログパネル内で各ユーザーごとのアクセスを変更したり取り消すことができます)。
8. 作成をクリックします。

接続するには、ユーザーにカタログのメンバシップが付与されている必要があります。詳細は [ユーザーのカタログのメンバシップの付与 40 ページ](#)のを参照してください。

新規ユーザーデフォルト

既存のすべてのカタログに対して、新規ユーザーを常に追加するよう設定したり、自動的に追加されたユーザーのアクセス権を設定しておくことができます。

1. Portfolio Server Admin 画面の左の一覧にあるグローバル設定をクリックします。
2. 次の一覧からデフォルトカタログを選択します。
3. デフォルトカタログパネルにある新規ユーザーを全カタログに追加にチェックを入れます。
この設定を有効にすると、Portfolio Server は自動的に新規ユーザーをすべての既存のカタログに追加します。その際のアクセスレベルをドロップダウンメニューから選択します。
4. 新規ユーザーがカタログに追加される際のアクセスレベルをドロップダウンメニューから選択します。
カタログのメンバシップパネルで、個別のユーザーアクセスレベルを変更することができます。画面左側の一覧からカタログを選択して、カタログパネル内のカタログのメンバシップを管理をクリックします。
5. デフォルトカタログパネルの右下にある適用ボタンをクリックして変更を保存します。

ユーザーアクセスレベルの詳細はユーザーアクセスレベルを参照してください。

ユーザーのカタログメンバシップの付与

サーバー上でのカタログの作成とユーザーアカウントの定義の他に、管理者はどのユーザーがカタログのメンバであるかを決定できます。

注意：

LDAP ディレクトリサービスからユーザーを追加することもできます。詳細は [ディレクトリサービス 44 ページ](#) を参照してください。

ユーザーへカタログのメンバシップを付与する場合：

1. Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューから、カタログリンクをクリックします。
3. カタログパネルで、カタログを選択します。
4. カタログのメンバシップを管理リンクをクリックします。
5. 詳細パネルで、一人または複数のユーザーを選択します。Command + クリック (Mac) または Ctrl + クリック (Windows) で複数のユーザーを選択できます。
6. パネルの下部のドロップダウンメニューから、このカタログのアクセスレベルを選択します。
7. 適用をクリックします。

ユーザーアクセスレベル

ユーザーは、各自が追加されているカタログに特有の4つのアクセスレベル（管理者、発行者、編集者、閲覧者）を使用してカタログに接続します。それぞれのユーザーレベルが、ユーザーがクライアントを使用してカタログに接続した際に付与されるアクセスレベルと機能を定義しています。


Portfolio デスクトップクライアントを使用してカタログに接続するユーザー用に、次に説明するアクセスレベルおよびアクセス権が固定で設定されています。

- **カタログ管理者**：カタログ管理者のアクセスレベルでは、カタログユーザーは、デスクトップクライアントおよびウェブクライアントのアプリケーション内で利用可能なすべてのアクションを実行できます。これには、カスタムフィールド、マスターキーワード、オートシンクフォルダの定義、およびカタログ特有のすべての設定の実行が含まれます。カタログ管理者は、基本的には概要（フィールド、値のリスト、マッピングなど）、マスターキーワード、デフォルトカタログ作成オプション、および特定のカタログ内のその他のハイレベルな設定を定義します。カタログが、Portfolio デスクトップクライアントを使用して管理者モードで開かれると、他のユーザーはそのカタログを使用できません。ただし、管理者レベルのユーザーが Portfolio ウェブクライアントを使用してカタログに接続する場合は例外です。
- **発行者**：発行者のアクセスレベルは、管理者よりも1つ下のレベルで、主にユーザーにカタログ内のアイテムを追加および削除させるのに使用されます。このユーザーは、データの入力も行えますが、マスターキーワードのリストを含むフィールドの変更や定義ができない点が制限されています。
- **編集者**：編集者のユーザーアクセスレベルは、主にデータ入力を実行する必要があるユーザー向けのもので、このレベルは、主にユーザーがカタログ内のアイテムレコードを追加または削除できないという点で発行者とは異なります。
- **閲覧者**：カタログ内の閲覧者は、検索やその他の基本的なタスクは実行できますが、このアクセスレベルを持つユーザーは、カタログ内のフィールドを追加、削除、または編集できない点で制限されています。

アクセスレベルとウェブクライアント

Portfolio デスクトップクライアントではアクセスレベルを変更できますが、Portfolio ウェブクライアントに接続するユーザーに対しては、管理者がより細かい権限を設定できます。

Portfolio Server Admin アプリケーション内のアクセスレベルページでカスタマイズできる機能は7種類あります：

- **オリジナルファイルへのアクセスと変換**：オリジナルのダウンロード、または変換ができます。ユーザーはバッチ変換機能を利用できるようになります。
- **メタデータの埋め込み**：ファイル内に埋め込みができるメタデータを編集できます。埋め込みが可能なメタデータは、アイコンで表示されています。
- **PDF 作成**：ファイル PDF に変換してダウンロードすることができます。
- **変換プリセットを管理**：ファイル変換ダイアログからプリセットのカスタム設定を保存できます。カスタム出力設定は、変換設定をカスタマイズ権限を持つユーザーが利用できます。
- **パブリックギャラリーの管理**：パブリックギャラリーの作成、アップデート、削除が行えます。
- **MediaScripts の実行**：MediaEngine で画像、音声、ビデオのファイル変換の可能性を拡張するカスタムスクリプトを実行することができます。この機能を利用するには NetMediaMAX モジュールが必要です。
- **変換プリセットの使用**：保存したプリセットを使用することができます。ユーザーはバッチ変換機能を利用できるようになります。

各アクセスレベルはあらかじめ設定されていますが、編集可能な設定と編集できない設定があります。編集が行えない設定はグレーアウトされています。

例：編集者レベルでは、初期設定ではメタデータを編集することはできませんが、設定を変更して編集可能にすることができます。一方、編集が可能な発行者レベルや、編集が行えない閲覧者レベルの設定を変更することはできません。

アクセスレベルの設定

各ユーザーのアクセスレベルのオプションを設定するには：

1. Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューで、アクセスレベルリンクをクリックします。
3. ユーザーレベルを選択します。
4. オプションをオンまたはオフにします。

注意：

アクセスレベル権限は、Portfolio ウェブクライアントを介して接続するユーザーにだけ適用されます。Portfolio デスクトップクライアントで接続するユーザーは、そのユーザーレベルをベースとするユーザーアクセスレベルセクションで示されているルールに従います。

ユーザーの編集

ユーザーアカウント名、パスワード、フルネーム、デフォルトカタログなどのユーザーアカウント情報を素早く更新することができます。

注意：

LDAP ディレクトリサービスユーザーの場合は、メモ欄のみ編集が可能です。

ユーザーアカウント情報を更新する場合：

1. Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューから、ユーザーリンクをクリックします。
3. パスワード、フルネーム、デフォルトカタログなどの、必要なユーザーアカウント情報を変更します。
認証方法：LDAP ディレクトリサービスを使って Portfolio Server に接続する場合は、ディレクトリサービス認証方法を使ってユーザーアカウントを変更します。Portfolio のアカウント名は、ディレクトリサービスのアカウント名と一致している必要があります。これによってネットワークログイン名とパスワードを使って Portfolio カタログへアクセスすることができます。
注意：Native 認証からディレクトリサービス認証に変更して、それからアカウントを Native 認証利用に変更する場合は、アカウントのオリジナルパスワードは引き継がれます。しかし、Native 認証を使うためにディレクトリサービス認証を使って最初に作成したアカウントを変更する場合は、アカウントのパスワードを追加して確認する必要があります。
4. 適用をクリックして、変更を保存します。

カタログへのユーザーアクセス権と、特定のアクセスレベル権限は、各カタログ内で更新することができます。

注意：

LDAP ディレクトリサービスからカタログのメンバーシップのマッピングを変更するには、詳細は [ディレクトリサービスマッピングの表示と編集](#) 45 ページのを参照してください。

カタログへのユーザーアクセス権を更新する場合：

1. Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューから、カタログリンクをクリックします。
3. このリストからカタログを選択してクリックします。
4. カatalogのメンバシップを管理をクリックします。
5. 変更するユーザーをクリックします。
 - 選択したカタログをユーザーに追加するには、選択したユーザーをカタログに追加するをクリックします。
 - カタログへのユーザーのアクセスレベルを変更するには、ドロップダウンメニューからアクセスレベルを選択し、適用をクリックします。
 - カタログからユーザーを削除するには、メンバシップを取り消しをクリックします。

ユーザーの削除

様々な理由により、Portfolio Server 上の特定のカタログへユーザーがアクセスできないようにしなければならないこともあります。この処理は、ユーザーのカタログのメンバシップを取り消すか、そのユーザーを Portfolio Server から完全に削除するかなど、細かいレベルで実行することができます。

注意：

LDAP ディレクトリサービスからカタログユーザーマッピングを削除することもできます。詳細は [ディレクトリサービスマッピングの表示と編集](#) 45 ページのを参照してください。

ユーザーのカタログのメンバシップを取り消す場合

1. Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューから、カタログリンクをクリックします。
3. カタログパネルからカタログを選択し、カタログのメンバシップを管理リンクをクリックします。
4. 表示されたユーザーリストで、カタログから削除するユーザーを選択し、メンバシップを取り消しリンクをクリックします。

Portfolio Server からのユーザーの削除

1. Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューから、ユーザーリンクをクリックします。
3. ユーザーパネルで、ユーザーを選択します。
4. ユーザーを削除リンクをクリックします。
5. このユーザーのプライベートギャラリーをどうするかを決定し（パブリックにするまたはプライベートギャラリーをすべて削除）、**削除**をクリックします。

ディレクトリサービス

Portfolio Server Professional または Enterprise 版では、利用しているネットワークのユーザーとグループの監視システムを Portfolio Server のアカウント管理と統合することができます。この方法では LDAP サービス (Windows のアクティブディレクトリ、Mac OS X のオープンディレクトリ) から自動的にユーザーに Portfolio カタログへの接続を許可することができます。ネットワーク管理者や Portfolio Server 管理者、ユーザーにとっても便利な機能です。

ディレクトリサービスを利用するには、Portfolio Server を LDAP サーバーと統合します。その後ユーザーアカウントを作成する際にそのアカウントを LDAP ユーザーに特定するか、または Portfolio アカウントのネイティブユーザーにするかを設定できます。LDAP ユーザー名とパスワードを使って Portfolio の LDAP ユーザーとしてログインすることができます。

Enterprise 版では、Portfolio 管理者は LDAP ユーザーとグループを Portfolio カタログにマッピングすることができます。ユーザーとグループに対してカタログへのアクセスを制限することもできます。すなわち LDAP グループのメンバーを変更するとユーザーのアクセス権も自動的に変更することができます。

ディレクトリサービス概要

ディレクトリサービス内で Portfolio を動くようにするには以下のステップで行います：

1. **統合するディレクトリサービスの必要システム条件を確認してください。**
Portfolio Server ディレクトリサービスは以下の LDAP 実装が必要です：
 - Windows Server 2003 R2 のアクティブディレクトリ
(メーカーのハードウェア推奨はこちら：<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc739022.aspx>)
 - Windows Server 2008 R2 のアクティブディレクトリ
(メーカーのハードウェア推奨はこちら：<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc771188.aspx>)
 - Mac OS X Server v10.5 以降のオープンディレクトリ
Mac OS X 10.5 Server - Technical Specifications (<http://support.apple.com/kb/SP529>)
OS X Lion Server - Technical Specifications (<http://support.apple.com/kb/SP630>)
2. **自分のディレクトリサービスと統合します。**
3. **LDAP ユーザーアカウントを作成します。(Portfolio Server Professional または Enterprise)**
4. **Portfolio カタログにディレクトリサービスのソースをマップします。(Portfolio Server Enterprise)**

利用可能なオプション

ディレクトリサービス

- ユーザーログインと認証に際してより安全なネットワークのために SSL を利用することもできます (必ず正しい SSL 用ポートを利用してください。デフォルトは 636 です)。
- Enterprise 版のユーザーは Portfolio Server とディレクトリサービスを毎日同期することができます。

グループ/ユーザーマッピング (Enterprise)

- カタログのメンバーシップとして何人でもユーザーやグループを含めることができます。
- カタログに対してユーザーやグループに対して特定のアクセス権を与えることができます。
- 個別のユーザーをカタログにアクセスできないようにできます。この機能はグループ設定より強く、もしアクセス可能なグループ内のユーザーや、後からグループに追加されたユーザーであっても、除外された個人はカタログにアクセスすることはできません。
- Portfolio Server とディレクトリサービスはいつでも手動で同期することができます。

ディレクトリサービスの設定

ディレクトリサービスの統合：

1. ブラウザを起動して Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. 左側の一覧からディレクトリサービスを選択します。
3. ディレクトリサービスを設定パネルに、利用しているディレクトリサービスの接続設定を入力します。
ホスト名：ディレクトリサービスの IP アドレス、または DNS 名を入力します。
ポート：LDAP 接続ポートを入力します（デフォルトポートは 389 です）。
SSL を利用する場合は使用 SSL オプションを選択して関連ポートにアップデートします（SSL を使った LDAP デフォルトポートは 636 です）。
タイプ：アクティブディレクトリ（Microsoft Windows）またはオープンディレクトリ（Mac OS X）からディレクトリの種類を選択します。
LDAP バインドユーザー名：ディレクトリサービスに接続できるユーザー名を入力します。利用しているディレクトリサービスによってユーザー名をどのように入力するかが変わります。
アクティブディレクトリの場合は、以下のようにユーザー名を入力します：
 - domain\user（例：mycompany\jsmith）
 - user@realm（例：jsmith@mycompany.com）
 - 完全な LDAP 識別名（DN）
（例：uid=jsmith,cn=users,dc=MYCOMPANY,dc=COM）オープンディレクトリの場合は、以下のようにユーザー名を入力します：
 - ドメインユーザー名のみ（例：jsmith）
この方法では anonymous ディレクトリ認証が可能になっている必要があります。オープンディレクトリではデフォルトで設定されています。
 - 完全な LDAP 識別名（DN）
（例：uid=jsmith,cn=users,dc=MYCOMPANY,dc=COM）パスワード：LDAP バインドユーザー名のパスワード
毎日の同期：Enterprise ユーザーは 1 日に一度、LDAP サーバーと Portfolio Server のマッピングを自動的に同期するオプションを選択できます。このオプションが選択できない場合には、のみ同期が可能です。ユーザー認証はユーザーがログインするたびに毎回行われます。そのため LDAP ユーザーにより作成された Portfolio アカウントは同期は必要ありません。
4. 適用ボタンをクリックして Portfolio Server とディレクトリサービスを統合します。

LDAP サービスとの統合が完了すると、ディレクトリサービスの認証を使って Portfolio ユーザーアカウントを作成できます。詳細は [ユーザーの追加](#) 39 ページのを参照してください。

Enterprise ユーザーは特定のカタログに対してユーザーやグループをマッピングすることができます。詳細は [ディレクトリサービスマッピングの表示と編集](#) 下のを参照してください。

ディレクトリサービスマッピングの表示と編集

Portfolio Server カタログに LDAP ディレクトリの組織（OUs）、グループ、ユーザーのどの組み合わせでもマッピングすることができます。マッピングを保存した後、ユーザーやグループの追加や削除、カタログから特定のユーザーのみ除外することができます。

マッピングの表示／編集パネルには 2 つのパートがあります：左側にあるサービスブラウザには、ユーザーとグループの一覧があります。右側のマッピングには、カタログにマッピングされているユーザーが一覧されています。

サービスブラウザ

サービスブラウザには、既存のユーザー、グループ、組織のディレクトリサービスの問い合わせができます。検索ベースやクエリーフィルタで検索された結果は、検索結果にユーザーやグループの階層として表示されます。検索した結果は、カタログのマッピングに利用することができます。

クエリーフィルタ

クエリーフィルタを使うと、検索ベース内の特定のユーザーやグループに制限することができます。

アクティブディレクトリで利用可能なクエリーフィルタ：

- 検索ベース以下のツリー全体：検索ベース内の LDAP ツリーの一番高いレベルを表示します。特定のエントリーを手動で参照したい場合に利用します。
- ディストリビューショングループ：検索ベース内で公開されているすべてのグループを表示します。
- セキュリティグループ：検索ベース内のすべてのセキュリティグループを表示します。
- ユーザー：ディレクトリサービス内のすべてのユーザーをフラットに（階層にしないで）表示します。
- 名前：ユーザーの名前でフィルタをかけられます。このフィルタでは名前の「を含む」「で始まる」「と等しい」などのオプションが利用できます。

オープンディレクトリで利用可能なクエリーフィルタ：

- 検索ベース以下のツリー全体：検索ベース内の LDAP ツリーの一番高いレベルを表示します。特定のエントリーを手動で参照したい場合に利用します。
- グループ：検索ベース内のすべてのグループを表示します。
- ユーザー：ディレクトリサービス内のすべてのユーザーをフラットに（階層にしないで）表示します。
- cn：cn アトリビュートを使ってユーザーの名前でフィルタをかけられます。このフィルタでは名前の「を含む」「で始まる」「と等しい」などのオプションが利用できます。

ディレクトリサービスマッピングの作成

ユーザー／グループマッピングはシンプルで自由、そしてパワフルな方法で Portfolio カタログへのネットワークアクセスを可能にします。Portfolio ユーザーが安定して利用できるように、アカウントマッピングがどのように機能しているのか理解しておくことが重要です。




重要

Portfolio で最初にマッピングされたユーザーアカウントが決定権を持ちます。例えば、編集グループと、制作マッピンググループに所属するユーザー `jennifer` がいて、最初に編集グループがマッピングされると、ユーザー `jennifer` は、制作グループに割り当てられるアクセス権に関係なく、編集グループのアクセスを持ちます。同様にグループに割り当てた後、個別のアカウントにマッピングしても、グループのマッピングが保持されます。

はじめにユーザーアカウントをマップさせてから、次にグループアカウントをマッピングさせると良いでしょう。

個別のユーザーアカウントの除外はいつでも可能です。

ディレクトリマッピングの作成：

1. ターゲットカタログ右側にあるユーザー／グループマッピングパネルにあるターゲットカタログドロップダウンメニューからマッピングするカタログを選択します。
すでにこのカタログにマッピングが作成されている場合は、それが表示され編集することができます。
3種類の方法からマッピングターゲットを選択することができます：
 - **特定のカタログ**：複雑なユーザーとグループマッピング向けです。
 - **全カタログ**：多くのカタログにユーザーをマッピングする際に便利です。
 - **なし**：ディレクトリサービスユーザーを取り込み、Portfolio アカウントを自動的に作成できます。そのユーザーをカタログに手動で割り当てることができます。
2. 左側の検索結果からエントリーを選択できます。
ユーザー、グループ、組織の、どの組み合わせでも選択することができます。
3. サービスブラウザの下にある**マッピング作成** をクリックします。
マッピングパネルに選択したエントリーをドラッグすることもできます。
4. 特定のユーザーをマッピングから除外するには、検索結果内でユーザーを選択してから、**除外ユーザー** をクリックします。
5. マッピングパネル内のユーザーまたはグループエントリーの横にあるドロップダウンメニューから各ユーザーのアクセスレベルを選択することもできます。
6. **マッピング保存** をクリックします。これで Portfolio Server はディレクトリサービスと同期を行い、選択したカタログに対して特定のユーザーを追加します。

自動同期とグループアップデート

グループ内の各ユーザーではなくグループ自体をマッピングする大きな利点は、将来的にこのグループに追加されるメンバーは同じカタログのメンバーに追加される点です。ユーザーはネットワークログイン情報でカタログにすぐにアクセスできるようになります。

アクセス可能なグループ内のユーザーであっても、特定のユーザーがカタログにアクセスできないように**除外ユーザー**機能を利用することができます。

グループ内の一部のユーザーのみをカタログにアクセスさせたい場合は、グループを追加してからその他のユーザーを除外するのではなく、アクセスさせたい各ユーザーを個別にカタログに追加することをお勧めします。グループで追加すると後からグループに追加されたユーザーも自動的にカタログへのアクセス権を持ってしまうためです。


既存のカタログマッピングの編集

保存したマッピングを編集することができます。Portfolio Server Admin アプリケーション内のディレクトリサービスをクリックして、マッピングの表示／編集をクリックします。右側のパネルにあるターゲットカタログドロップダウンメニューからカタログを選択します。

マッピングを編集する間、いつでもユーザーとグループをフィルタするサービスブラウザを利用できます。

既存のマッピングからユーザーやグループを除外するには、右側のパネルからユーザーまたはグループ名を選択してから、**ソースの削除** をクリックします。

マッピングに新規ユーザーまたはグループを追加するには、左側のサービスブラウザ内のユーザーまたはグループを選択してから、**マッピング作成** をクリックします（または選択したユーザーを右側のパネル内のマッピングにドラッグします）。

Portfolio カタログからユーザーを除外するには、サービスブラウザ内でユーザーを選択して、**ユーザー除外** をクリックします。このユーザーがどのグループに属しているかに関わらず除外されていることを示すために、マッピング内にこのアイコンと共に追加されます。

変更を保存しないで変更をキャンセルするには、右側のパネルの下にある**元に戻す** をクリックします。

変更を保存するには、右側のパネルの下にある**マッピング保存** をクリックします。

Portfolioとディレクトリサービスの同期

この設定は *Portfolio Server Enterprise* 版のみ利用できます。

Portfolio カタログにディレクトリサービスのアカウントをマッピングしている場合は、定期的に Portfolio をディレクトリサービスと同期させる必要があります。

新規またはマッピングの変更、すぐに Portfolio にディレクトリサービスの変更を適用したい場合は、手動で Portfolio とディレクトリサービスを同期することができます。

手動でディレクトリサービスと同期する：

1. ウェブブラウザを起動して Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. 左側のディレクトリサービスをクリックします。
3. ディレクトリサービス設定パネルの下にある今すぐ同期するをクリックします。

自動的に1日に1度 Portfolio Server とディレクトリサービスを同期させることもできます。

ディレクトリサービスの同期設定を変更する：

1. ウェブブラウザを起動して Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. 左側のディレクトリサービスをクリックします。
3. ディレクトリサービス設定パネルにある毎日同期オプションを選択（または選択解除）します。
4. **適用**をクリックして新しい設定を保存します。

ディレクトリサービス設定の削除

ディレクトリサービスの設定を削除したい場合、簡単な方法としてはディレクトリサービスと Portfolio Server の接続を切り離します。この場合サービスを通じて設定されたユーザーは自動的に同じパスワードとユーザー名を持つ Portfolio のネイティブユーザーに切り替わります。

注意：このパスワードはできるだけ早く変更する必要があります。

ディレクトリサービス設定を削除するには：

1. ウェブブラウザを起動して Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. 左側の一覧にあるディレクトリサービスをクリックします。
3. ディレクトリサービスパネルにあるサービス削除をクリックします。

カタログの管理

Portfolio デスクトップクライアントを使用して行わなければならないカタログ管理作業は多数あります。たとえば、次のような場合です：

- カスタムフィールド、マスターキーワードリスト、およびその他の機能を追加することでニーズに合わせる、カタログのカスタマイズ
- データを格納するためのオートシンクフォルダの作成

注意：

デスクトップクライアントから管理者モードでログインすると、そのカタログのカスタムフィールドの作成、メタデータ設定のアップデートが行えます。詳細はデスクトップクライアントユーザーガイドまたはヘルプシステムを参照してください。

カタログのカスタマイズ

カタログには、ユーザーのニーズに合わせてカスタマイズ可能な個所があります。

カタログのカスタマイズはすべて、Portfolio デスクトップクライアントで行います。各カタログ機能の詳細については、Portfolio デスクトップユーザーガイドを参照してください。

一般的に、管理者が設定を希望するのは、次のカタログプロパティです。

- **カスタムフィールド**：ユーザーのワークフロー特有のフィールドです。必要なタイプの情報を入力できるカスタムフィールドを追加することができます。たとえば、フォトストックから購入した写真や映像のコピーライト情報とライセンス情報を一緒に保存することができます。
- **マスターキーワードリスト**：このリストは、キーワード入力の一貫性を保つ上で非常に役立ちます。カタログ内での一貫性を確保するために、ユーザーがいつでもマスターキーワードリストからキーワードを入力するようにできます。たとえば、自動車のすべての写真のキーワードを車ではなく、自動車に統一することができます。
- **デフォルトのフィールド値**：一般的な設定があるフィールドについては、フィールドデータを手作業で入力しなくてよいように、そのフィールドのデフォルト値を設定することができます。たとえば、プロジェクトステータスのカスタムフィールドのデフォルト値をアイデアにしておくことができます。
- **カタログ作成オプション**：これらのオプションは、カタログへのデータの追加方法を決定します。

オートシンク

オートシンクはPortfolioの最も重要で強力な機能の1つです。ネットワーク上の任意のフォルダの内容をPortfolioのカタログと同期させたり、その逆を行える素晴らしい機能です。また、Portfolioウェブクライアントのユーザーがカタログに対してどこにファイルをアップロードするかを定義する方法でもあります。

オートシンクフォルダは、Portfolio デスクトップクライアントで追加する必要があります。

オートシンクとは？

オートシンクでは、ネットワーク上の特定のフォルダとPortfolioカタログのアイテムの間にリンクを作成します。

(MacのFinderまたはWindowsエクスプローラを用いて) そのフォルダに移動したファイルは、自動的にPortfolioでカタログ化され、Portfolioカタログに自動的に登録されます。

オートシンクはディスク上にあるフォルダとファイルを表示するだけではありません。Portfolio デスクトップクライアントと共にオートシンクを使えば、フォルダの作成、移動、削除を行うことができ、事実上Portfolioからファイルサーバーの管理、およびカタログ化されたファイルを任意の場所に置くことが可能になります。

オートシンクの典型的な使用方法：

- Portfolioカタログからサムネールをフォルダにドラッグして、Portfolioでディスク上のファイルを整理できます。
- ハードディスク（またはネットワーク）から既存の階層構造のフォルダをPortfolioの「フォルダパレット」に追加し、「同期」ボタンを一度クリックするだけで、すべてのフォルダの内容をカタログ化します。
- Portfolioでネットワーク上の任意の数のフォルダを監視し、これらのフォルダにファイルが追加されたり、これらのフォルダのファイルが変更されたり削除されるたびに、視覚的に警告を行います。
- Portfolioを終了することなく、またはPortfolioカタログを手動で更新することなく、カタログ化されたファイルをネットワーク上のフォルダから別のフォルダへと移動できます。
- ワークグループの他のユーザーが、オートシンクが監視しているフォルダに対し、ファイルをドロップするだけで、カタログにアイテムを追加できます。同期ボタンを一度クリックするだけで、それらのファイルをカタログに移動できます。

オートシンクと、Portfolio デスクトップクライアントおよびPortfolioウェブクライアントの関係

Portfolioウェブクライアントを導入すると、オートシンクはウェブクライアントのユーザーにとって重要な機能となります。適切なアクセスレベルのウェブクライアントユーザーは、オートシンクを介して、ファイルサーバーにあるカタログにアイテムを追加することができます。ウェブクライアントユーザーがファイルをアップロードできるようにするには、カタログは最低1つのオートシンクフォルダを持っている必要があります。

カタログ管理者は、デスクトップクライアントを使ってオートシンクフォルダの作成や管理が行えます。

デスクトップと、ウェブクライアントユーザーが、開いているカタログ内のオートシンクフォルダの中に、カタログ内のアイテムをドラッグすると、オリジナルファイルもオートシンクフォルダのディレクトリに移動します。

フォルダパレットの表示

Portfolio デスクトップクライアントでオートシンクフォルダを使うには、フォルダ表示パネル (Windows) またはドロワー (Mac) を表示する必要があります。まだ表示されていない場合は、**表示>フォルダ**を選択してください。最初、フォルダパレットは空白です。Portfolioと同期させるハードディスクまたはコンピュータネットワーク上にある任意のフォルダは、追加された後にこのパレット内に表示されます。

オートシンクフォルダの作成

オートシンクフォルダの利点は、Portfolio Server が、ファイルサーバー上のディレクトリに移動されるカタログのアイテムを監視し、自動的に追加することです。このため、Portfolio Server がオートシンクフォルダを自

動的に更新している間、カタログで他の作業を行うことができます。新しいオートシンクフォルダは、Portfolio Server からアクセス可能な共有上に配置してください。マウントされている共有（Mac）またはネットワークを通してブラウズ可能な共有（Win）に含まれているフォルダのみを追加できます。

カタログ作成時にオートシンクフォルダを作成する

Portfolio カタログを作成する際に、そのカタログ用のオートシンクフォルダを Portfolio Server 内で作成することができます。

この方法は簡単に実行でき、なおかつウェブクライアントユーザーがすぐに利用を開始することができます。

このオプションを利用する場合は、Portfolio Server のブートドライブ上に十分な容量が空いていること、クライアントが今後追加するファイルがどのくらいの容量になるのかを把握しておくことが重要です。

カタログ作成時にオートシンクフォルダを作成するには：

1. ウェブブラウザを起動して、Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューのグローバル設定をクリックします。
3. デフォルトカタログをクリックします。
4. 新規カタログのオートシンクフォルダを次のフォルダ内に作成のチェックボックスにチェックを入れます。フィールド内のパスはできるだけそのままにしておきます。もし変更する場合は、そのフォルダに Portfolio Server が継続的に読み書きできるアクセス権が必要です。
5. メインメニューのカタログをクリックします。
6. 新規カタログを追加をクリックします。
7. カタログの種類、ストレージの種類を選択し、カタログ名を入力します。
8. オートシンクフォルダを作成チェックボックスにチェックを入れます。
9. **作成**をクリックします。

オートシンクフォルダにはカタログ名に“Files”がついた名前が付与されます。作成したカタログ名が“Big Client”の場合は、オートシンクフォルダ名は“Big Client Files”となります。

このフォルダに設定されている同期設定は以下の通りです：

- フォルダ内の変更を常に監視する
- 変更が見つかった時に同期する
- カタログにあるアイテムのオリジナルファイルが見つからないとき、カタログ内にアイテムを残す

これらの設定を変更する場合の詳細は**オートシンクフォルダの設定の変更** 52 ページのを参照してください。

デスクトップクライアントからオートシンクフォルダを作成する

オートシンクフォルダを作成するには：

1. フォルダ表示パネル／ドロワー内の**監視フォルダを追加** ボタンをクリックします。フォルダ表示パネル (Windows) またはドロワー (Mac) が表示されていない場合は、**表示 > フォルダ**を選択します。
2. オートシンクフォルダとして監視したいフォルダを指定して**参照**をクリックします。Portfolio Server のスピードを快適にするためには、監視フォルダをできるだけ増やさずしておく必要があります。複数の監視フォルダを作成したい場合は、1つのフォルダにまとめ、まとめたフォルダを監視フォルダに指定します。
3. オートシンクの設定ダイアログボックスで、次のオプションを選択します：
監視および同期のオプション：フォルダ内の変更をつねに監視するオプションでは基本的に、サーバーがオートシンクフォルダの変更の有無を確認するタイミングを指定します。変更が見つかったら、フォルダパレットでフォルダ名がハイライトされます。
同期するタイミング：このオプションを使用すると、オートシンクフォルダ（監視フォルダ）にあるアイテムをカタログに追加する間隔、またはカタログから削除する間隔を設定できます。
同期時にカタログ作成オプションのプリセットを使用する：このオプションを使うと、保存したプリセットをカタログ作成時に使用することができます。カタログ作成時のプリセットを作成して保存しておくこと、そのプリセットがドロップダウンリストに含まれます。
プリセットにはコピー、移動、ファイル名変更機能を含めることができますが、同期時に使用する際にはプリセットのこうした機能は無視されます。基本的に、カタログ作成プリセットのプロパティの割り当て（フィールド名、説明、キーワード）のみが使用されます。保存したプリセットがプロパティの割り当てを含んでいない場合は、ドロップダウンメニューには表示されません。
カタログ作成オプションのプリセットを作成し、保存する詳しい手順については、Portfolio デスクトップクライアントユーザーガイドのPortfolio の設定を参照してください。
カタログ内のアイテムに対するオリジナルが見つからないとき：このオプションでは、オートシンク同期中にオリジナルファイルが見つからなかった場合にカタログ内のアイテムを保持するか、削除するかを指定することができます。
フォルダの並べ替え設定：フォルダの並べ替え設定は、最初にフォルダを開いたときにPortfolio デスクトップクライアントが表示を並べ替える方法を指定します。任意のフィールドを使ってアイテムを並べ替えるか、このフォルダの現在のカスタム並べ替えを適用することができます。現在のカスタム並べ替えを適用する場合は、作成したカスタム並べ替えが、そのカタログレベルのフォルダに適用されます。
4. **OK** をクリックしてオートシンク設定を反映します。
5. ネットワークボリュームダイアログでクライアントからオートシンクフォルダに接続する方法を選択します。
利用可能な各オプションの詳細は、ダイアログ内でオプションを選択すると下に表示される説明をお読みください。

注意：

Xsan ボリューム内にオートシンクフォルダを作成する場合は、Direct と表示される接続を選択してください。

6. **選択**をクリックしてオートシンクフォルダを作成します。

オートシンクフォルダの設定の変更

オートシンクフォルダを作成した後、オートシンクの設定は簡単に変更することができます。

1. Portfolio デスクトップクライアントを起動し、公開されているカタログに接続します。
2. フォルダパネルを開き、オートシンクフォルダを選択します。
3. フォルダパネルの上部にある**オートシンクの設定**ボタンをクリックします。
4. オートシンクの設定ダイアログボックスで、必要な設定を変更して **OK** をクリックします。

オートシンクフォルダの詳細

オートシンクフォルダとローカルパス

現在の Portfolio クライアントと同じコンピュータにオートシンクフォルダを追加すると、Portfolio は、多数の共有選択オプションを表示します。共有選択オプションは、すべて新しいオートシンクフォルダへの有効なパスです。設定に最も適した共有パスを選択してください。

注意：

デスクトップシステム上のローカルパスは、2つの理由から、ネットワークで共有する必要があります。この2つの理由とは、ファイルをカタログに追加するために Portfolio Server がファイルにアクセスできるようにすることと、Portfolio デスクトップクライアントのユーザーがネットワークを介してファイルにアクセスできるようにするためです。

Portfolio Server へのローカルオートシンクフォルダ

Portfolio Server と同じコンピュータにオートシンクフォルダを追加すると、これらのフォルダを同期するのに必要なネットワークトラフィックの量を抑えることができます。このため、同じコンピュータ上に共有を作成し、オートシンクフォルダを追加する場合は、これらのフォルダの同期速度が、ローカルでないオートシンクフォルダの同期より著しく向上します。

重複した共有名を利用しない

異なるターゲットディレクトリを持つが、同じ名前である共有の追加は避けてください。たとえば、1つが C:/mystuff/pictures/、もう1つが C:/documents/pictures/ を指す、pictures という名前の2つの共有があるとします。オペレーティングシステムと Portfolio Server の内部優先度により、予期しない結果になることがあります。

Machintosh マウント共有

Portfolio Server を Macintosh 環境で実行している場合は、ユーザーが作成したオートシンクフォルダを含んでいる可能性があるすべてのネットワーク共有をサーバーにマウントすることが必要です。また、Windows 版の Portfolio クライアントから Macintosh 版の Portfolio Server で公開されているカタログにオートシンクフォルダを追加する場合は、Macintosh 版のサーバーがマウントしている同一の共有にナビゲートする必要があります。

共有の種類と用途

共有の種類	説明	用途
AFP	Apple File Protocol による共有。これは、Mac OS X で固有のファイル共有方法です。	AFP は、Macintosh のみまたは Macintosh が混在した環境で使用します。Windows ベースのサーバーでは、Macintosh サービスを使用可能にする必要があることがあります。
SMB	Samba Protocol による共有。Macintosh、Windows、Unix/Linux 間のクロスプラットフォームに対応した共有方法です。	SMB は、プラットフォームが混在した環境で使用します。SMB は、AFP よりも命名規則が制限されており、作成日や変更日などの一部のファイルプロパティをやり取りしません。
ローカルドライブ	ローカルボリュームでの共有。	このオプションは、サーバーボリューム全体をマウントできる場合だけ使用します。このオプションは、主にテスト用です。
ダイレクト	サーバーとクライアントある同じコンピュータ上のフォルダ	Xsan ボリューム用、またはクライアントとサーバーが常に同じコンピュータ上にある場合に使用します。

オートシンクプロセスの停止

オートシンクプロセスを停止するには、Portfolio デスクトップクライアントを使用して、公開されているカタログからオートシンクフォルダを削除するか、Portfolio Server Admin アプリケーション内でカタログの公開を中止します。どちらを行っても、同期プロセスは停止されます。

オートシンクフォルダを削除した場合は、カタログにフォルダを再追加することで、必要に応じて同期を再開できます。

カタログの公開を中止した場合は、カタログを再公開すると、オートシンクはカタログの公開を中止したポイントから自動的に再開します。

Portfolio Server の管理

Portfolio Server のバックアップ

アクシデントは起こります。誰にでも、ラップトップを落としたり、ハードディスクが壊れたり、ネットワーク接続が最悪のときにダウンするという可能性があります。

バックアップすべき最も重要なファイルは、Portfolio カタログ、データベースフォルダ、オリジナルファイル、プレビュー画像です。

Portfolio カタログは、ネイティブの Portfolio FDB カタログフォーマットで格納することも、SQL データベースで Portfolio SQL Connect を使用して格納することもできます。

Portfolio Server データ

FDB ファイルには、すべてのアセットのメタデータ、オリジナルファイルおよびプレビューファイルの位置などの、ファイルについてのすべての情報が格納されています。Portfolio Server データベースフォルダには、ユーザーやカタログアクセスレベルなどのサーバー設定情報が保存されています。

FDB カタログファイルと、Portfolio Server データベースフォルダをバックアップするには、すべてのユーザーをログオフさせ、Portfolio サービスを停止しなければなりません。次のバッチファイルのいずれかを使用すると、自動的にユーザーをログオフさせ、Portfolio サービスを停止することができます。

Windows のバッチファイル

メモ帳などのテキストエディタを使用して、次のバッチファイルを作成します。もちろん、以下のファイル名やディレクトリ情報は実際のものに置き換える必要があります。ファイルの場所は OS によって異なります。このファイルは .BAT 拡張子を付けて保存してください。

注意：

以下の各コマンドは一行で入力してください。コマンドラインはスペースで分けられます。

```
net stop "Portfolio Server"
net stop "Portfolio Server Admin"
timeout /T 30
xcopy /V /Y /Z "%SYSTEMDRIVE%\Program Files\Extensis\Portfolio
Server\applications\native-server\Catalogs\*.fdb"
"C:\backuplocation\applications\native-server\Catalogs\"
xcopy /V /Y /Z "%SYSTEMDRIVE%\Program Files\Extensis\Portfolio
Server\data\database" "C:\backuplocation\data\database\"
net start "Portfolio Server Admin"
net start "Portfolio Server"
```

Portfolio Server を再起動した後、NetPublish を利用している場合はこちらも再起動が必要です。同じサーバーマシン上で NetPublish が動いている場合は、バックアップスクリプトに以下のコマンドを追加することができます：

```
net stop "Portfolio NetPublish"
timeout /T 10
net start "Portfolio NetPublish"
```

このスクリプトを利用して、NetPublish サービスをリモートで再起動させるには、以下の行をバックアップスクリプトに追加します。NetPublish server をリモートで再起動させるには、NetPublish server の管理者アクセスのドメインユーザーアカウント内でこのスクリプトを実行する必要があります。

```
sc \\NETPUBLISHSERVERHOSTNAME stop NetPub
timeout /T 10
sc \\NETPUBLISHSERVERHOSTNAME start NetPub
```

You may also want to back up your server's configuration file, QuickFind settings and script files. To do so, add the following lines to your backup script.

```
xcopy /V /Y /Z "%SYSTEMDRIVE%\Program Files\Extensis\Portfolio
Server\applications\native-server\portfolio server files\Configuration.txt"
"C:\backuplocation\applications\native-server\portfolio server files\"
xcopy /V /Y /Z "%SYSTEMDRIVE%\Program Files\Extensis\Portfolio
Server\data\quickfind.xml" "C:\backuplocation\data\"
xcopy /V /Y /Z "%SYSTEMDRIVE%\Program Files\Extensis\Portfolio
Server\applications\media-engine\Shared\Originals\Scripts"
"C:\backuplocation\applications\media-engine\Shared\Originals\Scripts\"
```

Windows Explorer でアイコンをダブルクリックするか、コマンドラインインターフェイスからこのバッチファイルを実行します。

Windows の Scheduled Tasks 機能を使用すると、このバッチファイルを必要に応じて自動的に実行するようにスケジューリングできます。詳しい手順については、Microsoft Windows のドキュメントを参照してください。

Macintosh スクリプト

テキストエディットなどのテキストエディタを使用して、次のシェルスクリプトを作成します。ファイルはプレーンテキストとして作成し、.SH 拡張子を付けて UTF-8 (Unicode) 形式で保存します。使用しているエディタにオプションがある場合は、UNIX の改行コードを選択します。

注意：

以下の各コマンドは一行で入力してください。

```
#!/bin/sh
SystemStarter stop ExtensisDamServer
launchctl unload /Library/LaunchDaemons/com.extensis.dam-
server.web.admin.launchd.plist
sleep 30
ditto -rsrc "/Applications/Extensis/Portfolio Server/applications/native-
server/Catalogs" "/backuplocation/applications/native-server/Catalogs"
ditto -rsrc "/Applications/Extensis/Portfolio Server/data/database"
"/backuplocation/data/database"
launchctl load /Library/LaunchDaemons/com.extensis.dam-
server.web.admin.launchd.plist
SystemStarter start ExtensisDamServer
```

同じサーバーマシン上で NetPublish が動いている場合は、バックアップスクリプトに以下のコマンドを追加することができます：

```
SystemStarter restart "Portfolio NetPublish Server"
```

サーバーの設定ファイル、クイック検索設定、スクリプトファイルもバックアップすることができます。実行するには以下のコマンドをバックアップスクリプトの最後の launchctl コマンドの前に追加してください：

```
ditto -rsrc "/Applications/Extensis/Portfolio Server/applications/native-
server/portfolio server files/Configuration.txt"
"/backuplocation/applications/native-server/portfolio server
files/Configuration.txt"
ditto -rsrc "/Applications/Extensis/Portfolio Server/data/quickfind.xml"
"/backuplocation/data/quickfind.xml"
ditto -rsrc "/Applications/Extensis/Portfolio Server/applications/media-
engine/Shared/Originals/Scripts" "/backuplocation/applications/media-
engine/Shared/Originals/Scripts"
```

このスクリプトは、cron コマンドを使用して自動化することができます。このコマンドの詳細については、ターミナルウィンドウで man cron と入力します。Mac OS X のスクリプト機能の詳細については、次の Web サイトを参照してください：

http://www.macdevcenter.com/pub/a/mac/2003/11/07/scripting_osx.html

SQL ベースのカタログ

SQL データベースを利用しているユーザーは、Portfolio Server データベースと一緒に、SQL データベースをバックアップする必要があります。

SQL のバックアップ方法は、インストールされている SQL サーバーにより異なります。これらのデータベースは SQL データベースで通常行うようにバックアップします。バックアップ方法の詳細については、インストールされている SQL のドキュメントを参照してください。

このバックアップから復元するには、ご使用中の SQL の、バックアップから新しい SQL データベースへの復元についてのガイドラインに従ってください。この処理が完了したら、*SQL データベースの公開* 94 ページのを参照してください。使用する前に、管理者は新しく復元されたカタログにユーザーを割り当てる必要があります。

プレビュー画像ディレクトリ

カタログに関連する画面プレビューファイルをバックアップすることも重要です。

プレビュー画像の格納に現在使用されているディレクトリを見つける場合：

1. ウェブブラウザを起動して、Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューのカタログをクリックします。
3. カatalog パネルでカタログを選択します。
4. カatalog 詳細情報を表示/編集をクリックします。
5. 詳細 パネルのプレビュータブを選択します。プレビューファイルへのディレクトリパスが表示されます。

プレビュータブで示された場所の中身を、FDB または SQL データベースとともにバックアップします。プレビューファイルのバックアップには、サードパーティーのバックアップ専用ツールを利用すると良いでしょう。

オリジナルファイルのバックアップ

Portfolio はカタログに登録されているオリジナルファイルのバックアップを自動では行いません。Portfolio のいくつかの機能ではオリジナルファイルを若干変更する場合がありますので、オリジナルファイルを含む重要なデータのバックアップしておく必要があります。

元ファイルの安全を確実にするには、RAID システムなどを採用します。またはサードパーティーのバックアップソフトウェアを使った定期的なバックアップをお勧めします。

Portfolio Serverとデータ処理のログ

Portfolio Server は、多くの場所にパフォーマンスとエラーについての情報を記録します。問題のトラブルシューティングや特定が必要な場合に便利です。Extensis のテクニカルサポートでは、問題が発生した際に以下のログファイルのいくつかのご提供をお願いすることがあります。

デフォルトでは、ログファイルは以下の場所に保存されています：

Macintosh: /Applications/Extensis/Portfolio Server/logs/ and
/Applications/Extensis/Portfolio Server/logs/<server_name>/

Windows: C:\Program Files\Extensis\Portfolio Server\logs\ and
C:\Program Files\Extensis\Portfolio Server\logs\<server_name>\
<server_name>には、Portfolio Server が動いているコンピュータ名が入ります。

Portfolio Server Admin アプリケーションでできること：

- ログファイルに含める情報レベル
- 日々の server.log ファイルの保持数
- ログファイルの保存場所の変更

server.log と jetty.log ファイルに書き込む情報を変更する：

1. ブラウザを起動して、Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. 左側のメニューから**グローバル設定**をクリックします。
3. **ログ設定**をクリックします。
4. **ログレベル** ドロップダウンメニューから選択します：
Error : エラーメッセージのログのみ
Info : エラーログと特定の他のイベントに関する情報
Debug : エラーログとすべてのイベントに関する情報
5. **適用**をクリックします。

注意 : Debug レベルを選択するとログファイルサイズが非常に大きくなります。Extensis サポートが必要とした場合のみ利用してください。

server.log ファイルの保持数の変更：

1. ブラウザを起動して、Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. 左側のメニューからグローバル設定をクリックします。
3. ログ設定をクリックします。
4. 保存するログ数フィールドで、保存させるログファイル数を指定できます。
5. 適用をクリックします。

毎日深夜に Portfolio Server は現在の server.log ファイルを閉じ、前日の日付をファイル名に付けます。そして新しい server.log ファイルをスタートします。

Portfolio が保存するログファイルの場所を変更することができます。

1. Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. グローバル設定をクリックします。
3. ログ設定をクリックします。
4. ログディレクトリフィールドに、Portfolio Server が生成するログファイルを保存したい場所のパスを入力します。
5. 適用をクリックします。

注意：

- 新しいフォルダは既存のものである必要があります。Portfolio Server がフォルダを作成することはありません。
- server.log と jetty.log ファイルのみ新しい場所に移動されます。
- Macintosh では、パスは Portfolio Server がブートしているボリュームのルートディレクトリから始まる必要があります。
- Windows では、ドライブ名から始まるパス、または \\computer_name\share_name\...\folder のような UNC パスが利用できます。

ログファイル

ログファイルは以下のとおりです（YYYY は 4 桁の年号、MM は 2 桁の月、DD は 2 桁の日付が入ります）：

logs/boot.log：このファイルは JBoss サーバーが起動する際に生成されます。一般的なデバッグ情報、バージョン情報、Java システムプロパティを記録します。一度 JBoss が起動すると、定期的なログが取られるためこのファイルは利用されません。JBoss を再起動するたびにこのファイルは削除されます。

logs/extensis.admin.log：このファイルには、Portfolio Server Admin アプリケーションのステータスに表示される、すべての起動・シャットダウンメッセージが含まれます。

logs/jboss-wrapper.log (Windows のみ)：このファイルには、JBoss service wrapper による Java プロセスが開始する際の低いレベルのメッセージが含まれます。Java プロセスの起動の失敗などのエラーがわかります。

logs/jetty.<YYYY_MM_DD>.log：Portfolio Server Admin アプリケーションの内部 Web コンテナのログファイルです。Jetty Web インターフェイスは Portfolio Server 自身とは独立して動作しているため、Portfolio Server を停止または再起動しても、Jetty サービスは常に動作しています。このログは、Portfolio Server Admin アプリケーションにログインするときの問題を診断するのに役立ちます。

logs/jetty.request.<YYYY_MM_DD>.log：このログファイルは、HTTP アクション、IP アドレス、レスポンスコードによる Web サーバーのリストです。

logs/jetty-wrapper.log (Windows のみ)：このファイルには、Jetty service wrapper による Java プロセスが開始する際の低いレベルのメッセージが含まれます。Java プロセスの起動の失敗などのエラーなどがわかります。

logs/mgen.log：通常のアウトプットと MediaRich エンジンのエラーが含まれます。

logs/native-server.log：Portfolio Server が出すメッセージと、Portfolio Server Admin コンソールで表示されるメッセージが含まれます。

logs/server.log : メイン JBoss サーバーのログファイルです。

logs/<server_name>/MediaGenerator-<MMDDYYYY>.log : このログファイルには、Media Engine が引き受けるすべての処理が記録されます。どのような理由であっても Media Engine がデータを処理できなかった場合、このログにエラーが記録されます。

logs/<server_name>/ScriptErrors-<MMDDYYYY>.log: このログファイルは、Media Engine がエラー結果を出した場合に生成されます。このログのエラー記録から正しくないスクリプトや他のエラーがわかります。例えば、Portfolio ウェブクライアントがファイルダウンロードや変換など、メディアエンジンの操作を実行した際の情報など、メディアエンジンの操作、他からの操作が含まれます。

設定ファイル

Portfolio Server には、Portfolio Server Admin アプリケーションでは利用できない高度な設定項目があります。たとえば、次のような場合です。

- **Windows 認証の許可** : SQL データベースへの、Windows 認証による信頼関係のある接続を許可します。
- **リスナーIP** : サーバーがクライアント接続を受信待機する IP アドレスを制御します。
- **ログカテゴリ** : 特定の機能領域をベースに、Portfolio Server のログレベルを拡張する機能です。

設定ファイルは、名前が configuration.txt で、どのテキストエディタでも編集することができます。このファイルは、サーバー上の次のディレクトリにあります。

Macintosh : /Applications/Extensis/Portfolio Server/applications/native-server/portfolio server files/

Windows : \Program Files\Extensis\Portfolio Server\applications\native-server\portfolio server files\

Windows 認証と設定ファイル

Windows 認証による SQL データベース接続の許可

Portfolio SQL Connect と MS SQL Server では、Windows 認証を使ってデータベースとの信頼関係のある接続を確立することができます。

注意 :

この処理を正しく機能させるために、Portfolio Server はドメインユーザーとして動作している必要があります。詳細は **ドメインユーザーアカウントオプション 15 ページ**のを参照してください。

Windows 認証による接続を許可する場合 :

1. テキストエディタで configuration.txt を開きます。
2. 次の行からコメント(#)を外します。
#AllowWindowsAuthentication = yes
3. ファイルを保存して、Portfolio Server を再起動します。

Windows 認証による信頼関係のある接続を有効にする場合：

1. Portfolio Server Admin Web アプリケーションを開きます。
2. メインメニューで、カタログリンクを選択します。
3. カタログパネルで、新規カタログを追加を選択します。
4. 新規カタログを追加パネルで、ドロップダウンメニューからカタログの種類を選択します。
5. ストレージの種類として SQL を選択します。
6. データベースのドライバのドロップダウンメニューで正しい SQL ODBC ドライバが選択されていることを確認します。
7. **データベースを表示**ボタンをクリックし、Windows 認証による信頼関係のある接続でサービスを行いたいデータベースを選択します。
8. データベースのユーザー名に `trusted` を指定し、データベースのパスワードフィールドは空白のままにします。

注意：

`trusted` を入力する前に、`configuration.txt` ファイルを編集しておく必要があります。

9. **作成**ボタンをクリックします。

注意：

信頼関係のある Windows 認証を使用可能にする前にすでに Portfolio Server でそのデータベースが提供されていた場合、Portfolio Server 内のそのデータベースのカタログエントリを、信頼関係のある Windows 認証を使用可能にする手順に進む前にまず削除しなければなりません。その後このデータベースを、Portfolio Server を介し、信頼関係のある Windows 認証によって提供し直すことができます。

設定ファイルによる IP アドレスの指定

デフォルトでは、Portfolio Server と SQL Connect は、サーバー上にあるすべての IP アドレスと、デフォルトポート 2903 で受信待機しています。自分で特定のポート番号を指定することもできます。ポート番号を指定するには、Portfolio Server が使用するポート番号の更新についてのセクションで詳細を参照してください。

特定の IP アドレスを設定する場合：

1. テキストエディタで `configuration.txt` を開きます。
2. `#ListenerIP` のテキストから始まる行を見つけます。
3. この行からコメントインジケータ（`#`を削除し、IP アドレスを希望するアドレスに変更します。例：
`ListenerIP = 127.0.0.1`
4. ファイルを保存して Portfolio Server を再起動します。

設定ファイルによるデータベースイベントのロギング

Portfolio Server や SQL データベースの問題を診断できるように、`native-server.log` ファイルに、一般的なデータベース操作を保存することができます。デフォルトでは、起動、シャットダウン、エラーメッセージがログに保存されます。

ログに追加できる操作は次のとおりです：

コマンド	アクション
REQUEST	すべての要求をログに記録する
DB_SQLSTORE*	SQL 操作をログに記録する
DB_QUERY*	データベースエンジンに送られた実際の SQL クエリーをログに記録する
GENERAL_DEBUG	一般的なデバッグ情報をログに記録する
AUTO_SYNC	オートシンク操作をログに記録する

*Enterprise Solution Pack を利用している場合のみ：

ログに記録する項目を変更する場合：

1. テキストエディタで `configuration.txt` を開きます。
2. 具体的なログカテゴリを有効にする場合は、次の行からコメント(#)を外します。
`#LogCategories =`
3. 追跡する操作をコンマで区切って追加します。例：
`LogCategories = GENERAL_DEBUG, AUTO_SYNC`
4. ファイルを保存します。

ウェブクライアントの管理

管理者は、ユーザーに対する Portfolio ウェブクライアントの動作に影響する設定を行うことができます。設定できるのは、ユーザーがクイック検索機能でファイルを検索する方法や、カタログのグリッド表示およびリスト表示のフィールドです。









ウェブクライアントのデフォルト表示設定

カタログ管理者は、ウェブクライアントのメインウィンドウとアイテムプロパティパネルに表示するフィールドをカタログごとに設定することができます。デフォルトの表示設定はユーザーが始めてカタログにログインする際に表示される設定です。


ユーザーがカタログにログインすると、表示設定は何も表示を変更しなくてもそのユーザーのアカウントに保存されます。そのためカタログ管理者が後からデフォルト表示設定を変更しても、すでにそのカタログにログインしているユーザーの表示には影響しません。

グリッド表示とリスト表示用に表示設定を保存できますが、プレビューモードは保存できません。

デフォルトカタログ表示の設定：

1. ウェブブラウザを起動して、Portfolio ウェブクライアントを開きます。
2. 表示を変更したいカタログにカタログ管理者のユーザー名とパスワードでログインします。
3. カタログを開きます。
4.  デフォルトグリッド表示設定をクリックします。
5. 表示パネルの上にあるソートドロップダウンメニューからソートするフィールドを選択します。
(この設定はグリッドとリスト表示の両方で設定できます)
6. ソート順メニューの右側にある三角形をクリックして、ソート順を  昇順または  降順から選択します。
(この設定はグリッドとリスト表示の両方で設定できます)
7. 表示パネルの右上にある表示フィールドボタンをクリックします。
ここにはカテゴリ別にまとめられた利用可能なフィールドが表示されます (グリッド表示ではフィールドはここに一覧されている順序で表示されます)。
8. 表示したいフィールドのチェックボックスにチェックを入れます。表示しない場合はチェックを外します。終了したら OK ボタンをクリックします。
9. 表示パネルの下にあるアイコン  をクリックしてデフォルトのサムネイルサイズを選択します。
10. 表示パネルの下にあるドロップダウンメニューから 1 ページに表示したいアイテム数を選択します。
(この設定はグリッドとリスト表示の両方で設定できます)
11. デフォルトリスト表示設定を行うには  をクリックします。
12. フィールド表示をクリックして表示したいフィールドを右側にドラッグします。終了したら OK ボタンをクリックします。
13. 最後に、デフォルトでグリッド表示、またはリスト表示のどちらの表示にするかを設定します。アイコンをクリックします (グリッド表示: 、リスト表示: )。
14. 保存ボタンをクリックして  デフォルトグリッド&リスト表示設定を保存します。

アイテムプロパティ内でデフォルトフィールド表示を設定する：

1. アイテムプロパティパネルを開きます。
ログアウトの下、右上にある  アイコンをクリックします。
2. アイテムプロパティパネルの上にあるドロップダウンメニューからフィルタフィールドを編集を選択します。
3. 左側のすべてのフィールドリストからフィールド名をドラッグして、右側のフィルタフィールドに移動します。
フィルタフィールドからフィールド名を削除するには、リストからドラッグして外します。
リスト内でフィールド名を上下にドラッグすることで、フィルタフィールドの順序を並べ替えることができます。
4. **OK** をクリックしてフィルタフィールドの一覧を保存します。

注意：

アイテムプロパティパネルに表示されるフィールドセットは、グリッド表示とリスト表示に表示可能なフィールドです。

設定の保存

以下の設定はカタログのデフォルトウェブクライアント表示に保存されます。また各ユーザーがカタログを変更したりログアウトするたびに保存されます。これらの設定はカタログ内に保存され、ユーザーがどのコンピュータやブラウザからログインしても利用できるようになっています。

- 表示種類（グリッド表示またはリスト表示）
- グリッド表示サムネイルサイズ
- ページごとのアイテム数（グリッド表示／リスト表示）
- グリッド表示時のフィールド表示
- リスト表示時のフィールド表示とコラム並び順
- フィールド並び順と direction（グリッド表示／リスト表示）
- アイテムプロパティパネル内のフィールド表示
- アイテムプロパティパネルで利用可能なフィルタされたフィールド（このリストはメニューからのソートにも利用されます）

さらに、ウェブクライアントのユーザーコンピュータには以下の項目が保存されます。

- 最後にログインしたユーザー名
- 最後に選択したカタログ
- オーガナイザとフィールドパネルの状態（開いているか閉じているか）
- フィールドグループとフィールドパネルの状態（開いているか閉じているか）

クイック検索パラメータの設定

クイック検索は、多くのユーザーにとってすばやくファイルを探せる簡単な方法です。クイック検索では多くのフィールドを一度に検索し、またクイック検索の手段によって常に多くの結果がもたらされます。クイック検索の代わりに、複合検索の機能を使用すると、特殊な検索条件でファイルを見つけることができます。

デフォルトでは、クイック検索はカタログ内の説明、ファイル名、キーワードのフィールドを検索します。

管理者は、検索結果を調整し期待通りの結果を得るために、各カタログでクイック検索が検索するフィールドを定義することができます。

クイック検索は、カタログごとに検索するフィールドセットをカスタマイズすることもできます。例えば、一つのカatalogではクイック検索でキーワードのみを検索させ、別のカタログではファイル名と「パーツ番号」というカスタムフィールドを検索させるというような設定が可能です。

クイック検索パラメータは、Portfolio Server 上の QuickFind.xml ファイルに定義されています。このファイル特定のニーズに合わせて編集することで、希望する動作に合うようにクイック検索を機能的に微調整することができます。

quickfind.xml ファイルを編集する場合：

1. Portfolio Server マシン上の、次の位置を参照します：
Macintosh： /Applications/Extensis/Portfolio Server/Data/
Windows： \Program Files\Extensis\Portfolio Server\Data\
2. 現在の QuickFind.xml のバックアップコピーを作成します。
3. テキストエディット (Mac) またはメモ帳 (Win) で QuickFind.xml を開きます。
4. ファイルを変更してから、保存します。
5. Portfolio Server を再起動します。

注意：

Modifying QuickFind の変更は NetPublish では反映されません。ウェブクライアントとデスクトップクライアントのみ影響します。また Portfolio Server API でこの機能をウェブクライアントでシェアすると、API の QuickFind 検索は影響を受けます。

Quickfind.xml ファイルの形式

クイック検索が正しく動作するために必須の属性があります。以下のすべての属性を QuickFind.xml ファイルに入れる必要があります。

属性	説明
<quickfind> </quickfind>	この属性により、ファイルを開いたり閉じたりします。
<language> </language>	Portfolio の組み込みのシステムフィールドの翻訳に影響する言語です。カスタムフィールドを定義する言語を設定しなければなりません。使用できるパラメータは、en (英語)、fr (フランス語)、de (ドイツ語)、ja (日本語)、es (スペイン語)、it (イタリア語) です。
<catalog is-default="true"> </catalog>	この属性は、カタログ名属性で指定されていないすべてのカタログで使用するデフォルトのクイック検索パラメータを定義します。
<catalog name="catalog name.fdb"> </catalog>	指定された特定のカタログ用の検索パラメータを定義します (他のカタログのクイック検索動作には影響しません)。注意：QuickFind.xml ファイルには複数のカタログの QuickFind 定義を含めることができます。
<fields> </fields>	フィールドのリストの開始と終了を定義します。
<field> </field>	クイック検索に含めるカスタムフィールドの定義に使用します。カタログごとに最大 3 フィールドを定義できます。大文字小文字を区別するカスタムフィールド名は、カタログ内にあるとおりに定義しなければなりません。

注意：

QuickFind.xml 設定は、Portfolio デスクトップクライアント、Portfolio Express Palette、Portfolio ウェブクライアントのすべてのクイック検索に影響します。

例:

Portfolio Server の管理者で、Images.fdb というカタログがあります。images.fdb カタログ内で、クイック検索で利用できるデフォルトフィールドの代わりに、優先フィールド Approved と Routed to、新たに作成したカスタムフィールド Part Numbers のフィールドをクイック検索で検索できるようにしたいと思います。この場合、quickfind.xml ファイルを次のように編集しますが、他のカタログではデフォルトのクイック検索動作のままにしておきます。

```
<quickfind>
  <language>en</language>
  <catalog is-default="true">
    <fields>
      <field>Description</field>
      <field>Filename</field>
      <field>Keywords</field>
    </fields>
  </catalog>
  <catalog name="images.fdb">
    <fields>
      <field>Approved</field>
      <field>Routed To</field>
      <field>Part Numbers</field>
    </fields>
  </catalog>
</quickfind>
```

ウェブクライアントアクセスレベルの変更

各カタログの各ユーザーに対してアクセスレベルを設定できます。あるユーザーのアクセス権を、あるカタログでは閲覧者、別のカタログでは編集者や発行者、また別のカタログでは管理者というように設定することができます。

各アクセスレベルの初期設定では、ユーザーがどのような行動を行えるかが設定されています。

各アクセスレベルは、実行できる項目の追加や削除をして変更することができます。

以下の表は追加や削除が行える初期設定の内容です。

アクセスレベル	初期設定	編集可能	編集不可
閲覧者	PDF の作成	オリジナルにアクセス、変換設定の変更、パブリックギャラリーの管理、Media Script の実行、変換プリセットの利用	PDF の作成
編集者	オリジナルにアクセス、メタデータの埋め込み、PDF の作成、変換設定の変更、パブリックギャラリーの管理、Media Script の実行、変換プリセットの利用	なし	すべて
発行者	オリジナルにアクセス、メタデータの埋め込み、PDF の作成、変換設定の変更、パブリックギャラリーの管理、Media Script の実行、変換プリセットの利用	変換プリセットの管理	Media Script の実行
カタログ管理者	オリジナルにアクセス、メタデータの埋め込み、PDF の作成、変換設定の変更、パブリックギャラリーの管理、Media Script の実行、変換プリセットの利用	なし	なし

アクセスレベルの初期設定を変更する :

1. ウェブブラウザを起動して、Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. アクセスレベルをクリックします。
3. アクセスレベルを選択します。
4. 機能を利用可能にしたり、利用不可にするには、関連する機能の利用可能コラムにあるチェックボックスのチェックをかける／または外します。

ワークフォルダ

ワークフォルダは、Portfolio Server が利用するファイルやウェブクライアントセッション用にファイルを一時的に保存します。ジョブを表示パネルで、後からダウンロードする場合にも関連するファイルが保存されます。

ワークフォルダに保存されるファイルは、Portfolio Server での利用が終わるとすぐに削除されます。ダウンロードを保留したような場合は、1 週間ファイルを保存するか、またはユーザーが削除するまで保存されます（ジョブを表示パネルの完了したジョブを消去ボタンをクリックします）。

Portfolio Server ではワークフォルダが置かれているボリュームのディスクスペースをモニタしています。空き容量が 1 GB を下回った場合は、ダウンロードしようとした場合に失敗したり、ジョブを表示パネルにエラーが表示され、ログファイルにも記録されます。

初期設定ではワークフォルダは Portfolio Server ソフトウェアと同じボリューム上にあります：

Macintosh: /Applications/Extensis/Portfolio Server/data/work

32-bit Windows: C:\Program Files\Extensis\Portfolio Server\data/work

64-bit Windows: C:\Program Files (x86)\Extensis\Portfolio Server\data/work

Portfolio Server のボリュームに十分なディスク空き容量が無い場合や、不足することが予想される場合は、ワークフォルダの場所をローカルやネットワークボリューム上で、Portfolio Server が読み／書きできるアクセス権がある場所に変更することができます。

ワークフォルダの場所を変更する：

1. ブラウザを起動して、Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メニュー左にあるグローバル設定をクリックします。
3. サーバーデータの場所をクリックします。
4. 一時作業フォルダフィールドに、新規ワークフォルダの完全なパスを入力します。
注意：このフォルダはあらかじめ作成されていて、Portfolio Server から読み／書きのアクセスができるようになっている必要があります。
5. 適用ボタンをクリックします。

Portfolio Server を再起動するまでこの変更は適用されません。再起動するまでは元のワークフォルダを利用します。

NetMediaMAX

NetMediaMAX Solution Pack は、Portfolio Server の機能と能力を拡張し、Web クライアントが取り扱えるより幅広いファイルフォーマットの変換をサポートします。NetPublish サイトから**別名で保存書き出し**の機能を追加したり、また MediaRich を使った外部 Portfolio Media Engine を別サーバー上でファイル処理させることで性能を上げることができます。

NetMediaMAXとWebクライアント

NetMediaMAX を導入すると、Web クライアントユーザーは、ダウンロードと編集機能内で、追加の書き出し、ファイル変換オプションを利用できるようになります。追加されるフォーマットにより、ワークフローで要求されるフォーマット作成の時間を短縮し、Photoshop や Acrobat など別アプリケーションで開くことができる多様なファイル形式に変換できます。NetMediaMAX が搭載された Portfolio Server を使うと、特定のファイル形式でリクエストがあった場合に、ユーザーはファイルをダウンロードして、変換し、またアップロードするという手間を省くことができます。

管理者は、あらかじめ設定した変換オプションをプリセットとして作成することができます。プリセットを作成しておくことで時間短縮ができるだけでなく、作業ユーザーが毎回設定を覚えていなくても、一定の条件の変換ができるというメリットがあります。プリセットによるファイル変換で時間短縮と一定の品質を保持できます。

NetMediaMAXとNetPublish

NetPublish には複数の Web サイトテンプレートが用意されています。これらのテンプレートには、他のファイル形式に変換して別名保存する特定のリンクをサイトに表示する機能が含まれています。公開されたサイトは画像や写真のために使われますが、それと同時にビデオや音声ファイルのプレビュー、再生、ダウンロードにも便利です。NetMediaMAX と NetPublish を使うと、ユーザーが必要なファイルフォーマットでいつでも入手できる、セルフサービスのダウンロードサイトを作成することができます。

NetMediaMAXとAPI

プリセットは API でも利用できます。カスタムコードをシンプルにする重要な手段になり、またファイル変換の柔軟性も提供します。

プリセットに加えて、MediaScripts も API 経由で利用することができます。ワークフローを自動化し、ユーザーの操作無しでも多くの操作を提供できます。例えば、カスタムアプリケーションを毎時起動して、カタログ情報を参照し、それに従ってファイルの変換、移動、FTP サーバーへの移動、ユーザーへの通知などを実行させることができます。これはカスタム MediaScript を使って実行できます。詳細は MediaScript プログラム向けリファレンスを参照してください。

NetMediaMAXとMedia Engineクラスタ

NetMediaMAX では、更なるコンピュータパワーを追加して Portfolio Server の処理能力や拡張性を向上することができます。MediaRich エンジンを搭載したメディアエンジンで、カタログへの登録、変換、メタデータの埋め込み等のすべてのメディア処理タスクを別に実行させることができます。メディアエンジンを他のコンピュータに設定することによって、追加のハードウェアリソースを活用でき、Portfolio Server のレスポンスタイムを短縮することができます。

NetMediaMAX のライセンスを追加すると、Portfolio Media Engine (MediaRich) を複数のサーバー上で稼働できます。複数のメディアエンジンで作業を分配できるメリットと、ユーザーはより速いレスポンスを得ることができます。処理が分散できるため、時間のかかる複雑な処理が行われている間も、他のユーザーの処理が邪魔されず自由に作業できます。より速い処理によって生産性向上に寄与します。

外部のメディアエンジンの設定もエンドユーザーがシームレスに行えます。Portfolio Server Admin アプリケーションを使って簡単に設定することができます。設定が完了したら、すべてのデスクトップクライアント、Web クライアント、NetPublish で拡張性とパフォーマンスの恩恵を受けます。

NetMediaMAX の対応ファイルフォーマットは Extensis web サイト

<http://www.extensis.com/downloads/documents/supported-file-formats-camera-models/> を参照してください。

注意：

特にビデオプレビューやトランスコーディングは、複数プロセッサや複数のメディアエンジンを持つことで恩恵を受ける、時間がかかるプロセスです。

NetMediaMAXの活用事例

プロフェッショナルのクリエイティブワークフロー内には、Portfolio NetMedia が役に立つ場面が多くあります。以下のいくつかの例を参照して、NetMediaMAX がどのようにお使いのワークフローにフィットするかを参考にしてください。

活用事例 1：自動化とビデオトランスコーディング

毎日のメディア制作と処理の作業には、多くの時間がかかっています。これらの作業は時間がかかるだけでなく、ファイル処理と転送にコンピュータの負荷がかかるため、もっと重要な作業の妨げになることもあります。サーバー側で自動処理させることで、時間ロスの削減と処理能力の向上を図ることができます。

NetMediaMAX と MediaScript を一緒に使うことで、以下のような多くの異なる種類のメディア処理を効率よくこなすことができます：

- ファイルの解像度を下げる、または圧縮することでダウンロード時間を削減する。
- プルーフなどの目的で画像を PDF ファイルなどの複数ページファイルに配置する。
- 大きな複数のファイルを、複数の異なるフォーマットに一度に変換する。
- 画像にすかしマークを入れる。
- タスクが完了したらメールでお知らせする。
- 変換したファイルを FTP サイトに入れる。
- 組み込まれたメタデータから XML を作成する。
- データベースまたは他の外部データソースの読み込み／書き込み。

NetMediaMAX が使用可能になると、Web クライアントユーザーは Portfolio Media Engines の処理にカスタム MediaScript スクリプトファイルを実行することができます。

JavaScript と同様に、MediaScript は ECMAScript をベースにした、習得が容易なクロスプラットフォームのスク립ト言語です。MediaScript は非常にパワフルで、NetMediaMAX で可能な機能をフルに活用することができます。Portfolio Server では、MediaScript による自動化を簡単に統合して、時間のかかる作業もマウス数クリックで実行することができます。

例えば、5 種類のサイズの製品写真を提供する Web サイトをメンテナンスしているとします。製品カラーが複数ある場合には、Web サイト上でのカラーは非常に重要になります。ファイルタイプを変換する際に、カラースペースの変更も正確に行う必要があります。コピーライトのある大きなサイズの画像には、誤った利用を避けるためにビジュアルすかしが必要です。例えば 30 枚の新しい製品写真にこの処理を実行しようとするとかかなりの時間がかかってしまいます。

NetMediaMAX を使ってこの処理を自動化する :

1. 選択した画像の 5 種類のサイズを作成してコピーを保存、sRGB カラースペースの RGB ファイルに変換するカスタム MediaScript を作成します。
2. Media Engine にスクリプトをコピーして、Portfolio Server 内の製品カタログで利用できるようにします。
3. カタログ内でスマートギャラリーを作成して、Web クライアントが簡単に新しい画像を見つけられるようにします。
4. Web クライアントユーザーでログインし、スマートギャラリー内の新規イメージを見つけます。Automate メニューからカスタムスクリプトを選択します。
5. スクリプトを実行して 5 つの画像を作成します。埋め込まれた IPTC コピーライトを読み込んで大きい画像にはすかしマークとして利用します。
6. 完了したジョブは、Web クライアントユーザーの Jobs に記載されます。

注意 :

NetMediaMAX で提供されるサンプルスクリプトには、copyright 情報を使った一般的なカスタムすかしを生成するサンプルが入っています。

活用事例 2 : NetPublish を使ったセルフサービス画像ポータル

Portfolio NetPublish と NetMediaMAX を一緒に使っている場合には、ImagePro NetPublish テンプレートを活用することができます。このテンプレートを使って公開されるサイトは、NetMediaMAX のファイル変換機能を使用することができます。テンプレートに用意されている Save as オプションを使って、Web ユーザーはファイルを選択して好きなフォーマットでダウンロードすることができます。すべてのファイルはダウンロード前に Portfolio Server のメディアエンジンで変換されます。

例えば、遠隔地にいる営業部隊のために、最新の製品写真が用意された Web サイトを用意する必要があるとします。すべての画像を高解像度 TIFF フォーマットで統一して保管しておけば、営業部隊はそれぞれが必要なファイルフォーマットでファイルを得ることができます。

NetMediaMAX と NetPublish を使ったセルフサービス画像ポータルの動き :

1. クライアントへのプレゼンテーションを準備するために最新製品写真が欲しい営業担当者が NetPublish サイトにログインします。
2. 検索機能を使って、ブラウザから高解像度 TIFF ファイル画像を検索します。NetPublish では Portfolio Server が提供するプレビュー画像を自動的に利用できます。
3. ダウンロードオプションから、解像度をスクリーン解像度にして、JPEG ファイルフォーマットを指定して Save As を選択します。
4. ファイルはサーバー側で JPEG に変換された後、営業担当者がダウンロードすることができます。

活用事例 3 : Portfolio Web クライアントからの書き出しの拡張

NetMediaMAX を使っている場合、Portfolio Web クライアントユーザーは、通常の Portfolio Server では利用できない追加のファイルフォーマット変換が可能になります。ファイルをダウンロードして別のアプリケーションで開いて変換する、という時間のかかる作業も拡張ファイルフォーマットで解消できるかもしれません。NetMediaMAX があれば、ユーザーは Web から簡単に実行できます。

Web クライアントユーザーは、リモートでファイルを別のフォーマットに変換したり、ダウンロードする前にファイル変換することができます。

例えば、標準的なファイルフォーマットでファイルを作成したい場合に、役立ちます。写真がすべて Camera Raw で撮影されていて、TIFF ファイルで保存しておきたい場合などは、NetMediaMAX を使ってファイル変換を実行できます :

1. Web クライアントを開いて、カタログ内の Camera Raw ファイルが自動的に表示されるようなスマートギャラリーを作成します。
2. スマートギャラリー内でアイテムを選択し、オリジナルを編集コマンドを選択します。
3. 変換オプションを選択し、再び使えるようプリセットとして保存します。
4. ディスクの選択したファイルを TIFF に変換します。

このプロセスを使うと、ユーザーは Web クライアントから変換が必要なファイルをすばやく見つけ出し、ダウンロードしなくてもファイルを変換することができます。Portfolio Server のメディアエンジンがこの作業を実行します。

他の例では、社内のデザイナーが作業中のファイルを PDF にしてクライアントに送る場合などです。これまでは異なるアプリケーションを開いて、コピーを再保存するなど時間のかかる作業です。

NetMediaMAX を使ってこの処理を自動化する :

1. 制作部の現在のプロジェクト用のカタログにオートシンクフォルダを追加します。
2. Web クライアント内で、低解像度 PDF ファイルへの変換プリセットを作成します。
3. 制作部のスタッフが Web クライアントを使ってアクセスできるようにユーザーアカウントを用意します。各ユーザーは、クライアントに見せたい画像や他のメディアファイルを集めたギャラリーを作成します。
4. Web クライアント内でアイテムを選択し、ダウンロードコマンドを使って選択してアイテムを PDF フォーマットに変換します。Portfolio Server (または外部 Media Engine) が変換作業を実行し、必要があれば、ZIP ファイルに圧縮します。

活用事例 4 : 拡張性とパフォーマンスの向上

多くのユーザー数や、作業負荷の高い場合が想定される場合は、Portfolio Server にビルトインされている Portfolio Media Engine (MediaRich) を、別のシステムへ移動したり、複数のメディアエンジンに拡張することで、大きな違いが出てきます。

Portfolio Media Engine に複数のプロセッサを持つより速いシステムを使うことで、Portfolio Server は短時間でより多くの処理が可能になります。カタログへの登録、ファイル変換などのスピードがあがるので、全体的なパフォーマンスが向上します。

例えば、継続的に Portfolio Server にコンテンツを登録して管理する必要がある場合を想定します。同時に Portfolio Web クライアントを使って MediaScrip 自動化機能を使いたく、可能な限り速いレスポンスと最大の使用可能時間を確実に確保したいとします。Mac OS X ベースのファイルサーバーを使っていて、それとは別にあまり使われていない 2 台の Windows サーバーがネットワーク上にあります。

ワークフローの最適化で管理者にできること：

1. Mac OS X コンピュータに Portfolio Server をインストールします。
2. Portfolio Media Engine を 2 台の Windows サーバーにインストールします。
3. 2 台分の NetMediaMAX ライセンスを入力して、2 つの外部メディアエンジンとして設定します。
4. カタログ、オートシンクフォルダ、Web クライアントアクセス、カスタム MediaScript の有効化を設定します。
5. これでユーザーは恩恵を受けることができます。Portfolio Server は負荷の高い作業の間も使用することができます。

注意：

Portfolio Server と Portfolio Media Engine (MediaRich) は、Mac OS X、Windows のいずれのコンピュータでも使用できます。この事例ではクロスプラットフォームの場合を想定していますが、同じプラットフォーム間で設定する場合は、よりシンプルな設定になります。

NetMediaMAX インストール概要

以下のステップは、NetMediaMAX のインストールと設定に必要です。いずれの外部メディアエンジンをインストールする前に、Portfolio Server のインストールと設定を行っておきます。

1. **NetMediaMAX で必要なシステム環境を確認します。**
こちらを参照してください：<http://www.extensis.com/support/product-support/portfolio-server-10/>
2. **Media Engine サーバーに前もって必要なソフトウェアをインストールします。**
Media Engine サーバーに QuickTime がインストールされている必要があります。OpenOffice.org office suite もインストールされている必要があります。DNG フォーマットの書き出し用に Adobe DNG Converter のインストールが必要です。
Macintosh ユーザー：前もって必要なソフトウェアをインストールする際には、NetMediaMAX のインストールと起動で使用するのと同じアカウントを使用する必要があります。
3. **1 つまたは複数のサーバーに Media Engines をインストールします。**
外部 Media Engines のインストール を参照してください。
4. **ネットワークアクセスの確認と、必要な変更を行います。**
Media Engines のネットワークアクセス を参照してください。
5. **Web ブラウザを起動して Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。**
6. **Portfolio Server に NetMediaMAX のライセンスを追加します。**
NetMediaMAX のライセンス入力
注意：NetMediaMAX を有効にするには、Portfolio Server を再起動する必要があります。
7. **Portfolio Server と外部 Media Engines を関連づけします。**
外部 Media Engines の設定 を参照してください。

NetMediaMAX をインストール後、外部 Media Engines の設定が完了したら：

- MediaScripts を作成して、サーバー側のメディア処理を自動化を実行します。詳細は *MediaScripts の作成* を参照してください。
- Portfolio Server と外部 Media Engines にスクリプトを組み込みます。詳細は *Script の組み込み* を参照してください。

NetMediaMAXシステム必要条件

最新の情報は、Extensis のウェブサイトでご確認ください：<http://www.extensis.com/support/product-support/portfolio-server-10/>

外部Media Enginesのインストール

デフォルトでは、Portfolio Server は内部のメディアエンジンを持っています。NetMediaMAX を追加すると、複数の外部のメディアエンジンでアセットのカタログへの登録や、変換処理を実行することができます。

注意：

Portfolio Server が内部のメディアエンジンを使用している場合は、Portfolio Media Engine インストーラは Portfolio Server と同じコンピュータ上にインストールすることはできません。

外部メディアエンジンをインストールするには：

1. Portfolio NetMediaMAX インストーラをコンピュータにダウンロードします。
2. インストーラをダブルクリックして、表示される指示に従います。

すべての外部メディアエンジンのサーバーでこのプロセスを繰り返します。

Media Enginesのネットワークアクセス

Portfolio Server と外部メディアエンジン (MediaRich) は、アセットが置かれているネットワークロケーションに対して、適切な読み／書きのアクセス権が必要です。多くの管理者は Windows でこの問題を解決するために、Portfolio Server とすべての外部メディアエンジンが利用する用に特別にドメインユーザーアカウントを作成しています。

Macintosh プラットフォームの場合は、メディアエンジンがアセットに読み／書きする前に、すべてのファイルが置かれているストレージを共有設定しサーバーにマウントしておく必要があります。

Portfolio Server がすべての外部メディアエンジンにアクセスできることを確認してください。メディアエンジンがコミュニケーションに使用するデフォルトのポートは 9877 です。

基本的に、Portfolio Server や外部メディアエンジン (MediaRich) がアクセスするのに必要なポートは、すべて開けておく必要があります。Windows Networking (SMB) はポート 445 をデフォルトで使用します。Apple Macintosh Networking (AFP) はポート 548 をデフォルトで使用します。

外部メディアエンジンのポートアップデートと設定

外部メディアエンジン (MediaRich) がデフォルトで使用しているポートは、9877 (Media Socket port) です。ポートコンフリクトや他の理由から、外部メディアエンジン (MediaRich) で異なるポートを利用したい場合は、以下の設定でアップデートすることができます。

メディアエンジンのポートをアップデートするには：

1. メディアエンジンサーバーシステム内の以下の場所にある local.properties ファイルを、TextEdit (Mac) または Notepad (Windows) で開きます：
Macintosh : /Applications/Extensis/Portfolio Media Engine/media-engine/Properties/
Windows : Program Files\Extensis\Portfolio Media Engine\media-engine\Properties\
2. メディアエンジンが使用しているエン트리ポートを変更するには、local.properties ファイル内の MediaSocketPort パラメータを探します。
例えばデフォルト値を変える場合：
MediaSocketPort=9877
利用可能なポートへ変更：
MediaSocketPort=1234
注意 : パラメータ値にスペースを含むことはできません。
3. local.properties ファイルを保存して、メディアエンジンを再起動します。再起動についての詳細は **外部 Media Engines の再起動** を参照してください。

外部メディアエンジンが使用している MediaSocketPort がアップデートされた場合は、Portfolio Server Admin 内のポートもアップデートする必要があります。詳細は **Portfolio Server の外部メディアエンジン設定** を参照してください。

注意：

local.properties ファイルで利用できても、SystemMonitorPort 設定は Portfolio Server には登録されません。

NetMediaMAX ライセンスの入力

NetMediaMAX のライセンスを入力するには：

1. Web ブラウザを起動して Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューからライセンスをクリックします。
3. **新規ライセンスを追加 (+)** をクリックします。
4. NetMediaMAX のライセンス番号を入力して **ライセンスを追加** をクリックします。
5. Portfolio Server を再起動します。

ライセンスの詳細情報が登録され、**ライセンスページ**に表示されます。

ライセンス後再起動すると、Portfolio Server Admin アプリケーションのメインメニューに、**Media Engines** オプションが表示されます。さらに各カタログの**カタログの詳細情報**パネル内に **MediaScripts** タブが表示されます。適切なアクセス権を持った Web クライアントユーザーは、**Automate** メニューが表示されます。この機能で Web クライアントユーザーはカスタムスクリプトから書き出すことができます。詳細については **スクリプトの有効化** を参照してください。

外部Media Enginesの設定

Portfolio Server Admin アプリケーション内の **Media Engines** パネルには、利用可能な Media Engine の数が表示されています。お持ちの NetMediaMAX ライセンスによって、いくつの Media Engine を利用できるのかが変わります。すべての Media Engine が Portfolio Server の外部エンジンの場合は、ビルトインされているデフォルトの Media Engine を使用停止にする必要があります。

警告:

Media Engine の設定を変更した後は、すべての接続ユーザーは再接続する必要があります。

デフォルトの Media Engine を使用停止する:

1. Web ブラウザを起動して Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューから **Media Engines** をクリックします。
3. **localhost** Media Engine を選択して、**View/Edit Media Engine Details** をクリックします。
4. **Details** パネルで、**Active** オプションのチェックマークを外します。
5. **Apply** ボタンをクリックします。
6. Media Engine が有効でないことを示す警告メッセージを無視します。

外部 Media Engines の追加と使用の準備が整いました。

Portfolio Server に Media Engines を追加するには:

1. Web ブラウザを起動して Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューから **Media Engines** をクリックします。
3. **Add New Media Engine** ボタンをクリックします。
4. **Media Engine Details** パネルで NetMediaMAX サーバーの **Address** と **Port** を入力します。外部 Media Engines のデフォルトポート番号は 9877 です。
5. Media Engine の **Active** オプションを有効にし **Create** ボタンをクリックします。

注意:

Active オプションが使用できない場合は、Portfolio Server はタスク処理に Media Engine を使用しません。

Portfolio Serverと外部External Mediaエンジンの整合性

Portfolio Server が外部メディアエンジン (MediaRich) を利用する場合、すべてを同じように設定しておくことが非常に重要です。カスタムの MediaScript を作成している場合は、すべてのメディアエンジンが同じスクリプトを持っているようにする必要があります。またサードパーティコンポーネントも同じバージョンでサーバーと同様に設定する必要があります。

例えば、OpenOffice.org はサムネイルの作成やドキュメントのインデックス時に必要になります。外部メディアエンジンが Portfolio Server に設定されている場合には、処理タスクは外部メディアエンジンに送られます。外部メディアエンジンに OpenOffice.org がインストールされていないと、ファイル処理時にサムネイルの作成やドキュメントのインデックスに失敗します。

MediaScript スクリプトも同様で、Portfolio Server にインストールされている場合には、各外部メディアエンジンでも同様に変更が必要です。

外部メディアエンジンの設定には、以下のアイテムが Portfolio Server と同じ場所にインストールされている必要があります：

- OpenOffice.org のインストール
- QuickTime のインストール
- local.properties ファイルのポートの変更またはアップデート
- カスタム MediaScript ファイル

唯一の例外は、カスタムスクリプト用の XML ファイルです。このファイルは Portfolio Server プログラムディレクトリに置かれている必要があります。詳細は *media-scripts.xml ファイルの作成* を参照してください。

MediaScriptsの作成

Portfolio Server と NetMediaMAX を一緒に使うと、ファイル変換や書き出しの拡張やカスタマイズが可能になります。ワークフロー内で複雑だったり、時間のかかっているメディア処理の作業を、カスタムスクリプトを開発することで自動化することができます。

スクリプトは MediaScript で書かれます。ECMAScript Language 仕様 (第 3 版) に基づいたスクリプト言語です。Netscape の JavaScript や Microsoft の JScript も同じ仕様を基にしています。広く知られたスクリプト言語の上に構築されているので、柔軟性とプログラム言語のフル機能を備えている MediaScript は簡単に使うことができます。JavaScript や Microsoft の JScript ような他の ECMAScript 対応言語を知っている方は、MediaScript をすぐに使うことが可能です。

MediaScript ファイル作成の詳細は MediaRich Core Programmer' s Guide の *Using MediaScript* セクションを参照してください：

http://ftp2.equilibrium.com/downloads/gated/docs/current/MediaRich/MR_CORE_Programming_Guide.pdf

注意：

- Portfolio のメディアエンジンは、MediaRich CORE プラットフォームを利用しています。機能と対応ファイルフォーマットは NetMediaMAX がサポートしているものに制限されます (<http://www.extensis.com/downloads/documents/supported-file-formats-camera-models/>)。

スクリプトの有効化

Portfolio Server と外部メディアエンジン（MediaRich）の作成と組み込みが完了したら、カタログ内でスクリプトを有効にする必要があります。

スクリプトを有効にするには：

1. Web ブラウザを起動して Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューから**カタログ**をクリックします。
3. カタログを選択して**カタログ詳細情報**を表示/編集をクリックします。
4. **詳細情報**パネルで、**MediaScripts** タブをクリックします。
5. 選択したカタログで有効にするスクリプトをクリックします。
6. 他のカタログでも同様の設定をします。

スクリプトアクセスは、ユーザーのアクセスレベルで変更することができます。

アクセスレベルによってスクリプトへのアクセスを可能にする、または使用停止にするには：

1. Web ブラウザを起動して Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューから**アクセスレベル**をクリックします。
3. ユーザーアクセスレベルを選択します。
4. **Run MediaScripts** オプションを必要に応じて使用可能にしたり停止にします。アクセスレベルのデフォルト設定の場合は、オプションを使用停止にできません。

MediaScript の組み込み

MediaScripts を使って、様々なサーバータスクを実行させることができます。新しいスクリプトでワークフローを自動実行してみてください。

新規の MediaScript を組み込むには：

1. Portfolio Server と NetMediaMAX のインストール、ライセンス入力、設定を行います。
2. 必要な MediaScript スクリプトを作成します。ガイドライン MediaRich CORE Programming Guide.pdf を参照してください。スクリプト名は自由に付けられますが、ファイル拡張子に .ms が必要です。
3. Portfolio Server とすべての外部メディアエンジンにスクリプトを組み込みます。詳細は**スクリプトの組み込み**を参照してください。
4. media-scripts.xml ファイルが Portfolio Server プログラムディレクトリに正しく配置されていることを確認します。詳細は **media-scripts.xml ファイル** を参照してください。
5. Portfolio Server とすべての外部メディアエンジンを再起動します。再起動については、**外部 Media Engines の再起動** を参照してください。
6. Portfolio Server Admin アプリケーションから、特定のカタログでスクリプトを有効にします。詳細は**スクリプトの有効化**を参照してください。

これで、Portfolio Web クライアントから自動コマンドを使ってスクリプトへの接続と実行が行えるようになります。

Run MediaScripts パーミッションが有効なアカウントを使って、Portfolio Web クライアントから公開されたカタログに接続します。メインウィンドウで目的のファイルを選択し、ツールバーの**自動**メニューからスクリプトを選択して実行します。

スクリプトの配置

MediaScript スクリプトが完成したら、Portfolio Server と外部メディアエンジン (MediaRich) に組み込みます。

スクリプトファイルは、Portfolio Server プログラムディレクトリの正しい場所に配置する必要があります：

Macintosh : /アプリケーション/Extensis/Portfolio Server/applications/media-engine/Shared/Originals/Scripts/

Windows : \Program Files\Extensis\Portfolio Server\applications\media-engine\Shared\Originals\Scripts\

すべての外部メディアエンジン用にスクリプトを以下の場所に配置します：

Macintosh : /アプリケーション/Extensis/Portfolio Media Engine\media-engine/Shared/Originals/Scripts/

Windows : \Program Files\Extensis\Portfolio Media Engine\media-engine\Shared\Originals\Scripts\

media-scripts.xml ファイル

スクリプトを有効にして、ユーザーが利用できるようにするには、XML ファイルは Portfolio Server プログラムディレクトリに置く必要があります。

XML ファイルフォーマット

media-scripts.xml ファイルは Portfolio Server がカスタム MediaScript™ ファイルを見て利用できるようにします。以下の表には基本的な XML ファイル構造の属性がすべてあります。

属性	説明
<media-script> </media-script>	スクリプトエントリを開く／閉じる
<media-script input-style="x" >	属性は once-per-file または once-for-all-files のいずれかの値を持つ必要があります。
<media-script file-output="x">	この属性はオプションです。ある場合は download、catalog-beside、catalog-in-place いずれかの値を持つ必要があります。
<name> </name>	Portfolio Server が Web クライアントユーザーのスクリプトメニュー実行内で、スクリプトをどのように表示するかを設定します。
<file> </file>	Portfolio Server と外部メディアエンジンのディレクトリに組み込んだ MediaScript スクリプトのファイル名です。このファイルは .ms ファイル拡張子を持っている必要があります。
<function> </function>	スクリプトの機能の説明

XML ファイル例：

```
<media-scripts>
  <media-script input-style="once-per-file" file-output="download">
    <name>Example Script</name>
    <file>exampleScripts.ms</file>
    <function>exampleScript</function>
  </media-script>
</media-scripts>
```

XML ファイルパラメータ

input-style と file-output 入出力スクリプトを解析するために2つのパラメータが必要になります：
input-style と file-output

属性	値	説明
input-style	once-per-file	アセットごとにスクリプトを1度コールします。
	once-for-all-files	すべてのアセットへのパスでスクリプトを1度コールします。
file-output	download	作成された書き出しファイルを、Web クライアントからのダウンロード用に、.ZIP 圧縮に加えます。
	catalog-beside	作成された書き出しファイルを、オリジナルのフォルダ内にコピーします。これは input-style="once-for-all-files" と一緒に使用できません。
	catalog-in-place	作成された書き出しファイルはカタログに登録されません。

input-style は、Portfolio Server で利用するために開発されたスクリプトすべてに必要です。file-output は、必要に応じたオプションです。

注意：

- file-output の属性が catalog-beside の場合、input-style 属性は、once-for-all-files ではありません。
- NetMediaMAX で複数の Media Engine を使っている場合は、カスタマイズされたスクリプトは Portfolio Server とすべての外部メディアエンジンに組み込んである必要があります。詳細は *Portfolio Server と外部 External Media エンジンの整合性* を参照してください。

media-scripts.xml ファイルの組み込み

media-scripts.xml ファイルを UTF-8 テキストファイルとして保存して、Portfolio Server が稼働しているコンピュータの以下のディレクトリに起きます：

Macintosh： /アプリケーション/Extensis/Portfolio Server/data/

Windows： C:\Program Files\Extensis\Portfolio Server\data\

外部Media Enginesの再起動

管理者は、Portfolio Server とは別に外部メディアエンジンを再起動することができます。

Windows 環境で外部メディアエンジンを再起動するには：

1. Web ブラウザを起動して Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューから、**Media Engines** をクリックします。
3. リストから再起動したいメディアエンジンを選択します。
4. 詳細パネル内の **Active** オプションを使用停止にします。
5. Media Engine コンピュータ上で、**スタート > 管理ツール > サービス** を選択してサービスを開きます。
6. リストから **Portfolio Media Engine** サービスを探し、ツールバーにある**サービスを再起動**ボタンをクリックします。
7. サービスが起動したら、Portfolio Server Admin アプリケーションに戻ります。Media Engines パネルで、Media Engines を有効にします。

Macintosh 環境で外部メディアエンジンを再起動するには：

1. Web ブラウザを起動して Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューから、**Media Engines** をクリックします。
3. リストから再起動したいメディアエンジンを選択します。
4. 詳細パネル内の **Active** オプションを使用停止にします。
5. **ターミナルアプリケーション**を起動します（アプリケーションフォルダ内のユーティリティフォルダ内にあります）。
6. Media Engine コンピュータの Mac OS X 管理者アカウントを使って、以下のコマンドを入力してメディアエンジンを停止します：

```
sudo launchctl unload  
/Library/LaunchDaemons/com.extensis.portfolio.mediaengine.mgen.plist
```
7. 管理者レベルのパスワードを入力します。
8. 以下のコマンドを入力してメディアエンジンを起動します：

```
sudo launchctl load  
/Library/LaunchDaemons/com.extensis.portfolio.mediaengine.mgen.plist
```
9. 管理者レベルのパスワードを入力します。

Portfolio Enterprise Edition

Portfolio Enterprise EditionにはSQL Connect、LDAP ユーザー管理、プログラミング API などが追加されます。これらの機能を利用するには適切なライセンス認証が必要です。

SQL Connect

Portfolio では、Windows 上の Microsoft SQL Server、MySQL、Oracle データベース、または Mac OS X 上の MySQL データベースをサポートしています。

Portfolio Server Enterprise Edition での SQL データベースの利用は、起動、エンジン、管理はすべて Portfolio Server で作成されるカタログと同様に利用できます。

LDAP ユーザー管理と同期

Portfolio Server 管理者は、LDAP ユーザーとグループを自動的にカタログに適用できます。ユーザーが LDAP グループから削除されると、Portfolio カタログからも削除されます。また新しいユーザーがグループに追加されると、自動的にカタログにアクセスできるようになります。

管理者は、グループメンバシップから独立してユーザーアクセスを管理することもできます。またユーザーやグループにカスタムアクセスレベルを適用できます。

詳細は **ディレクトリサービス** を参照してください。

Portfolio API

Enterprise Edition では、さらに Portfolio Application Programming Interface (API) へのアクセスを提供しています。詳細は **Portfolio Server API** を参照してください。

Portfolio Enterprise Edition の動作環境

Portfolio Server の動作環境は Extensis ウェブサイト <http://www.extensis.com/support/product-support/portfolio-server-10/> を参照してください。

Portfolio Server Enterprise Edition の動作環境は標準的なインストール時に対する **最低限** の環境です。一般的に SQL データベースをより高速に利用するためには、高速マルチコアプロセッサ、高速ディスクアクセス、できるだけ多くの RAM を搭載してください。以下のような実行にはより強力なハードウェアを実装してください：

- 5 台以上のクライアント接続
- アセットが保存されているのと同じコンピュータ上に Portfolio Server をインストールする場合
- SQL データベースと Portfolio Server を同じコンピュータにインストールする場合
- Portfolio Server でオートシンク機能を利用する場合
- Portfolio Server と同じコンピュータ上で NetPublish Server を利用する場合

これらのいずれかの機能を利用する場合には、最低限の必要条件を満たしている必要があります。

注意：

Portfolio NetMediaMAX を利用する場合は、別サーバーにインストールして別プロセッサを利用することを検討することもできます。これによって Portfolio Server はファイル変換などの作業から開放され、ファイル表示などの作業負荷を下げるができます。詳細は、**NetMediaMAX 67** ページのを参照してください。

ハードウェア最適化ガイドライン

データベースのパフォーマンスは、一般的にハードウェア設定で左右されます。以下の項目はデータベースパフォーマンスに影響します：

1. **ネットワークパフォーマンス**：Portfolio Server と SQL データベース間のネットワーク接続は混雑していないこと、中継機材によるボトルネックなどが無いことが重要です。
2. **データベース最適化**：インデックス化、クエリー、他の最適化によってパフォーマンスを向上できます。Portfolio は SQL サーバーに対してすべてのクエリーを取り扱い、カタログスキーマは Portfolio データ用に特別に調整されます。またデータベースサーバーの不必要な設定や誤った設定は、パフォーマンスに影響します。例えば過度のログ記録を取ると、ディスクアクセスタイムに影響を及ぼしたり、必要以上のディスク容量を利用します。
3. **専用ハードウェア**：Portfolio Server やメディアエンジンが動いているのとは別のコンピュータでデータベースサーバーを利用するとデータベースを最適に実行することができます。
4. **追加（利用可能）メモリ**：多くの最新のデータベースサーバーは、膨大なメモリキャッシングを利用して、クエリーの最適化を行います。さらにデータベースサーバー自体も追加メモリの恩恵を受けるよう設定をする必要がある場合があります。
5. **高速プロセッサとマルチコア**：処理の遅いサーバーはプロセッサ自体が遅いということも考えられます。より高速なマルチコアプロセッサにすることで、レスポンス時間を改善することができます。
6. **高速、大容量、複数ハードディスク**：内部システムドライブは必ずしもデータベースに最適なドライブであるとは限りません。多くの場合あまり速くないドライブが利用されています。特に大きなカタログを SQL データベースに入れる場合は、より大容量で高速のストレージを選択してください。複数ドライブの恩恵を得るためには、利用するデータベースサーバーのユーザーガイドを参照してください。

様々な組み合わせの設定が考えられます。最適なパフォーマンスを得るためにはデータベースサーバーのユーザーガイドを参照してください。

その他の推奨

- SQL データベースが提供するバックアップ管理ツールを利用してください。
- Portfolio Enterprise のカタログは SQL データベースサーバーの設定によってサイズが変更します。十分なディスク容量のあるサーバーを選択してください。定期的にサーバーとデータベースを監視して、アセット数の増加に合わせて調整してください。

Portfolio Enterprise Solution Packのインストール

Portfolio Enterprise Edition には、SQL Connect やユーザー管理機能などが含まれています。これらの機能を利用するには適切なライセンスが必要です。

Portfolio Enterprise Solution Pack そのものにインターフェイスはありません。データベース管理ツールを介して高度なデータベース管理機能を実行することができます。Portfolio Server への基本的なアクセスは、標準の Portfolio Server Admin アプリケーションを介して処理されます。SQL データベースのアップグレードは、このガイドで紹介するデータベース管理ツールを利用して行ってください。

SQL データベースにカタログを格納する前に、データベースの準備を行い、適切なドライバをインストールする必要があります。

Mac OS X 上での MySQL の設定

注意：

Mac OS X Server v10.5 と 10.6 にあらかじめインストールされている MySQL のバージョンは、Portfolio Server に対応していません。以下の手順に従って最新バージョンをインストールする必要があります。OS X にビルトインされているツールは、新規バージョンの MySQL の管理使用することはできませんが、他の目的のためにあらかじめインストールされているバージョンを使用することはできます。また既存のデータベースを新規バージョンに統合することも可能です。詳細については MySQL ドキュメント (<http://dev.mysql.com/doc/refman/5.5/en/upgrading.html>) を参照してください。

ここでは、MySQL Server と Portfolio の新規設定について説明しています。

Portfolio Server ソフトウェアと MySQL Server が同じコンピュータ上にインストールされている一般的な状態を仮定して説明しています。

MySQL ソフトウェアをインストールする前に、Portfolio Server を必要条件を満たした環境でインストールし (*Portfolio Server インストール概要*)、Portfolio Server と Enterprise オプションのライセンス番号を入力 (*Portfolio Server のライセンス番号の入力*) してある必要があります。

ダウンロード

MySQL Server のインストールと設定には、以下のソフトウェアのダウンロードが必要です。

TextWrangler : <http://barebones.com/products/textwrangler/>

TextWrangler は、多くのプログラミング、スクリプティング、Web 言語に対応したシンタックスを含む無料のプログラマー向けテキストエディタです。Unix の設定ファイルを簡単に編集できます。

注意 : TextWrangler は Mac App ストアから無料で利用可能ですが、Bare Bones Software 社の Web サイトから直接ダウンロードすることをお勧めします。こちらのバージョンは、Unix コマンドラインから TextWrangler にアクセスすることができる追加ツールを含んでいます。

ODBC Administrator : <http://support.apple.com/kb/dl895>

Apple から提供されているこのソフトウェアでは、Portfolio が MySQL データベースに接続するための ODBC ドライバの設定を行えます。このソフトウェアは Mac OS X 10.5 Leopard ではすでにインストールされていますが、10.6 (Snow Leopard) または、10.7 (Lion) には入っていません。

MySQL Server : <http://www.mysql.com/downloads/mysql/>

使用しているプラットフォーム用の Community Server の最新 Generally Available (“GA”) バージョンをダウンロードします。OS X 10.7 Lion を使用している場合は、OS X 10.6 用のバージョンをダウンロードします。サーバーソフトウェア、スタートアップアイテム、システム環境設定が含まれるので、DMG フォーマットでダウンロードする必要があります。

注意 : 64-bit ソフトウェアを起動できるシステム環境の場合は、MySQL Server の 64-bit バージョンをインストールできます。

ODBC/Connector : <http://www.mysql.com/downloads/connector/odbc/>

これは MySQL Server 用の ODBC ドライバです。必ず 32-bit バージョンのドライバをダウンロードしてください。Portfolio Server は 32-bit アプリケーションのため、32-bit ドライバを使用しないと MySQL データベースに接続できません。Portfolio Server と MySQL Server が同じコンピュータ上で稼働している場合でも、MySQL Server は 64-bit アプリケーションとして利用することができます。

MySQL Workbench : <http://www.mysql.com/downloads/workbench/>

このツールは MySQL データベースとユーザーの作成と編集が行える GUI を持っています。

インストールと設定

TextWrangler のインストール

MySQL Server が起動しているコンピュータで Text Wrangler のダウンロードとインストール (<http://barebones.com/products/textwrangler/>) を行います。コマンドラインツールのインストールには、一度プログラムを起動する必要があります。

MySQL Server のインストール

MySQL Server ディスクイメージ (DMG ファイル) をダウンロード (<http://www.mysql.com/downloads/mysql/>) します。DMG をダブルクリックしてデスクトップにイメージをマウントします。

MySQL Server ディスクイメージには、MySQL Server を起動するサーバーにインストールが必要な 3 つのコンポーネントが含まれています。

- *mysql-#. #. ##-osx10. #-x86_###. pkg* という名前のインストーラファイルをダブルクリックしてサーバーソフトウェアをインストールします (# の部分は、MySQL と Mac OS X のバージョン、32-bit か 64-bit により異なります)。
- *MySQLStartupItem.pkg* ファイルをダブルクリックして、スタートアップアイテムをインストールします。
- *MySQL.prefPane* ファイルをダブルクリックして、システム環境パネルをインストールします (システム環境パネルを全ユーザーで利用可能にする必要はありません)。

システム環境パネルがインストールされたら、 **Automatically Start MySQL Server on Startup** (起動時に自動的に MySQL Server を起動) という名前のボックスにチェックを入れます。

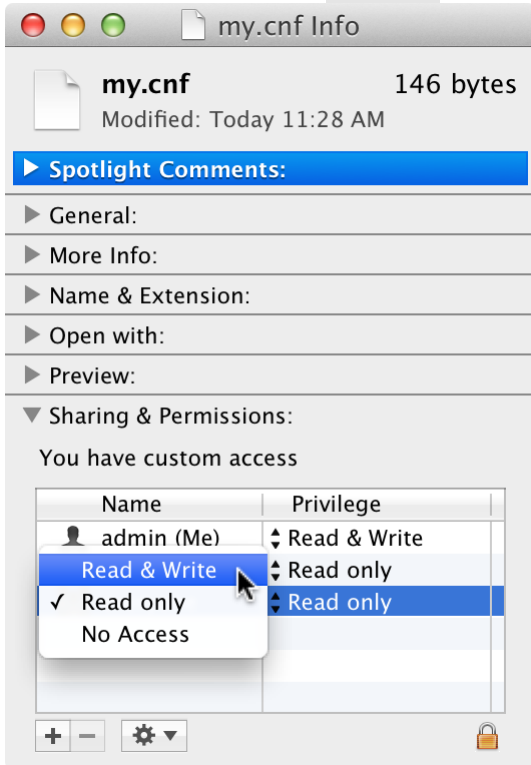
MySQL コンフィギュレーションファイルの作成

MySQL Server をインストールしたコンピュータ上で：

1. TextWrangler を起動します。
2. 空欄のドキュメントに以下のテキストを入力します：

```
[mysqld]
default-character-set = utf8
innodb_buffer_pool_size = 512M
innodb_additional_mem_pool_size = 100M
[client]
default-character-set = utf8
```
3. **File > Save** を選択します。
4. **Save** パネルが開いたら、Command-Shift-G キーを押して **Go to Folder** パネルを開きます。
5. `/etc` と入力して、**Go** ボタンをクリックします。
6. **Save** パネルで、ファイル名として `my.cnf` と入力し、**Save** をクリックします。
管理者パスワードの入力を求める画面が表示されるので入力して、**OK** をクリックします。

7. TextWrangler を終了します。
8. Finder で **移動 > フォルダに移動** を選択します。
9. **フォルダに移動** ダイアログで、`/etc` を入力して、**移動** ボタンをクリックします。
10. `my.cnf` ファイルを見つけたら、選択して、**ファイル > 情報を見る** を選択します。
11. **情報** ウィンドウ内の三角形をクリックして **共有とアクセス権** セクションを開きます。
12. **アクセス権** のコラムで “Everyone” の横にある “読み出しのみ” のテキストをクリックします。
13. ポップアップメニューから **読み/書き** を選択します。



14. **情報** ウィンドウを閉じます。

MySQL Server の再起動

1. システム環境設定を開いて、MySQL アイコンをクリックします。
2. MySQL Server インスタンスが起動中の場合は、**Stop MySQL Server (MySQL Server を停止)** をクリックします。
3. サーバーインスタンスが停止したら **Start MySQL Server (MySQL Server を起動)** をクリックします。
4. システム環境設定を終了します。

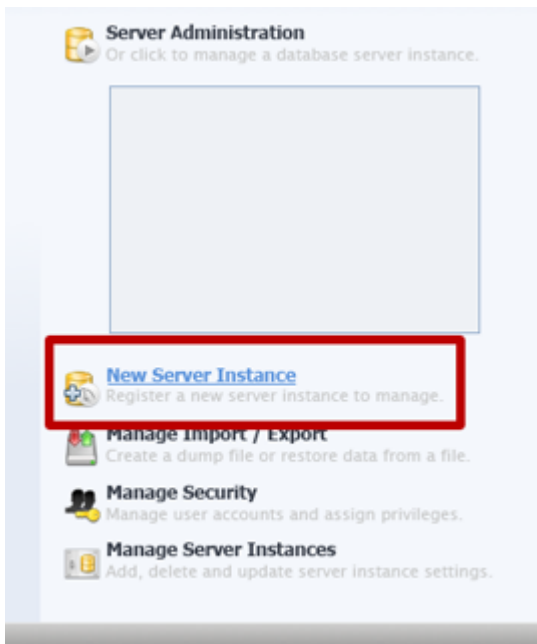
サーバーインスタンスとユーザーアカウントの作成

Portfolio Server を MySQL に接続するためには、サーバーインスタンスとユーザーアカウントを作成する必要があります。

開始するには、Download MySQL Workbench (<http://www.mysql.com/downloads/workbench/>) (英語) を参照してください。

サーバーインスタンスの作成

1. **New Server Instance** をクリックします。**Server Instance Wizard** が起動します。

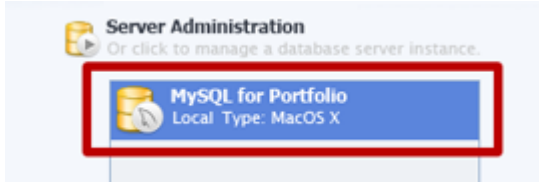


2. **Specify Host Machine** 画面で、**localhost** を選択して **Continue** をクリックします。
3. **Database Connection** 画面で、**Continue** をクリックします。
4. **Test DB Connection** 画面で、すべてのテストが成功したことを確認してから、**Continue** をクリックします。
いずれかのテストが失敗したら、(MySQL System Preferences パネルで) お使いの MySQL Server が起動しているかどうかを確認して、再度試してください。
5. **Management and OS** 画面で、**Operating System** が **MacOS X** であることと、**MySQL Installation Type** が **MacOS X (MySQL Package)** であることを確認して、**Continue** をクリックします。
6. **Test Settings** 画面で、すべてのテストが完了したことを確認してから、**Continue** をクリックします。
Review Settings ダイアログで、**Continue** をクリックします。
7. **Complete Setup** 画面で、MySQL Server のインスタンス名を入力して、**Finish** をクリックします。
この名前は MySQL for Portfolio などのように、この MySQL Server のインスタンスを何に利用するのがわかるようにしておくとい良いでしょう。

MySQL ユーザーアカウントの作成

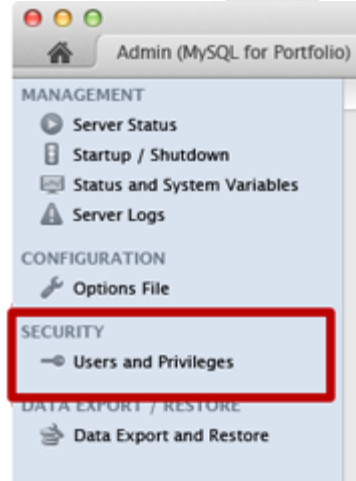
Portfolio Server を MySQL Server に接続して使うためにアカウントを作成する必要があります。

1. 上記で作成したサーバーインスタンスをダブルクリックします。

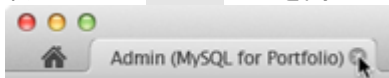


Admin タブが開くので、MySQL ユーザーアカウントを設定します。

2. 左側のコラム内の **Security** の下にある **Users and Privileges** をクリックします。



3. ユーザーアカウントリストの下にある **Add Account** ボタンをクリックします。
4. 新規ユーザーのログイン名を入力します。このアカウント名は Portfolio Server が MySQL データベースに接続する際に使用します。特定の個人名である必要はありません。例えば `portfoliococonnect` などのように、Portfolio Server に接続しているアカウントであることがわかるようにしておきます。
5. **Limit Connectivity to Hosts Matching** という名前のフィールドに `localhost` と入力します。
6. このアカウントのパスワードを入力します。このパスワードは後で Portfolio Server 内で入力が必要になるので、必ず控えておきます。
7. **Administrative Roles** タブをクリックします。
8. Role リスト内の **DBA** のボックスにチェックを入れます（リスト内の Role すべてに自動的にチェックが入っています）。
9. **Apply** ボタンをクリックします。
10. **Add Account** ボタンを再度クリックします。
11. 上記と同じ名前をパスワードを入力して、**Limit Connectivity** に `127.0.0.1` を入力して、**Apply** をクリックします。
12. 終了したら **Admin** タブを閉じます。



注意： **Add Account** を 2 回クリックしても、データベースに `localhost` または `127.0.0.1` のどちらでも接続できるユーザーアカウントが一つ作成されるだけです。

カタログの作成

Portfolio カタログごとに、独自の ODBC Data Source Name (DSN) を使って、それぞれの MySQL データベースに格納されます。作成したいカタログごとに以下の設定を行ってください。

以下のステップは MySQL Workbench を使います。サーバーインスタンスとユーザーアカウントの作成のステップが完了している必要があります。

ODBC Worksheet

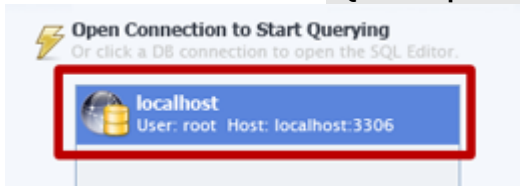
このワークシートを印刷すると良いでしょう。ODBC Data Source Name (DSN) を作成する際に正しい情報が必要になります。

Key name	Value	Example
server	localhost	localhost
database		portfolio_db
user		portfolioconnect
password		*****


データベースの作成

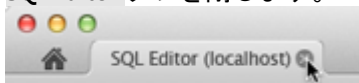
注意: MySQL Workbench は *schema* としてデータベースを参照します。Workbench 内で機能を記述する場合、これらの記述では、*schema* のタームのみを利用します。

1. Workbench ウィンドウ内の **SQL Development** の下にある **localhost** 接続をダブルクリックします。



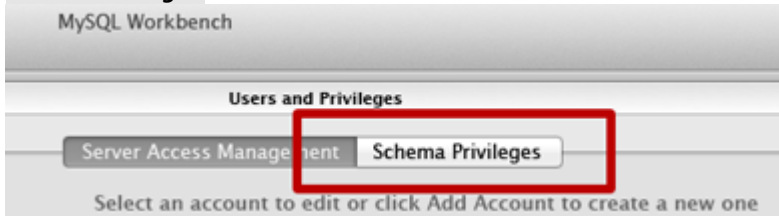
SQL 編集タブが開きます。

2. **Overview** パネル内のツールバーにある  **Create a new schema** ボタンをクリックします。
3. **Default Correlation** ポップアップメニューから、**utf8 - default correlation** を選択します。
4. **Schema Name** を、portfolio_db などのような新しく作成したデータベース名に置き換えます。この名前は Portfolio Server 管理者のみが見ることができ、Portfolio カタログ名とは同じではありません。データベース名は 64 字以上にはできません。半角英数字、アンダースコア _、ドル記号 \$ のみ利用できます。すべてを数字にすることはできません。
5. **Apply** ボタンをクリックします。
6. **Apply SQL Script to Database** ダイアログで、**Apply** ボタンをクリックします。**Apply SQL Script** ウィンドウを閉じて、**Schema** ウィンドウを閉じます。
7. **SQL Editor** タブを閉じます。

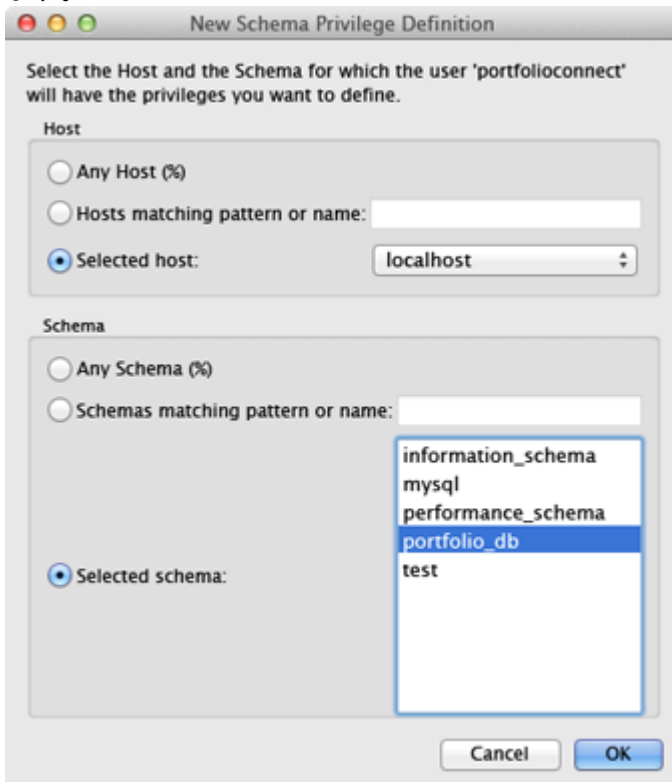


データベースのユーザーパーミッションの設定

1. 作成しておいたサーバーインスタンスをダブルクリックします。
2. **Security** の下、左にある **Users and Privileges** をクリックします。
3. **Schema Privileges** タブをクリックします。



4. 作成しておいたユーザーアカウントを選択します。
5. **Add Entry** ボタンをクリックします。
6. **New Schema Privilege Definition** ダイアログで、**Selected host** をクリックして、ポップアップメニューから **localhost** を選択します。
7. **Selected schema** をクリックして、作成しておいたデータベースを選択してから、**OK** ボタンをクリックします。

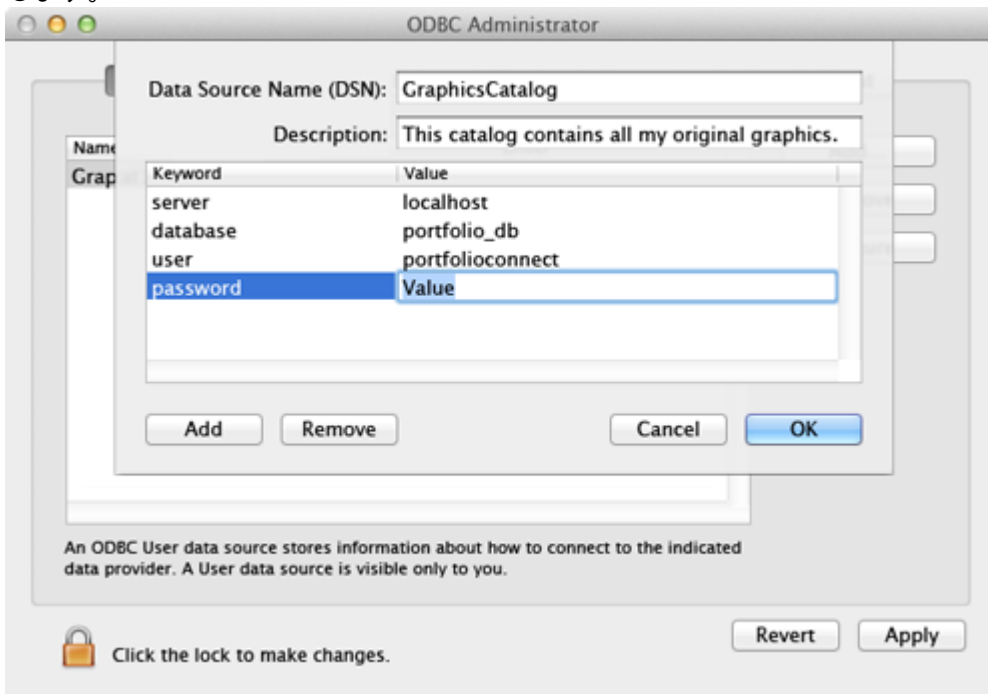


8. **Schema Privileges** パネル内の **Select All** をクリックして、**Save Changes** ボタンをクリックします。
9. **Add Entry** ボタンを再度クリックして、**Selected host** として、**127.0.0.1** で再度設定します。
10. MySQL Workbench を終了します。

ODBC Data Source の作成

ODBC Data Source を作成する際に、ODBC Worksheet の情報を利用します。

1. Portfolio Server が起動しているコンピュータで ODBC Administrator ソフトウェアのダウンロードとインストール (<http://support.apple.com/kb/dl895>) を行います。
2. Portfolio Server が起動しているコンピュータで ODBC/Connector のダウンロードとインストール (<http://www.mysql.com/downloads/connector/odbc/>) を行います。
重要 : MySQL Server が 32-bit、64-bit のいずれであっても、32-bit バージョンの ODBC/Connector をインストールする必要があります。
3. `/Applications/Utilities` フォルダにある ODBC Administrator ユーティリティを起動します
4. **User DSN** タブをクリックして、**Add** ボタンをクリックします。
5. ODBC ドライバを選択して、**OK** ボタンをクリックします。
6. Data Source Name (DSN) を入力します。これは、Portfolio デスクトップクライアントやウェブクライアントから見える Portfolio カタログの名前になります。
注意 : DSN 名にアンダースコアやスペースは利用できません。
7. サーバーアドレス、データベース名、ユーザー名、パスワードそれぞれ 1 ずつ、DSN に合った 4 つの key/value を追加する必要があります。
8. Server key を追加するには、**Add** ボタンをクリックします。Key to server の Key テキストを変更し、それから localhost の Value テキストを変更します。
9. **Add** を再度クリックして、database の Key を変更し、作成したデータベース名の Value を変更します。
10. **Add** を再度クリックして、user の Key を変更し、作成したユーザー名の Value を変更します。
11. **Add** を再度クリックして、password の Key を変更し、ユーザーアカウントのパスワードの Value を変更します。



12. DSN パネルで **OK** ボタンをクリックします。
13. ODBC Administrator ウィンドウで **Apply** ボタンをクリックします。
14. ODBC Administrator を終了します。

Portfolio カタログでデータソースを使う

データソースを作成したら、Portfolio 内のカタログで利用できます。

1. Portfolio Server Admin アプリケーションを起動してログインします。
2. 左側のメニューの**カタログ**をクリックします。
3. カタログリストの下の**新規カタログを追加**をクリックします。
4. **新規カタログの詳細情報**パネル内で：
 - a. ドロップダウンメニューから**カタログの種類**を選択します。
 - b. **ストレージの種類**で **SQL** を選択します。
 - c. **データベースを表示**ボタンをクリックします。
 - d. **データベースリスト**から作成した DSN を選択します。
 - e. オートシンクとプレビューの設定を行います。
 - f. **作成**ボタンをクリックします。

Windows 上での MySQL の設定

Windows で MySQL をインストールするには、MySQL データベースサーバーと MyODBC をインストール、データベースを作成、DSN を作成、そして SQL Connect をインストールします。Windows 上で Portfolio と MySQL を利用するには、以下の手順を正しく実行してください。

MySQL データベースサーバーのインストール

Portfolio Server は MySQL バージョン 5.1. で十分にテストされています。MySQL のより新しいバージョンは、ご自身のリスクでご利用ください。

1. 最新の MySQL を以下のサイト <http://dev.mysql.com/downloads/mysql/> からダウンロードします。
2. インストーラをダブルクリックして起動します。
3. Setup Wizard の Welcome スクリーンで **Next** をクリックします。
4. setup type に Typical オプションを選択して **Next** をクリックします。
5. **Install** をクリックします。
6. MySQL のエンタープライズサービスが多くの確認画面を表示しますが、表示される間は **Next** をクリックします。
7. MySQL Server Database Engine がインストールされました。この時点でサーバーの設定が必要です。今すぐ MySQL Server を設定するオプションを有効にして、**Finish** をクリックします。
8. MySQL Server Instance Configuration Wizard の Welcome 画面が表示されたら **Next** をクリックします。
9. Detailed Configuration オプションを選択して **Next** をクリックします。
10. Server Machine オプションを選択して **Next** をクリックします。
11. 利用環境に最も合ったデータベースの利用タイプを選択します。よくわからない場合は Multifunctional Database オプションを選択して **Next** をクリックします。
12. データベーステーブルスペースを置く場所を選択して、**Next** をクリックします。
13. Wizard のこのステップは、Portfolio カタログに同時接続できるユーザー数をデータベースに設定する方法です。何人のユーザーが同時接続するかわからない場合は、Online Transaction Processing (OLTP) オプションを選択して、**Next** をクリックします。
14. Enable TCP/IP Networking オプションと、Enable Strict Mode オプションを有効にして、**Next** をクリックします。
15. Best Support for Multilingualism オプションを選択して **Next** をクリックします。
16. Install as a Windows Service オプションを選択して、Service Name に MySQL を入力します。
17. Launch MySQL Service Automatically オプションを有効にします。
18. Include Bin Directory in Windows PATH を使用停止にして **Next** をクリックします。

- このステップでは、MySQL root ユーザーとパスワードを利用できるようにしておいてください。Modify Security Settings オプションを有効にして、新規の root ユーザーパスワードの入力と確認を行います。他のコンピュータから MySQL Server の管理を行う場合は、Enable root access from remote machines オプションを有効にしてください。Create An Anonymous Account オプションを使用停止して **Next** をクリックします。
- Execute** をクリックして MySQL インスタンスを設定します。
- Finish** をクリックして Wizard を閉じます。

Connector/ODBC のインストール

Windows 上で Connector/ODBC をインストールして設定するには、以下の手順を行ってください。

注意：

Portfolio Enterprise は MySQL Connector/ODBC ドライババージョン 3.51.xx で十分にテストされています。より新しいバージョンは、ご自身のリスクでご利用ください。

- MySQL Connector/ODBC v3.51 ドライバインストーラを以下のサイト <http://dev.mysql.com/downloads/connector/odbc/3.51.html#windows32> からダウンロードします。
- インストーラをダブルクリックして起動します。
- Installation Wizard の Welcome ステップで **Next** をクリックします。
- Typical を選択して **Next** をクリックします。
- Install** をクリックして、MyODBC をインストールします。
- Finish** をクリックして、インストーラを閉じます。

データベースと DSN の作成

注意：

すべての MySQL コマンド後に必ずセミコロン (;) を入力してください。

- スタートメニューから **Start > MySQL > MySQL Server > MySQL Command Line Client** を選択します。
- MySQL をインストールした際に設定したルートユーザーパスワードを入力します。
- データベースを作成するために以下のコマンドを入力します。
`create database <dbname>;`
<dbname>の部分は利用したい SQL データベース名と置き換えてください。

注意：

データベース名は 31 キャラクタ以下でアルファベットと数字しか使えません。アンダースコアやピリオド、その他のキャラクタはデータベース名では利用できません。大文字小文字は混在せずにどちらかに限定してください。

- mysql>プロンプトで以下のコマンドを入力してください。<dbname>の部分はお使いのデータベース名に置き換えてください。<dbpassword>部分はご利用のパスワードに置き換えてください。各コマンドの最後にセミコロンを入力して **ENTER** を押してください：
`GRANT ALL PRIVILEGES ON <dbname>.* TO 'portsql'@'localhost' IDENTIFIED BY '<dbpassword>' WITH GRANT OPTION;`
次のコマンドを入力します：
`GRANT ALL PRIVILEGES ON <dbname>.* TO 'portsql'@'%' IDENTIFIED BY '<dbpassword>' WITH GRANT OPTION;`
次を入力します：
`GRANT SUPER ON *.* TO 'portsql'@'localhost';`
最後に以下を入力します：
`GRANT SUPER ON *.* TO 'portsql'@'%';`
- 設定とホスト権限をリロードするようサーバーに設定します。Flush Privileges と Flush Hosts コマンドを入力します：
`FLUSH PRIVILEGES;`
次に：
`FLUSH HOSTS;`

6. `exit` と入力してコマンドラインクライアントを閉じます。
7. **Start > Control Panel** を選択します。
8. Administrative Tools を開いて Data Sources をダブルクリックします。
9. System DSN タブ内の、ODBC Data Source Administrator**Адд** をクリックします。
10. Create New Data Source ダイアログ内で、MySQL ODBC driver をクリックしてハイライトし、**Finish** をクリックします。
11. Connector/ODBC 内、Add Data Source Name ダイアログで DSN を作成します。Login タブで以下の情報を入力します：
 - Data Source Name : デスクトップクライアントやウェブクライアントユーザーに表示される Portfolio カタログ名。
 - Description : カタログの一般的な説明。
 - Server : MySQL データベースエンジンがインストールされ値得る IP アドレス。Portfolio Server が MySQL と同じコンピュータで動いている場合は `localhost` と入力できます。
 - User : `portsql` と入力します。
 - Password : ステップ 4 で作成した `portsql` パスワードを入力します。
 - Database : ステップ 3 で作成した `<dbname>` を選択します。
12. Connect Options タブで、キャラクタセットとして `utf8` を選択します。
13. Advanced タブの Flag 1 タブで Enable Auto Reconnect を選択します。
14. **Test** をクリックして、データベース接続をテストします。データベースに無事接続できたら、**OK** をクリックして Connector/ODBC 設定を保存します。
15. ODBC Data Source Administrator ダイアログの **OK** をクリックします。

インストールの終了

以上のステップが完了したら、SQL データベースを公開します。

WindowsでのSQL Sever設定

SQL Server を設定するには：

1. SQL データベースコンピュータで、新規の SQL データベースを作成します。詳細は、SQL データベースのユーザーガイドを参照してください。
2. データベースエンジンが格納されているコンピュータで、データベースの管理ユーザーを作成します。このユーザーはスタンダードユーザー `sa` アカウント、またはデータベースオーナー (`dbo`) 権限を持ったユーザーである必要があります。`master` データベースが作成した `dbo` のデフォルトデータベースであることを確認してください。

注意：

Portfolio Server は Microsoft Windows Authentication をサポートしています。この機能を利用するには：

1. 以下の場所にある `configuration.txt` ファイルを開きます：
`C:\Program Files\Extensis\Portfolio Server\applications\native-server\portfolio server files\`
2. 以下のラインからコメントシンボル (`#`) を削除します：
`#AllowWindowsAuthentication=yes`
3. ファイルを保存して Portfolio Server を再起動します。

Portfolio Server はユーザーごと、データベースごとにコネクションを作成します。システムが許可するコネクション数を拡張する必要がある場合があります。例えば、2つの Portfolio SQL カタログを公開していて、それぞれのカタログに 50 ユーザーが接続する場合、それぞれのカタログのユーザーが同じユーザーであっても、SQL サーバーに最低 100 コネクションが必要になります。

WindowsでのOracle設定

Portfolio Server で利用するために Oracle を設定するには :

1. SQL データベースサーバーで、新しい SQL テーブルスペースを作成します。詳細は Oracle が提供しているユーザーガイドを参照してください。
2. データベースの管理ユーザーを作成します。作成する管理ユーザーは DBA 権限を持っている必要があります。
3. Oracle Instant Client (ODBC と Oracle ドライバオプションを含む) をインストールします。ODBC コントロールパネル内で、ステップ 2 で作成したユーザーで System DSN を作成します。Long Columns オプションの Force Retrieval にチェックが入っていることを確認してください。

注意 :

Oracle を利用する場合は、最新の ODBC ドライバを利用してください。最新のドライバは Oracle のサイトからダウンロードできます :

<http://www.oracle.com/technology/software/tech/oci/instantclient/htdocs/winsoft.html>

Microsoft がデフォルトで提供している Oracle 用の ODBC ドライバは SQL Connect と互換性がありません。

Oracle DSN を作成する :

1. **Start > Control Panel > Administrative Tools > Data Sources (ODBC)** を選択して、ODBC Data Source Administrator を開きます。
2. System DSN タブをクリックします。
3. **Add** をクリックします。
4. Create New Data Source ダイアログ内で、Oracle ODBC Driver を選択します。
5. **Finish** をクリックします。
6. Oracle ODBC Driver 設定ダイアログ内で、以下の情報を入力します :
 - Source Name : 追加しようとしている DSN 名
 - Service Name : Oracle インスタンス名。通常は `databasename.domain` フォーマットで、正しい名前かどうかを Oracle Database Administrator でチェックします。
 - UserID : オラクル・データベースのための有効なユーザー ID。このユーザーはデータベースオーナーシップ権利が必要です。
 - All other fields : 他のフィールドはデフォルト設定にしておきます。
7. **OK** をクリックして変更を保存して DSN を追加します。

WindowsへのODBCドライバのインストール

Portfolio を介してカタログにアクセスするには、Portfolio Server を実行しているマシンに適正な ODBC ドライバがインストールされていることを事前に確認する必要があります。その後で SQL データベースをセットアップする必要があります。セットアップが終わったら、Portfolio SQL Connect と Portfolio Server ソフトウェアの両方をインストールすることができます。

SQL Connect と Portfolio Server の管理はどちらも、Portfolio Server Admin アプリケーションを使用しています。

組み込みのデータベース管理ツール (DBA ツール) は、既存の Portfolio Server をアップグレードする場合に必要です。

SQL データベースの公開

SQL データベース (カタログ) を公開するには：

1. Portfolio Server Admin アプリケーションを開きます。
2. メインメニューからカタログを選択します。
3. カatalogパネル内にある新規カタログを追加をクリックします。
4. 新規カタログの詳細情報内で SQL を選択し、ドロップダウンメニューから正しい ODBC ドライバとバージョンを選びます。
5. SQL の種類によって必要なデータベースフィールドを入力します：
 - **Oracle**： データベースホスト、ポート番号、ユーザー名、パスワードが必要です。
 - **Microsoft SQL Server**： データベースユーザー名とパスワードが必要です。
 - **MySQL**：すでに DSN 内に情報があるので、追加情報は必要ありません。
6. データベースを表示ボタンをクリックします。

注意：

Portfolio Server Admin アプリケーションでは、ステップ 5 で与えられた情報によって利用可能なデータベースが表示されます。データベースが表示されない場合は、利用しているデータベース情報を確認してください。

7. 利用したいデータベースをリストから選択して作成ボタンをクリックします。

このカタログを利用するには、始めにユーザーを追加する必要があります。詳細は [ユーザーのカタログメンバシップの付与](#) 40 ページを参照してください。

Portfolio SQL データベースのアップグレード

既存の SQL ベースのカタログをアップデートする場合は、SQL Connect データベース管理ツールを使用して、最新バージョンの Portfolio Server に対応したスキーマにアップデートする必要があります。

重要

Portfolio 8.5 から Portfolio 9 へアップグレードする場合は、スキーマ変更はないので、データベースのアップグレードは必要ありません。

データベースをアップグレードするには、段階的に行う必要があります。Portfolio 7 スキーマからアップグレードする場合は、まず 7 から 8 へ、そして 8 から 8.5 へアップグレードします。

Windows DBA ツールを使ったアップグレード

Microsoft Windows-based SQL データベースの場合は、*DBA ツールを使ったデータベースバージョンのアップグレード* を参照してください。

Mac OS X Portfolio SQL アップグレードツールを使ったアップグレード

Portfolio SQL アップグレードツールは、Portfolio Server をインストールすると自動的にインストールされます。

SQL データベースと同じコンピュータ上でアップグレードツールを実行してください。

1. **Extensis Portfolio Server 9 > Portfolio SQL Upgrade Tool** からアップグレードツールを起動します。
2. ツールは自動的にデフォルトの MySQL クライアントディレクトリ `usr/local/mysql/bin/mysql/` を検出します。もし MySQL が他の場所にインストールされている場合は、[参照](#)をクリックして場所を指定します。
3. **Server** フィールドに、MySQL Server の場所を入力します。デフォルトではこのフィールドは `localhost` を指しています。他の MySQL Server を利用している場合は IP アドレスの入力、DNS 名を入力することもできます。処理速度とデータ保全のために MySQL Server と同じコンピュータ上でアップグレードツールを実行することを推奨します。
4. MySQL Server のデフォルトポートは 3306 です。もしサーバーが別のポートで動いている場合は変更します。
5. **Database** はアップグレードしたい MySQL データベースの名前です。データベース名はそれぞれ異なります。
6. MySQL データベースに必要な権限のユーザー名とパスワードを入力してアップグレードします。これは Portfolio Server の管理者パスワードではありません。SQL Connect に必要な MySQL ユーザーアカウントとパーミッションについての詳細は Portfolio Server ユーザーガイドを参照してください。
7. **Upgrade** をクリックしてツールを実行します。大きいカタログの場合、ツールがスキーマをアップグレードするには数分かかります。

SQL データベース管理ツール

データベース管理ツールと同時に利用できる Portfolio SQL Connect では、Portfolio カタログとして公開される SQL データベースへの上位アクセスと管理機能が行えます。

通常 SQL エンジンへのダイレクトアクセスを行って実行する、多くの一般的なタスクをこのツールで実行することができます。

データベース管理ツール (DBA Tool) は、Portfolio Server のインストーラが実行された際に自動的にサーバー内にインストールされます。

重要：データベース管理ツールは Microsoft Windows 上でのみ起動できます。

Mac OS X で Portfolio Server を実行している場合は、**Portfolio SQL Upgrade Tool** を使って、既存のバージョンから SQL データベースをアップグレードすることができます。アップグレードツールは、Mac OS X サーバー内のアプリケーションディレクトリにインストールされます：

```
/Applications/Extensis/PortfolioServer/applications/
```

または、リモートの Windows マシンから DBA Tool を実行して SQL データベースに接続することもできます。リモート Windows マシン上で Portfolio Server のインストーラを実行すると、Portfolio Server と一緒に DBA Tool がインストールされます。

DBA Tool の起動

DBA Tool はコマンドラインインターフェイスから起動できます。

DBA Tool を起動するには：

1. **スタート > 実行** を選択します。
2. 実行ダイアログボックス内で、`cmd` と入力して **OK** をクリックします。
3. 罫線ウィンドウ内で、表示されているディレクトリから以下のディレクトリに変更します：
`C:\Program Files\Extensis\Portfolio Server\applications\archive\`
4. `DBAtool` を入力して DBA Tool を起動します。

DBA Tool を使ったデータベース接続

DBA Tool が起動していると、新機能 Connection ダイアログボックスが自動的に表示されます。選択したデータベースエンジン向けの接続手順を行います。

Microsoft SQL Server データベースに接続するには：

1. **File > Connect** を選択して New Connection ダイアログボックスを開きます。
2. Server Type ドロップダウンメニューから **MS SQL Server** を選択します。
3. 希望するデータベースの DSN ファイルを作成してある場合は、**Use DSN** を有効にして DSN 名を入力します。ステップ 5 へとびます。
4. DSN を使わないで接続するには、サーバー名または IP アドレスとデータベース名を入力します。データベース名を空欄のままにしておくと、デフォルトのデータベースに接続します。データベース名に local または、単にピリオド (.) を入力すると、ローカルデータベースに接続できます。
注意：DBA Tool は SQL Server のインスタンス名をサポートしています。インスタンス名を利用するには、バックスラッシュとインスタンス名が続くサーバー名またはアドレスを入力します。例：
MyServer\MyInstance
5. ログイン名とパスワードを入力します。DSN を使って接続するには、ユーザー名とパスワードは DSN と異なります。
注意：データベース名、ログイン名、パスワードは SQL Server がどのようにインストールされたかによって変わります。
6. **OK** をクリックしてデータベースに接続します。

Oracle データベースに接続するには：

1. **File > Connect** を選択して New Connection ダイアログボックスを開きます。
2. Server Type ドロップダウンメニューから **Oracle** を選択します。
3. 希望するデータベースの DSN ファイルを作成してある場合は、**Use DSN** を有効にして DSN 名を入力します。ステップ 5 へとびます。
4. DSN を使わないで接続するには、Oracle SID を入力します。データベースエントリーフィールドを空にしておくと、デフォルトデータベースに接続します。
5. ログイン名とパスワードを入力します。DSN を使って接続するには、ユーザー名とパスワードは DSN と異なります。
6. **OK** をクリックしてデータベースに接続します。

MySQL データベースに接続するには：

1. **File > Connect** を選択して New Connection ダイアログボックスを開きます。
2. Server Type ドロップダウンメニューから **MySQL** を選択します。
3. 希望するデータベースの DSN ファイルを作成してある場合は、**Use DSN** を有効にして DSN 名を入力します。ステップ 5 へとびます。
4. DSN を使わないで接続するには、サーバー名とデータベースを入力します。ローカルデータベースに接続するには、サーバー名に “localhost” を使うことができます。
5. ログイン名とパスワードを入力します。DSN を使って接続するには、ユーザー名とパスワードは DSN と異なります。
6. **OK** をクリックしてデータベースに接続します。

DBA ツールを使ったデータベースバージョンのアップグレード

Portfolio SQL データベースをすでに持っている場合は、データベーススキーマを、既存のバージョンから最も新しいバージョンへアップグレードする必要があります。

とても古いバージョンからアップグレードする場合は、アップグレードプロセスを順を追って行う必要があります。DBA Tool には、複数のバージョンをさかのぼるアップグレードスクリプトが用意されています。例えば、Portfolio 7 のカタログを持っている場合は、バージョン 7 から 8 へアップグレードしてから、バージョン 8 から 8.5 へアップグレードします。

注意：Portfolio 8.5 データベースと Portfolio 9 データベースは互換性があるのでアップグレードする必要はありません。

まずはじめに、現在使われているスキーマのバージョンを確認します。

データベースバージョンを確認するには：

1. **Tools > Database > Versioning > Display Current Version** を選択します。
2. バージョン番号は、Console/Results パネルに表示されます。

データベースバージョンをアップグレードするには：

1. **Tools > Database > Versioning > Upgrade Version** を選択します。
2. 現在接続しているデータベースに関連するアップグレードスクリプトは、Version Selector ダイアログボックスに表示されます。適切なスクリプトをハイライトして **Convert** をクリックします。

注意：必要なスクリプトが表示されていない場合は、**Show all versioning scripts** オプションを有効にしてください。

Check the Console/Results パネルをチェックして、データベース変換の結果を見ます。正確な変換の詳細については、以下のディレクトリにあるログファイルを参照してください：

```
\\Program Files\Extensis\Portfolio Server
```

DBA Tool で SQL クエリを実行する

DBA Tool を使って標準の SQL クエリを実行することができます。クエリの結果は Console/Results パネルに表示されます。

SQL クエリを実行するには：

1. SQL クエリパネルで SQL クエリを入力します。または **File > Load** を選択して、保存してある SQL クエリスクリプトを選択します。テキストファイルはクエリとして読み込みが可能です。
2. **Tools > Execute** を選択するか、**F5** を押します。クエリの結果は Console/Results パネルに表示されます。

注意：MS SQL Server では複数のクエリをバッチ処理できますが、Oracle または MySQL では行えません。

SQL クエリを保存するには：

1. SQL クエリパネルで SQL クエリを入力します。SQL クエリパネル内のすべてのコンテンツはスクリプトファイルに保存されます。
2. **File > Save** を選択します。
3. 名前をつけて **Save** をクリックします。クエリはテキストファイルとして保存され、DBA Tool でクエリとして開くことができます。

DBA Tool トラブルシューティング

SQL データベースで問題が発生したり、データベーススキーマをアップグレードする場合は、以下の一般的な問題に体するヘルプを参照してください。

問題 / エラーメッセージ	有効な解決方法
Login failed for user "username" / "username" ユーザーのログインに失敗	このエラーは、一般的にユーザー名やパスワードのスペルが誤っている場合に発生します。スペルを再確認してログインを再度試してください。2度目のログインでも失敗した場合は、MS SQL Server Enterprise manager を使って、データベースに対してオーナーシップ権限を持つ新しいログイン名とパスワードを作成します。DBA Tool を使って新しく作成したログイン情報でログインします。
SQL Server does not exist or access denied. / SQL Server が存在しない、またはアクセスが拒否される。	このエラーは、一般的にサーバー名や IP アドレスのスペルが誤っている場合に発生します。スペルを再確認してログインを再度試してください。DSN ファイルを使用している場合は、DSN ファイルの問題でこのエラーメッセージが出る場合があります。ODBC Data Source Administrator ダイアログボックスで、DSN ファイルが正しく作成されているかどうかを再度確認します。 スタート > コントロールパネル > 管理ツール > Data Sources (ODBC) を選択して、ダイアログボックスを開きます。DSN 設定をチェックして、ログインを再度試してください。
Cannot open database requested in login 'databasename'. Login fails. / 'databasename' でのログインでリクエストしたデータベースが開けない、ログインが失敗する。	最も一般的には、特定のサーバーに存在しないデータベースにログインを試みた際にこのエラーが発生します。正しいサーバーにログインしている、またはサーバー名とデータベース名のスペルが間違えていないかどうかを確認します。
Data source name not found and no default driver specified / Data source 名が見つからず、デフォルトドライバ設定が無い。	このエラーは、サーバー用の ODBC ドライバが正しくインストールされていない場合に発生します。 スタート > コントロールパネル > 管理ツール > Data Sources (ODBC) を選択して、ODBC Data Source Administrator ダイアログボックスを開きます。Choose the Drivers タブをセンタ s 句碑で、特定のデータベースドライバの一覧をチェックします。ODBC ドライバがリスト内に無い場合は、データベースエンジンのドキュメントを参照して、新規ドライバのインストール方法を探します。
Upgrading the database schema from version 7 to version 8 fails. / データベーススキーマをバージョン7からバージョン8へアップグレード時に失敗。	バージョンアップスクリプトを実行するたびにログファイルは作成されます。このログファイルで Portfolio Server ディレクトリ内に作成され、データベースが実行しようとした変換とそれ以降のリストアをその前の状態まで追跡できます。どの時点で変換に失敗したのかをこのファイルで見ることができます。また変換に失敗した際にどのタイプのデータが原因になっているかを特定できる場合もあります。

Portfolio Server API

Portfolio API では、Portfolio Server カタログ、アセットメタデータ、ビジネス向けシステムでのメディア処理、カスタムワークフロー、Web インフラなど用の開発者向けインターフェイスを提供します。

単一のプログラムインターフェイスを使うことにより、将来的な Portfolio のバージョンへの対応も容易にすることができます。

Portfolio API は Portfolio Server Enterprise Edition の一部として SQL Connect と共に利用できます。Portfolio API は対応している SQL データベースを使ったデータ管理をしている開発環境に最適化されています。

Portfolio API を利用すると、Portfolio カタログのカスタムフロントエンドを作成することが可能です。またさらに大型のワークフローソリューション内に Portfolio を統合することができます。例えば：

- イメージの検索とダウンロードが可能なシンプルウィジェット
- 別のビジネスアプリケーションから直接 Portfolio カタログメタデータへアクセス
- アイテムへのメタデータ追加が可能なモバイルコンパチブルの Web サイト

用語集

-L-

LDAP

LDAP は Lightweight Directory Access Protocol の略です。ディレクトリを理解して編集する手段です（電話帳のような働きをします。フォルダではありません）。

-S-

SSL

SSL は Secure Sockets Layer の略です。インターネット上で安全な通信を提供する暗号化されたプロトコルです。SSL は、メッセージの信頼性のためキーのついたメッセージ認証コードを使用します。

-ア-

アイテム

カタログに登録されたファイルは、カタログ内のアイテムと呼ばれます。各アイテムにはディスク上のファイル情報が含まれています。

アクセスレベル

アクセスレベルによって、ユーザーがカタログ内の特定のアイテムに対して実行できる機能が変わります。アクセスレベルはユーザー単位、またはグループ単位で設定できます。ギャラリーのアクセスレベルは、他のユーザーにギャラリーの中を見えないようにすることができます。

-オ-

オートシンク

オートシンクフォルダに置かれたファイルは Portfolio Server にアップロードすることができます。ファイルがこのフォルダに入れられると、Portfolio が自動的にファイルを取り込み、メタデータの抽出、サムネイルとプレビューファイルの作成を行います。

-カ-

カタログ

Portfolio では、画像やグラフィックデータ、写真データや他のメディアファイルをカタログと呼ばれるファイルに登録して管理します。カタログにはファイルのサムネイル画像と、メタデータ、必要なカスタム情報が含まれますが、オリジナル画像そのものは含まれません。

カタログメンバー

カタログに対してアクセス権を持っている、Portfolio アカウントユーザーです。

-キ-

キーワード

キーワードは、カタログに登録されたアイテムを分類するために割り付けることのできる用語です。

-ギ-

ギャラリー

ギャラリーはカタログ内のファイルのサブセットです。ギャラリー内には実際のアイテムは含まれず、ファイルへの参照情報のみが含まれます。

-サ-

サムネイル

サムネイルは、カタログ内でアイテムとして表示される小さな画像を指します。

-デ-

ディレクトリ

ネットワークの視点から見た場合、ディレクトリは組織内の人や部署、チーム、プリンタ、その他同様のリソースを指します。

ディレクトリサービス

ディレクトリにアクセスする方法を格納して管理できるソフトウェアです。Windows サーバーではアクティブディレクトリが最も一般的です。Mac OS X サーバーではオープンディレクトリが一般的です。、 Open Directory is common. 両方とも LDAP を実装しています。

-フ-

フィールド

フィールドは、Portfolio カタログ内の情報が入る場所です。各 Portfolio カタログは自動的に主なフィールドを持っていますが、ファイルを識別するのに必要となる様々な情報を入れておくためのカスタムフィールドを作成することもできます。

-プ-

プロパティ

Portfolio 内の各アイテムは、説明やキーワード、カスタムフィールド情報など多くのプロパティ情報を持っています。すべてのアイテムはプロパティを持っています。

マ

マスターキーワード

マスターキーワードは、カタログ管理者によって作成できるキーワードです。マスターキーワードを使うことで、カタログ内のキーワードを統一することができます。

メ

メタデータ

メタデータはオリジナルファイル内に埋め込まれている情報です。Portfolio ではこれらの情報の抽出や、オリジナルファイルへの埋め込みが可能です。

メンバー

カタログに対してアクセス権を持っている、Portfolio アカウントユーザーです。

ル

ルート（元）証明書

証明書の発行機関を識別できる署名の無いパブリックキー、または自己署名された証明書

仮

仮レコード

仮レコードは、Portfolio カタログは後日追加されることになるアイテムのための仮登録です。

保

保存された表示

保存された表示は、Portfolio デスクトップクライアントのすべてのギャラリーの表示に利用されています。「ウェブクライアント」用の保存された表示では、ウェブクライアントがカタログに接続した際に表示されるフィールドを設定することができます。

公

公開されたカタログ

公開されたカタログは、Portfolio Server によって公開されているカタログをいいます。

表

表示プレビュー

表示プレビューはPortfolio にファイルが登録される際に自動的に作成する低解像度のファイルです。ファイルサイズが小さいのでオリジナル画像を開くより高速に表示することができます。

証明書の発行機関

証明書の発行機関（例えば VeriSign など）は、証明書の持ち主がパブリックキーの所有者であることを証明するデジタル証明書を交付する期間です。

Extensisの連絡

Extensis

1800 SW First Avenue, Suite 500
Portland, OR 97201
電話（無料）：(800) 796-9798
電話：(503) 274-2020
Fax：(503) 274-0530
Web： <http://www.extensis.com>

Extensis ヨーロッパ

Suite 18, Newton House
Kings Park Road, Moulton Park
Northampton NN3 6LG, United Kingdom
電話：+44 (0)1604 654 270
Fax：+44 (0)1604 654 268
Email： info@extensis.co.uk

カスタマーサービス

Web：
<http://www.extensis.com/customerservice/>
パッケージ内の案内をご覧ください。

もしくは国内販売代理店までお問い合わせください。

技術サポート

技術サポートにご連絡いただく場合は、次の情報をご用意ください。

- お客様のシリアル番号
- お客様のコンピュータの設定（オペレーティングシステム、メモリ、ハードディスクドライブ、コンフィギュレーションなど）
- ご質問、または問題の説明（何がどういときに起こったのかを具体的に）
- 電話番号（担当者からお客様への電話を希望される場合）

さらに、表示されたエラー番号またはメッセージおよび、関連するかもしれないと思われるその他の情報を書き留めておいてください。

よくある質問とその答え、トラブルシューティングのヒントについては、次のアドレスから Extensis の Web サイトをご利用ください。 <http://www.extensis.com/>

電話によるサポート

北米では、(503) 274-7030 にご連絡ください。

ヨーロッパでは、+44 (0) 1604-654-270 にご連絡ください。

日本国内では、製品パッケージに同梱されている案内をご覧ください。

索引

D

- DBA ツール, 95
 - SQL クエリーの実行, 97
 - データベースとの接続, 96
 - データベースバージョンのアップグレード, 96
 - トラブルシューティング, 98
 - 起動, 95
- DSN
 - MySQL Mac での作成, 89
 - MySQL Mac のデータソースをカタログとして使う, 90

E

- Enterprise モジュール, 80
 - インストール, 81
 - 最適化, 80
- extensis.admin.log, 57
- extensis.server.log, 57

H

- HTTPS, 27

J

- JBoss AJP, 25
- JBoss HTTP/ウェブサービスのポート, 23
- JBoss ウェブサービス, 25
- jetty.log, 57
- Jetty ウェブアプリケーションのポート, 23
- JMX プール済みポート, 25

L

- LDAP, 42

M

- Media Engine のバージョン, 18
- Media Engine メニュー, 19
- MediaRich 組み込みサーバーのポート, 25
- MediaScripts
 - 開発, 75
 - 組み込み, 76
 - 有効化, 76
- media-scripts.xml, 77
- Microsoft SQL Server, 92
- MySQL Mac, 82, 84
 - ODBC データソースの作成, 89
 - カタログの作成, 87
 - サーバーインスタンスの作成, 85
 - ダウンロード, 82
 - データベースユーザー認証, 88
 - データベースの作成, 87
 - ユーザーアカウントの作成, 86
- MySQL Server ダウンロード, 82
- MySQL Windows, 90
 - MyODBC のインストール, 91
 - MySQL server のインストール, 90
 - データベースの作成と DSN, 91
- MySQL Workbench ダウンロード, 82

N

- NetMediaMAX, 67
 - NetPublish, 67
 - Portfolio Media Engines, 67
 - インストール概要, 71
 - ウェブクライアント, 67
 - システム必要条件, 72
 - ネットワークアクセス, 72
 - 活用事例, 68

O

- ODBC /Connector ダウンロード, 82
- ODBC Administrator ダウンロード, 82
- ODBC ドライバ, 93
- Oracle, 93

P

- Portfolio Enterprise モジュール, 80
- Portfolio Server Admin Web インターフェイス, 17
- Portfolio Server アンインストール, 16
- Portfolio Server の起動, 22
- Portfolio Server の再起動, 22
- Portfolio Server の停止, 22
- Portfolio のバージョン, 18

Q

- QuickFind
 - 検索パラメータの設定, 63

R

RMI ネーミングサービス, 25

S

Server Admin Web インターフェイス, 17

SQL Connect

インストール, 81

SQL サーバー

最適化, 80

SQL データベース

公開, 94

SQL データベースアップデート, 96

SQL データベースのアップデート, 96

SQL データベース管理ツール, 95

SSL, 27

T

TextWrangler ダウンロード, 82

W

Windows 認証, 59

設定ファイル, 59

あ

アクセスレベル, 41, 42

アクセスレベルメニュー, 19

アクティブディレクトリ, 42

アセット処理のログ, 57

い

インストール

Portfolio Server, 15

インストール概要, 14

NetMediaMAX, 71

う

ウェブクライアント, 62

アクセスレベル, 41

管理, 62

お

オートシンク, 50, 53

フォルダの設定, 52

新規フォルダの作成, 50

停止, 53

オープンディレクトリ, 42

か

カスタムフィールド, 49

カタログ

MySQL Mac での作成, 87

MySQL Mac のデータソースを
カタログとして使う, 90

カスタマイズ, 49

バックアップ, 54

ユーザーメンバシップ, 40,
42

既存のカタログの更新, 12

新規作成, 33

カタログのバックアップ, 54

カタログのメンバシップ, 42,
43

カタログの管理, 49

カタログの種類, 35

カスタム作成, 36

カタログへのメンバシップ, 40

カタログメニュー, 19

カタログ管理者のアクセラレ
ベル, 41

カタログ作成, 33

カタログ作成オプション, 49

く

グローバル設定メニュー, 19

さ

サーバー

起動, 22

再起動, 22

停止, 22

サーバーインスタンス

MySQL Mac での作成, 85

し

システムの必要条件

Portfolio Server, 15

システム必要条件

NetMediaMAX, 72

シリアルの入力

Image Pro, 73

シリアル番号, 20, 73

す

スクリプト

開発, 77

作成と組み込み, 76

有効化, 76

スクリプトエラーログ, 57

スクリプトの組み込み, 77

ステータスメニュー, 18

せ

セキュリティ証明書, 27

た

ダウンロード

MySQL Mac, 82

て

- ディレクトリサービス, 42
- ディレクトリサービスメニュー, 19
- データソース
 - MySQL Mac での作成, 89
 - MySQL Mac のデータソースをカタログとして使う, 90
- データベース
 - MySQL Mac での作成, 87
- デフォルト表示, 62

な

- ナビゲーション, 18

ね

- ネイティブのサーバーコンポーネントのポート, 23
- ネットワークアクセス
 - NetMediaMAX, 72

は

- バージョン
 - Media Engine, 18
 - Portfolio, 18
- パーソナライズ
 - Portfolio Server, 20
- はじめに, 18
- パスワードの変更
 - 管理者, 20

ふ

- ブートストラップ JNP サーバー
バインドアドレス, 25
- ブラウザウィンドウ, 18
- プレビュー, 34
 - カタログ登録済みファイル
のプレビュー作成, 35

- 画面プレビューの有効化, 34

へ

- ヘルプ, 18

ほ

- ポート, 23
 - メディアエンジン, 73
 - 外部, 23
 - 競合, 25
 - 内部, 25
- ポートメニュー, 19

ま

- マスタキーリスト, 49

め

- メインウィンドウ, 18
- メディアエンジン
 - ネットワークアクセス, 72
 - ポート, 73
 - 外部エンジンのインストール, 72
 - 外部エンジンの設定, 74
 - 再起動, 79
 - 整合性の設定, 75
- メディアエンジンの再起動, 79
- メディア生成ログ, 57
- メニュー, 18
 - Media Engines, 19
 - アクセスレベル, 19
 - カタログ, 19
 - グローバル設定, 19
 - ステータス, 18
 - ディレクトリサービス, 19
 - ポート, 19

- ユーザー, 19
- ライセンス, 19

ゆ

- ユーザー
 - アクセスレベル, 41, 42
 - カタログへの追加, 40
 - 削除, 43
 - 追加, 39
 - 編集, 42
- ユーザーアカウント
 - MySQL Mac での作成, 86
- ユーザーの管理
 - カタログメンバシップ, 40
- ユーザーの削除, 43
- ユーザーメニュー, 19
- ユーザー接続
 - 現在接続中, 18
 - 最大接続数, 18
- ユーザー認証
 - MySQL Mac データベース, 88
- ら
- ライセンス
 - 削除, 21
- ライセンスの移行, 21
- ライセンスの削除, 21
- ライセンスメニュー, 19

り

- リスナーIP, 59

ろ

- ログ, 57
 - データベースイベント, 61
- ログアウト, 18

ログカテゴリ, 59

漢字

以前のカタログ

更新, 12

閲覧者のアクセスレベル, 41

画面プレビュー, 34

有効化, 34

外部メディアエンジン, 72

Portfolio Server との組み
合わせ, 74

整合性, 75

管理

Portfolio Server Admin

Web インターフェイス, 17

共有

マウント, 53

共有のマウント, 53

言語

サーバー管理画面の変更,
18

最大ユーザー数, 18

最適化

Enterprise モジュール, 80

新機能, 8

接続しているユーザー, 18

設定ファイル, 59

IP アドレスの指定, 60

Windows 認証, 59

データベースイベント, 61

認証, 42

ウェブクライアント, 41

発行者のアクセスレベル, 41

必要条件, 15

編集者のアクセスレベル, 41

例

NetMediaMAX, 68